

ISSN 2434-1134

事業年報

令和6年度

ま え が き

地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所（大安研）では、大阪府と大阪市の地方衛生研究所として住民の健康と生活の安全を守るために、感染症や食品、医薬品、水道等の公衆衛生に関する法令に基づいた試験・検査を実施しています。また、それらに関する調査・研究、研修・指導および公衆衛生情報の収集・解析・提供等の業務を行っています。

健康危機事象の発生時には、公衆衛生行政を科学的かつ技術的に支援する中核組織としての役割を果たします。加えて、令和6年度には大阪府「新型インフルエンザ等対策行動計画」の改訂が行われ、大安研は感染症健康危機事象に備え、大阪府の感染症インテリジェンスに資する情報を府内外から収集・解析し、リスク評価を行う体制を整備することとなりました。これを受けて、大安研では、感染症インテリジェンスを所掌する人材の育成にさらに力を入れていきたいと考えています。

令和6年3月には、紅麹配合食品による健康被害が全国的に発生し、大安研において原因究明のための検査を実施し、同時に疫学調査にも協力いたしました。

令和7年1月には、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）（以下「万博」という。）の開催に向けて、大阪府、大阪市、国立感染症研究所と大安研が共同で、感染症に関するさまざまな情報を収集・解析する「大阪・関西万博感染症情報解析センター」を研究所内に開設しました。また、万博に向けた先進的な研究の一環として、万博会場の下水の解析による病原微生物のサーベイランスを行うための基礎的なデータの収集も行いました。

これらの調査・研究を通して、今後さらに、地域の大学や産業界とも連携し、新しい検査技術の開発やSDGsへの貢献、健康危機管理に資する研究と人材の育成にますます力を入れていきたいと考えています。

大阪における公衆衛生の向上、地域住民の安全を守り、健康増進を図ることを使命とした地方衛生研究所としての大安研の事業年報をご覧いただき、今の社会が抱える公衆衛生上の課題の一端をくみ取っていただければ幸いです。

令和7年7月

地方独立行政法人
大阪健康安全基盤研究所
理事長 朝野和典

沿

革

旧大阪府立公衆衛生研究所

- 1880年12月 警察部衛生課に、細菌検査・化学試験を主とした検査室を設置
- 1948年12月 大阪府細菌検査所と改称
- 1949年10月 部門を増設して大阪府立衛生研究所を設置
- 1960年7月 府立労働科学研究所を統合、大阪府立公衆衛生研究所を設置

旧大阪市立環境科学研究所

- 1906年8月 市立大阪衛生試験所創設
- 1921年4月 大阪市立衛生試験所と改称
- 1942年6月 大阪市立生活科学研究所と改称
- 1950年9月 大阪市立予防衛生研究所及び市立防疫所の検査業務を統合、大阪市立衛生研究所と改称
- 1974年12月 大阪市立環境科学研究所と改称

-
- 2017年4月 大阪府立公衆衛生研究所と大阪市立環境科学研究所の衛生部門を統合し、地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所を設置し、総務部（総務課、管理課、庶務課）、企画部（研究企画課、健康危機管理課、疫学解析研究課、精度管理室）、微生物部（細菌課、ウイルス課、微生物課）、衛生化学部（食品化学1課、食品化学2課、医薬品課、生活環境課）の4部を置く
 - 2018年4月 公衆衛生部を置き、企画部より健康危機管理課、疫学解析研究課を移管
 - 2023年1月 新施設に移転し、総務部（総務課、管理課）、企画部（研究企画課、信頼性保証室）、公衆衛生部（健康危機管理課、疫学解析研究課）、微生物部（細菌課、ウイルス課）、衛生化学部（食品安全課、食品化学課、医薬品課、生活環境課）の5部11課1室に再編

目 次

まえがき

沿 革

事業概要

1. 組織と業務	3
2. 施設の状況	4
3. 歳入及び歳出	5
4. 研究備品の整備状況	5
5. 試験実施件数	6
6. 調査研究実施状況	8
7. 教育、研修	12
8. 広報、報道	14
9. 受賞、表彰	16
10. 委員会等	17

課別事業内容等

企画部

研究企画課	23
信頼性保証室	25

公衆衛生部

健康危機管理課	29
疫学解析研究課	31

微生物部

細菌課	35
ウイルス課	41

衛生化学部

食品安全課	51
食品化学課	57
医薬品課	67
生活環境課	71

地研関連事業	79
--------	----

業績集

誌上発表	83
学会発表	89

事業概要

1. 組織と業務

表 1.1 所の組織と業務

(令和7年3月31日現在)

役員	部	課	主な業務
理事長 副理事長	総務部	総務課	人事労務、庶務、法務、文書管理
		管理課	予算、経理、契約、財産管理
理事 監事(非常勤)	企画部	研究企画課	法人業務の企画調整
		信頼性保証室	試験検査の信頼性確保業務
公衆衛生部	健康危機管理課	健康危機管理情報の収集と提供 基幹感染症情報センターの運営	
	疫学解析研究課	疫学解析研究業務 循環器疾患予防業務	
微生物部	細菌課	食品中の微生物の試験検査・試験法の開発 食中毒の原因因子の検索・同定 感染症の原因病原体の検索・確定診断、感染症発生动向調査	
	ウイルス課	病原体を媒介する動物、節足動物の調査研究 感染症に関する疫学調査・解析・研究	
衛生化学部	食品安全課	食品中の残留農薬、食品添加物、重金属等の試験検査、分析法の開発 栄養成分や機能成分等の試験検査、特定保健用食品の許可試験等	
	食品化学課	医薬品等の品質確保および健康被害防止に関する試験・研究	
	医薬品課	危険ドラッグに関する試験・研究	
	生活環境課	水道水等の微量有害物質の検査・研究 環境中の放射能調査、環境微生物の検査・研究	

表 1.2 部課別・職種別現員表

(令和7年3月31日現在)

		研究職	事務職	技術職	技能労務職	合計
理事長		1				1
副理事長			1			1
理事			1			1
総務部	総務課		10	2		12
	管理課		7			7
企画部	研究企画課	3	1			4
	信頼性保証室	3				3
公衆衛生部	健康危機管理課	6				6
	疫学解析研究課	3		3		6
微生物部	細菌課	21		1	1	23
	ウイルス課	23			1	24
衛生化学部	食品安全課	20				20
	食品化学課	16		1		17
	医薬品課	10				10
	生活環境課	14				14
合計		120	20	7	2	149

注 1) 公衆衛生部長は疫学解析研究課の項に、微生物部長は細菌課の項に、衛生化学部長は食品安全課の項に掲出

注 2) 食品安全課兼総務課課員は食品安全課の項、ウイルス課兼総務課課員はウイルス課の項に掲出

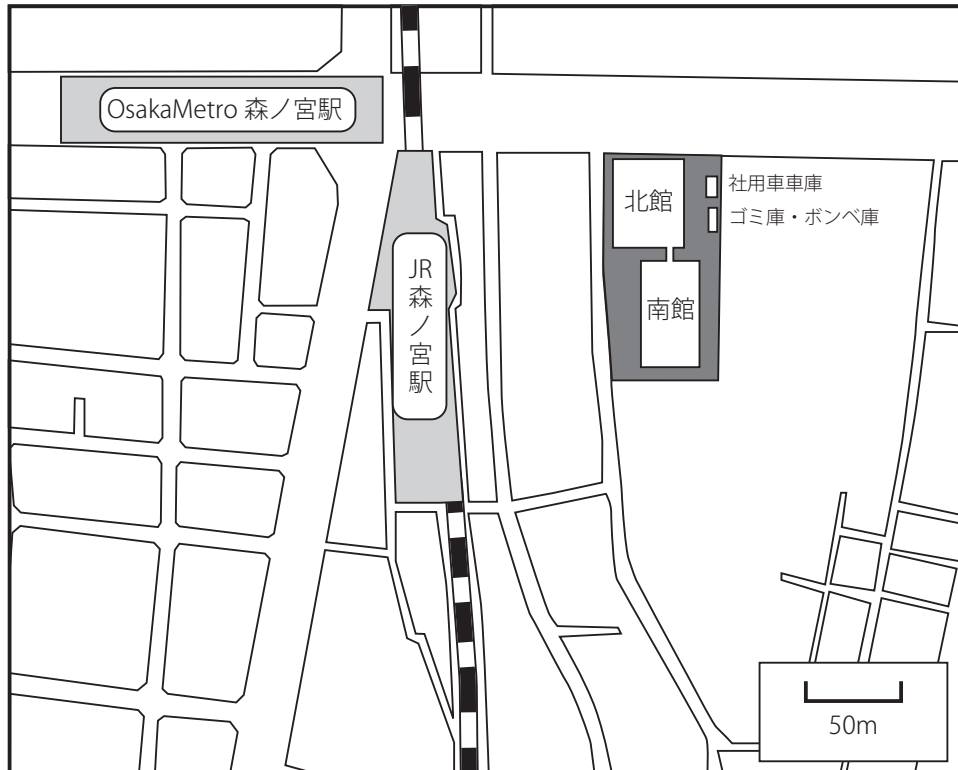
注 3) 技術職は、医師、薬学職、保健師、電気職、機械職である

注 4) 技能労務職は、運転手、その他単純な労務に雇用される者である

注 5) 再雇用職員を含み、非常勤職員、契約派遣職員を除く

2. 施設の状況

表 1.3 建物の概要



(令和7年3月31日現在)

名称	構造	建面積 (m ²)	延面積 (m ²)	備考
北館	SRC (鉄骨鉄筋コンクリート造) 地上13階	1,421.06	12,023.10	
南館	PCaPC (プレキャスト・プレストレストコンクリート造) 地上8階	1,351.97	8,879.14	渡り廊下 含む
ゴミ庫・ ボンベ庫	鉄骨造	60.12	60.12	
社用車庫	軽量鉄骨造	63.37	63.37	
合計 (m ²)		2,896.52	21,025.73	

3. 歳入及び歳出

表 1.4 令和6年度決算報告書

(単位：百万円)

区分	決算額
収入	
運営費交付金	2,378
補助金	9
自己収入	252
検査手数料収入	69
受託研究収入	23
受託事業収入	91
雑入	69
前中期目標期間繰越積立金取崩	75
計	2,715
支出	
業務費	547
業務経費	447
受託研究費	17
受託事業費	84
一般管理費	480
人件費	1,488
補助事業費	9
計	2,524

4. 研究備品の整備状況

表 1.5 新たに取得した主要研究備品

(購入価格 百万円以上)

備品名	型式
超低温フリーザー	PHC 社製 MDF-C2156VAN-PJ 他 5 台
リアルタイム PCR	ロシュ・ダイアグノスティックス社製 LightCycler 96 System
	Thermo Fisher Scientific 社製 QS1-TIP 2 台
細胞破碎装置	安井器械社製 マルベール・ス・ジョッカー MB3200(S)
	フナコシ社製 MPB Fastprep-24 5G
スーパー細胞融合装置	ネッパジーン社製 ECFG21
ICP 発光分光分析装置	Thermo Fisher Scientific 社製 iCAP PRO XP DUO
顕微 FT-IR システム	Thermo Fisher Scientific 社製 Nicolet iN10MX
高速液体クロマトグラフ	島津製作所社製 NexeraXR システム
液体クロマトグラフの分析条件開発ソフトウェア	クロムソード社製 ChromSwordAuto、OffLine、ReportViewer
微量高速冷却遠心機	トミー精工社製 MDX-310F
溶媒濃縮装置	バイオクロマト社製 CEV10A-SU-P1 コンビニ・エバポ C10
サンプル前処理装置	アジレントテクノロジー社製 7696A
全自動固相抽出装置	アイスティサイエンス社製 ST-L400
職員端末機	富士通社製 LIFEBOOK A5513/R FMVA0F005 62 台

5. 試験実施件数

表 1.6 (1) 衛生検査実施件数

		依頼によるもの				依頼によらないもの	計	
		住民	保健所	保健所以外の行政機関	その他（医療機関、学校、事業所等）			
結核	分離・同定・検出			23	5		1	29
	核酸検査			143	59	30	455	687
	化学療法剤に対する耐性検査			21	5		1	27
性病	梅毒					173		173
	その他			1			244	245
ウイルス・リケッチア等検査	分離・同定・検出	ウイルス		1,428	1,490	31	113	3,062
		リケッチア		56	18		80	154
		クラミジア・マイコプラズマ						
	抗体検査	ウイルス		10	257		379	646
		リケッチア		24	121		317	462
		クラミジア・マイコプラズマ						
病原微生物の動物試験								
原虫・寄生虫等	原虫			3		1		4
	寄生虫		1			1	2	4
	そ族・節足動物			3,349	4,705		333	8,387
	真菌・その他						24	24
食中毒	病原微生物検査	細菌		339	472			811
		ウイルス		783	101			884
		核酸検査		395	451			846
	理化学的検査				2			2
	動物を用いる検査							
	その他						4	4
	血液検査（血液一般検査）							
臨床検査	血清等検査	エイズ（HIV）検査		19	70	82	78	249
		HBs 抗原、抗体検査					103	103
		その他						
	生化学検査	先天性代謝異常検査						
		その他						
	尿検査	尿一般						
		神経芽細胞腫						
		その他						
	アレルギー検査（抗原検査・抗体検査）							
その他								
食品等検査	微生物学的検査			984	1,694		921	3,599
	理化学的検査（残留農薬・食品添加物等）			522	1,335	4		1,861
	動物を用いる検査				11			11
	その他							
（上記以外）細菌検査	分離・同定・検出		4	727	586	43	107	1,467
	核酸検査			481	552	39	237	1,309
	抗体検査			2				2
	化学療法剤に対する耐性検査			168	194	33	107	502

表 1.6 (2) 衛生検査実施件数

		依頼によるもの				依頼によらないもの	計	
		住民	保健所	保健所以外の行政機関	その他（医療機関、学校、事業所等）			
医薬品・家庭用品等検査	医薬品			78			78	
	医薬部外品			128			128	
	化粧品			35			35	
	医療機器			4			4	
	毒劇物							
	家庭用品			310			310	
	その他							
栄養関係検査								
水道等水質検査	水道原水	細菌学的検査						
		理化学的検査		12	47	1	20	80
		生物学的検査			39			39
	飲用水	細菌学的検査			7			7
		理化学的検査			91	1	20	112
	利用水等（プール水等を含む）	細菌学的検査			22	36	50	108
理化学的検査			14	20	33		67	
廃棄物関係検査	一般廃棄物	細菌学的検査						
		理化学的検査						
		生物学的検査						
	産業廃棄物	細菌学的検査						
		理化学的検査						
		生物学的検査						
環境・公害関係検査	大気検査	SO ₂ ・NO ₂ ・OX等						
		浮遊粒子状物質						
		降下煤塵						
		有害化学物質・重金属等						
		酸性雨						
		その他						
	水質検査	公共用水域			1			1
		工場・事業場排水			1			1
		浄化槽放流水			37			37
		その他	1	1	35			37
	騒音・振動							
	悪臭検査							
	土壌・底質検査							
	環境生物検査	藻類・プランクトン・魚介類						
		その他						
	一般室内環境							
その他								
放射能	環境試料（雨水・空気・土壌等）			2,292			2,292	
	食品			38			38	
	その他			31			31	
温泉（鉱泉）泉質検査				31			31	
その他								
総計		6	9,505	15,375	508	3,596	28,990	

6. 調査研究実施状況

表 1.7 通常研究

主担	研究題名
疫学解析研究課	疾病予防と健康増進に関する疫学解析研究
微生物部	腸管感染症に関する研究
微生物部	呼吸器感染症に関する研究
ウイルス課	HIV およびその他の性感染症に関する研究
微生物部	衛生動物を介する感染症に関する研究
食品安全課	器具・容器包装等に関する衛生学的研究
食品安全課 食品化学課	食品に含まれる健康危害物質に関する衛生学的研究
食品化学課	食品中の残留農薬等に関する研究
食品安全課 食品化学課	食品の安全性、機能性および品質に関する研究
医薬品課	医薬品等の品質確保及び健康被害防止に関する研究
医薬品課	危険ドラッグに関する研究
生活環境課	水環境に関する衛生学的研究
生活環境課	生活衛生に関する総合研究

表 1.8 (1) 受託・共同研究

所属	受託研究題名
公衆衛生部	疫学調査と流行動向変化に基づいた、下痢症ウイルスに対する革新的粘膜ワクチン、抗体医薬、迅速診断法、およびインビトロ評価系の開発
疫学解析研究課	生活習慣病予防のための行動変容を評価する包括的な社会心理行動指標に関する研究
ウイルス課	国内流行 HIV 及びその薬剤耐性株の長期的動向把握に関する研究
ウイルス課	ノロウイルス検出キットの性能評価
ウイルス課	セルロース分離剤を用いたピコナノウイルスの精製検討
ウイルス課	性感染症病原微生物検出試薬の性能評価
ウイルス課	HTLV-1 水平感染の動向と検査法・検査体制の整備
食品安全課	気候変動を考慮したかび毒汚染実態解明並びに汚染低減に関する研究
生活環境課	建築物飲料水水質検査における定量精度に影響を及ぼす因子の解明ならびに改良分析法の提案に関する研究
生活環境課	令和6年度水道水及び原水における化学物質等の実態を踏まえた水質管理の向上に資する調査検討
所属	共同研究題名
細菌課	簡易測定手法を利用した長崎県における麻痺性貝毒モニタリング調査
細菌課	消化器感染症に対する診断システムに関する研究
細菌課	本邦におけるマクロライド耐性百日咳菌（MRBP）の感染実態調査およびその解析
細菌課	小児における細菌性感染症に関する研究
細菌課	下水由来の薬剤耐性菌に関する研究

表 1.8 (2) 受託・共同研究

所属	共同研究題名
細菌課	下水由来の薬剤耐性菌に関する研究
細菌課	質量分析法を用いたペロ毒素新規サブタイプの解析および微生物検査への MALDI の応用研究
細菌課	食中毒原因菌 <i>Campylobacter jejuni</i> の原生生物を利用した環境生存機構の解明
細菌課 ウイルス課	下水を用いた病原体及び薬剤耐性菌の検出とサーベイランスへの活用
細菌課 ウイルス課	ウイルスが誘導する液性免疫に関する研究
ウイルス課	病原体に対する特異抗体を用いた迅速診断キットの開発
ウイルス課	HIV 検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究
ウイルス課	迅速 PCR 検査法に関する研究
ウイルス課	メタゲノム解析を用いた感染症の流行因子及び病原因子の探索
ウイルス課	エムボックスの迅速診断キットの開発
ウイルス課	下痢症ウイルスの腸管上皮細胞への侵入機構の解明
ウイルス課	ヒトノロウイルスのオルガノイドを用いる培養系の確立とその応用
ウイルス課	下痢症ウイルスに対するワクチン・抗体の開発
ウイルス課	ヒトパラインフルエンザウイルス 3 型の抗体作製と性能評価
ウイルス課	住民と育む未来型知的インフラ創造拠点
ウイルス課	重症熱性血小板減少症候群ウイルス (SFTSV) の検出法確立に関する研究
食品安全課	ポリエチレンテレフタレート (以下「PET」という) ケミカルリサイクルにより製造された PET を食品用包装材へ適用する場合の当該 PET の品質・安全性の評価試験系構築に関する研究
食品安全課	オクラトキシン A に対するモノクローナル抗体の作製に関する研究
食品化学課	植物体におけるディルドリン輸送の解明
食品化学課	生体試料中の各種生理活性物質存在量の解明
食品化学課	住環境の衛生微生物学的安全保証のための病原微生物オンサイトモニタリングデバイスの開発
食品化学課	LC-QTOFMS を用いたジフェニルグアニジン塩素化体の探索
生活環境課	生活用水の微生物生態学的水質評価法に関する研究

表 1.9 (1) 文部科学省科学研究費補助金による研究

研究種目	研究題名	所属	研究者
基盤 C	国内で流行するノロウイルスの包括的ゲノム解析および病原性の比較解析	公衆衛生部	本村和嗣
若手	呼吸器感染症の時空間的拡大機構の解明と流行予測に関する疫学的研究	疫学解析研究課	三山豪士
若手	災害が心身の健康に及ぼす長期的な影響と発症予防に寄与する要因についての疫学研究	疫学解析研究課	吉田知克
基盤 C	麻痺性貝毒食中毒の発生防止に資する普及性の高い本貝毒モニタリング法の開発	微生物部	川津健太郎
基盤 C	セレウス菌食中毒の重篤患者発生予防：調理食品での毒素産生影響要因の解明を中心に	細菌課	河合高生
基盤 C	日本の結核菌株間の疫学的関連を判別するためのゲノム変異の閾値の解明	細菌課	田丸亜貴
基盤 C	食中毒起因カンピロバクターが保有する調理環境ストレス適応因子の探索	細菌課	中村寛海
基盤 C	ジフテリア様症状を引き起こすコリネバクテリウム・ウルセランスの迅速診断法の開発	細菌課	坂田淳子
基盤 C	院内感染由来 VRE が保有する vanA 線状プラスミドの多様性とその分子疫学マーカーの探索	細菌課	原田哲也
基盤 C	河川に分布するカンピロバクターにはヒトへの感染リスクがあるか？	細菌課	梅川奈央

表 1.9 (2) 文部科学省科学研究費補助金による研究

研究種目	研究題名	所属	研究者
基盤 C	水系環境から分離されるレジオネラ属菌のヒトへの病原リスク研究	細菌課	平井佑治
若手	新型エンテロトキシンによるブドウ球菌食中毒発生リスクの解明	細菌課	梅田薫
若手	ウエルシュ菌新型エンテロトキシン BEC のレセプターの探索と病原性発現機構の解明	細菌課	余野木伸哉
若手	都市構造の変化が結核罹患構造へおよぼす影響に関する研究	細菌課	山本香織
若手	Pan-RNA-Seq による新興病原細菌 - アルジェンテウス菌の遺伝子系統間の発現量比較解析	細菌課	若林友騎
若手	カンピロバクターの共生菌由来シデロフォア獲得に着目した病原性発揮機序の解明	細菌課	白石志帆
国際 B	多重解析相による腸管感染症の病原体伝搬カイネティクスの解明	ウイルス課	左近直美
基盤 C	外来植物の送粉者は送粉シンドロームから予測できるか？	ウイルス課	山崎一夫
基盤 C	医療従事者に感染リスクの高い疥癬の迅速診断法の開発 - ベッドサイド診断への応用 -	ウイルス課	青山幾子
基盤 C	ヒトパラインフルエンザウイルス 3 型の診断補助薬開発と予防・治療に向けた基礎研究	ウイルス課	改田厚
基盤 C	修飾麻疹の感染伝播リスクに関するウイルス学および免疫学的評価	ウイルス課	倉田貴子
基盤 C	新型コロナウイルスに対する血清疫学調査およびワクチンによる抗体応答に関する研究	ウイルス課	廣井聡
基盤 C	新生児・早期乳児で重症化するパレコウイルス A3 感染症の迅速診断法と抗体価測定法開発	ウイルス課	中田恵子
基盤 C	ヒト体内における風疹ウイルスと宿主免疫の攻防	ウイルス課	上林大起
基盤 C	風疹患者体内で活性化する免疫の司令塔 T 細胞の風疹ウイルス排除における役割の解明	ウイルス課	上林大起
基盤 C	食品のウイルス汚染を評価するための高感度新規汚染指標マーカーの検討	ウイルス課	山元誠司
基盤 C	日本近海産魚介類に寄生するアニサキス属幼線虫の虫種規定要因の解明	ウイルス課	馬場孝
基盤 C	ワクチンの導入は RS ウイルスの流行に影響を及ぼすか	ウイルス課	小山芽以
若手	ノロウイルス流行予測の基礎データとなる RdRp によるゲノム複製に関する研究	ウイルス課	白井達哉
基盤 C	米のメチル水銀汚染低減化を目指した水田土壌における無機水銀のメチル化機序の解明	食品安全課	柿本幸子
基盤 C	重金属の化学形態別一斉分析法の確立と乳幼児における健康リスク評価及びその低減化	食品安全課	柿本幸子
基盤 C	健康食品に含まれるアレルギー原因食物由来タンパク成分の一斉分析法の開発	食品安全課	清田恭平
基盤 C	損傷マクロレオシドを指標とした照射食品検知法の低線量照射食品への応用	食品安全課	藤原拓也
若手	表面プラズモン共鳴を利用したイムノセンサによるアレルギー食品の一斉分析法の開発	食品安全課	山崎朋美
基盤 C	食品中におけるピロリジジナルカロイド類の新規分析法の開発と食品汚染実態の解明	食品化学課	仲谷正
基盤 C	食用種子アレルギーに対する 2S アルブミンファミリー一斉分析法の確立	食品化学課	吉光真人
若手	横紋筋融解症を発症させる毒キノコの迅速鑑別方法の確立	食品化学課	山口瑞香
若手	物質群をターゲットにした食品中化学物質の高精度検出法の開発	食品化学課	松井啓史
スタート 支援	加工食品を対象とした残留抗生物質分析法の開発	食品化学課	平田祥太郎
基盤 C	健康食品に添加された新規医薬品類自体の標準品を使用しない確認・定量システムの構築	医薬品課	田上貴臣
基盤 C	新規乱用薬物の微量代謝物を対象とした絶対構造解析法の構築	医薬品課	土井崇広
基盤 C	危険ドラッグとして乱用されるオピオイド系薬物の実質的なリスク評価研究	医薬品課	浅田安紀子
基盤 C	乱用薬物・代謝物双方に着目した肝障害の寄与因子解明とリスク評価	医薬品課	東雄貴
基盤 B	水道水におけるアメーバと寄生病原細菌との関連性および潜在的感染リスクの解明	生活環境課	枝川亜希子
基盤 C	PFAS の一括規制に向けた環境残留性に着目した構造的特徴の解析	生活環境課	高木総吉
基盤 C	住宅内装材から放散されるアレルギー誘因化学物質の曝露指標の確立と子どもの曝露実態	生活環境課	吉田俊明

表 1.9 (3) 文部科学省科学研究費補助金による研究

研究種目	研究題名	所属	研究者
基盤 B*	大規模コホート研究の統合解析による認知症予防エビデンスの究明	疫学解析研究課	清水悠路
基盤 B*	壮年期の社会心理的負担と軽度認知障害に関する研究	疫学解析研究課	清水悠路
挑戦的萌芽*	血液バイオマーカーを用いた栄養評価による認知症発症リスク解明の疫学研究	疫学解析研究課	清水悠路
国際 B*	ガーナにおける薬剤耐性菌エンデミック実態の解明	細菌課	安楽正輝
基盤 A*	途上国社会に蔓延する薬剤耐性菌の耐性安定化機序解明	細菌課	河原隆二 山口貴弘
基盤 B*	プラスミド性薬剤耐性菌のヒト保菌及び腸内細菌耐性拡散機構の解明	細菌課	山口貴弘
挑戦的萌芽*	感染性細菌の宿主適応リスクを見据えるフィンプリオミクスの創出	細菌課	中村寛海
基盤 B*	創薬を見据えた革新的ヒトノロウイルス in vitro 増殖法の確立	ウイルス課	左近直美
基盤 B*	捕食者体内の攻防：カエル類と昆虫類における進化的軍拡競争の解明	ウイルス課	山崎一夫
挑戦的萌芽*	スズメバチ類をめぐる音響擬態リングの解明	ウイルス課	山崎一夫
基盤 C*	大気中マイクロプラスチックの長期変動解析と発生源解明および呼吸器系作用部位の推定	食品安全課	尾崎麻子
基盤 C*	マイクロプラスチックが農用地における重金属の動態に及ぼす影響	食品安全課	尾崎麻子
基盤 B*	難分解性有機フッ素化合物の包括的毒性評価—酵母を用いたリスク低減への挑戦	食品化学課	永吉晴奈

* は研究分担者

表 1.10 その他の研究助成金による研究

補助金等事業者名	研究題名	所属	研究者
厚生労働科学研究費補助金*	循環器疾患及び糖尿病、COPD 等の生活習慣病の個人リスク及び集団リスクの評価ツールの開発と応用のための研究	疫学解析研究課	清水悠路
厚生労働科学研究費補助金*	腸管出血性大腸菌 (EHEC) 感染症等の病原体に関する解析手法及び共有化システム構築のための研究	細菌課	原田哲也
厚生労働科学研究費補助金*	ワクチンの有効性・安全性の疫学的評価と予防接種政策の最適化に資する研究	ウイルス課	森川佐依子
厚生労働科学研究費補助金*	食品衛生検査施設等の検査の信頼性確保に関する研究	食品安全課	新矢将尚
厚生労働科学研究費補助金*	環境中における薬剤耐性微生物及び抗微生物剤の調査法等の確立のための研究	食品化学課	山口進康
厚生労働科学研究費補助金*	公衆浴場の衛生管理の推進のための研究	生活衛生課	枝川亜希子
株式会社ヤクルト本社	<i>Campylobacter jejuni</i> に関する研究	公衆衛生部	本村和嗣
大同生命厚生事業団	多剤耐性アシネトバクター・パウマニを溶菌する新規バクテリオファージの探索と解析	細菌課	松田由美恵
大同生命厚生事業団	大阪府におけるトコジラミの生息実態および殺虫剤抵抗性保有状況の調査	ウイルス課	佐々木麻綾
公益財団法人 山崎香辛料振興財団	DNA 損傷ヌクレオシドである 5,6-ジヒドロチミジン指標とした香辛料の放射線照射履歴の検知	食品化学課	福井直樹

* は研究分担者

7. 教育、研修

表 1.11 府内関係職員への検査業務に関する技術研修

担当課	テーマ	対象	回数
信頼性保証室	検査業務における信頼性確保研修	大阪府食の安全推進課職員等	1
健康危機管理課 細菌課	感染症実務者研修（薬剤耐性菌）	大阪府保健所職員等	1
健康危機管理課 ウイルス課	疫学研修	大阪府保健所職員等	2
健康危機管理課	積極的疫学調査研修	大阪市保健師	1
健康危機管理課	大阪・関西万博に係る疑似症サーベイランス研修会	大阪府保健所職員等	2
微生物部	生物テロ実務者研修	大阪府警察本部警察官等	1
細菌課	結核菌のゲノム解析を用いた分子疫学調査	大阪府保健師	1
細菌課	検査技術研修（細菌検査）	大阪府食品衛生監視員等	3
細菌課	バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）感染症について	大阪府保健師等	1
細菌課	三類感染症検査に関する研修	大阪府保健所・大阪市保健所職員	2
ウイルス課	感染症媒介蚊に関する研修	大阪府環境衛生監視員等	1
ウイルス課	HTLV-1 感染症に関する研修	大阪府各自治体保健師	1
ウイルス課	蚊媒介感染症対策訓練	大阪府健康医療部職員等	1
ウイルス課	HIV/ エイズ・梅毒の現況と検査について	大阪府保健師	1
ウイルス課	環境衛生に係る業務及び蚊のサーベイランスについて	大阪府保健所職員・インターンシップ生	1
ウイルス課	蚊等衛生害虫に係る同定研修	大阪市生活衛生監視事務所・保健福祉センター職員	2
ウイルス課	核酸検出検査技術研修及び新興感染症発生時の初動体制の構築について	大阪市保健衛生検査所・保健所職員	1
ウイルス課	ねずみの外部寄生虫同定研修	大阪市生活衛生監視事務所・保健福祉センター職員	1
食品安全課	検査技術研修（理化学検査・亜硝酸根）	大阪府食品衛生監視員等	1
食品化学課	検査技術研修（合成抗菌剤・残留農薬）	大阪府食品衛生監視員等	4
医薬品課	医薬品分析	大阪府薬事監視員等	4
生活環境課	大阪府水道水質検査外部精度管理	大阪府健康医療部職員等	1
生活環境課	浴場等レジオネラ属菌対策に関する研修	大阪府環境衛生監視員	1
	合計		35

表 1.12 国内外の公衆衛生関係者に対する研修・講演・見学

担当課	テーマ	対象	人数
総務課 健康危機管理課 ウイルス課	施設概要説明及び施設見学等	大阪公立大学医学部生等	16
細菌課	食品収去等に係る検査業務概要説明及び施設見学	北海道大学大学院獣医学研究院大学院生	1
細菌課 ウイルス課	微生物部関連実験室見学	神戸市健康科学研究所職員	3
ウイルス課	HIV を含む各種感染症コントロールのための検査技術とサーベイランス強化	独立行政法人国際協力機構（JICA）研修生	9
ウイルス課	アニサキスの検出及び顕微鏡観察	大阪府立住吉高等学校生等	4
ウイルス課	麻しん・風しん検査研修	東大阪市健康部保健所職員	2
微生物部 衛生化学部	施設内視察	厚生労働省	5
食品安全課 食品化学課 生活環境課	業務概要説明及び施設見学	大阪公立大学獣医学部生（3.4年生）等	83
食品安全課	SSH ミラクルチャレンジ「大阪健康安全基盤研究所研修」	大阪府立生野高等学校生等	11
食品安全課 食品化学課	インターンシップ実習	武庫川女子大学食物栄養科学部生	5
食品化学課	環境医学実習	大阪大学医学部生	3
食品化学課	衛生化学講義及びヒスタミン検査実習	大阪医科薬科大学看護学部生等	6
食品化学課	施設見学	公立鳥取環境大学環境学部生等	11
医薬品課	近畿府県薬務主管課長会 GMP 研修	各府県 GMP 調査員	27
生活環境課	建築物飲料水水質検査業外部精度管理	建築物飲料水水質検査業者	18
	合計		204

表 1.13 外部研修等への講師派遣

講演日	内容	講演会等名	担当部署
R6.6.13	信頼性確保の取り組み	令和6年度食品衛生検査施設信頼性確保部門責任者等研修会（厚生労働省）	信頼性保証室
R6.12.13	麻しん疑い患者への来院から確定診断までの対応	第2回四條畷保健所管内感染対策ネットワーク会議	健康危機管理課
R7.1.22	侵襲性髄膜炎感染症への対応	第5回健康危機管理担当保健師研修・連絡会（大阪市保健所）	健康危機管理課 細菌課
R6.5.31	福島県における災害医療の取り組み	防犯防災総合展 2024（防犯防災総合展実行委員会等）	疫学解析研究課
R6.9.14	GDF-15の影響を考慮した就寝前間食と動脈硬化の関係	第6回臨床血管健康研究会（特定非営利活動法人血管健康増進協会）	疫学解析研究課
R6.12.18	特定健診の受診率向上	大阪府国保ヘルスアップ支援事業「特定健診未受診者対策支援事業」検討会（大阪府健康医療部）	疫学解析研究課
R6.5.9	結核菌のゲノム解析を用いた分子疫学調査	感染症保健師向け研修（大阪府健康医療部）	細菌課
R6.7.8	食中毒を引き起こす各種菌について	令和6年度食品衛生研修会（公益社団法人大阪食品衛生協会）	細菌課
R6.8.1	結核対策における結核分子疫学の基本と役割	結核対策における結核分子疫学研修会（大阪市西成区役所）	細菌課
R6.9.18	結核分子疫学	大阪市結核解析評価検討会 9月（大阪市保健所）	細菌課
R6.10.3	薬剤耐性菌と大阪市におけるサーベイランスについて	薬剤耐性菌に関する研修会（大阪市保健所）	細菌課
R6.10.23 R6.10.25	ウエルシュ菌検査法及び細菌の分子疫学	国立保健医療科学院短期研修 細菌研修	細菌課
R6.11.19	大阪市における耐性菌サーベイランスー大阪市での耐性菌（CRE、VRE等）の流行状況	第4回 OIPC 加算1 ミーティング（大阪市保健所）	細菌課
R6.11.22	大阪府における結核菌分子疫学	健康危機における結核制圧と薬剤耐性のための最新診断コース（結核研究所）	細菌課
R7.1.28 R7.2.4	知って防ぎましょう！ ネズミが与える衛生被害の実態	食の安全・安心講習会（大阪市中央・東部卸売市場）	細菌課
R6.6.20	蚊の生態と防除	2024年防除作業従事者講習会（一般社団法人大阪ビルメンテナンス協会建築物衛生管理委員会）	ウイルス課
R6.9.17	大阪府内におけるアライグマサーベイランス調査とダニ媒介感染について	第22回大阪府アライグマ対策連絡協議会総会（大阪府環境農林水産部動物愛護畜産課）	ウイルス課
R6.10.8-9	風しんウイルスの遺伝子解析技術	新興再興感染症技術研修（国立保健医療科学院）	ウイルス課
R6.11.14	ノロウイルスの最近の検出状況について及び感染症・食中毒における遺伝子検査のあり方	令和6年度地方衛生研究所等職員向け若手職員セミナー（地方衛生研究所全国協議会）	ウイルス課
R6.11.15	生物剤事案対処における細菌・ウイルスの特性及び対処方法について	NBC 講義（大阪府警察本部）	ウイルス課
R6.12.11	ノロウイルス遺伝子解析と分子疫学	令和6年度食品衛生監視員研修会（大阪府食の安全推進課）	ウイルス課
R6.12.23	HTLV-1及びHTLV-1関連疾患の基礎知識、他	HTLV-1水平感染の動向と検査法・検査体制の整備（chotCAST：大阪検査相談・啓発・支援センター）	ウイルス課
R6.5.29	地方独立行政法人 大阪健康安全基盤研究所について	生命科学キャリア支援講座（摂南大学）	食品化学課
R6.8.2	食の安全における高分解能型質量分析装置の活用	サイエックスフォーラム 2024（株式会社エーピー・サイエックス）	食品化学課
R7.2.20	STQ法を利用した残留農薬の妥当性評価	第6回 STQ法を考える会（株式会社アイスティサイエンス）	食品化学課
R6.12.6	浄化槽の構造、機能等について	令和6年度浄化槽に関する技術研修会（大阪府環境衛生課）	生活環境課
R7.3.12	水道水中のPFOS及びPFOAの分析法について	令和6年度神奈川水道水質検査機関技術研修会	生活環境課

表 1.14 大学等の講師

所属	研究者	大学等教育機関名	期間	講義	回数
健康危機管理課	入谷展弘	大阪公立大学	R6.4.1～R6.9.23	ウイルス感染症学	2
細菌課	河合高生	大阪教育大学	R6.4.1～R6.9.30	微生物学	15
ウイルス課	山崎一夫	滋賀県立大学	R6.9.27～R7.3.31	環境動物学	5
食品安全課	尾崎麻子	大阪公立大学	R6.4.1～R6.9.23	健康へのアプローチ	1
食品化学課	山口進康	大阪大学	R6.4.1～R7.3.31	薬学入門2	1
食品化学課	永吉晴奈	大阪公立大学	R6.9.24～R7.3.31	食品衛生学	7
食品化学課	松井啓史	大阪大学大学院	R6.4.1～R7.3.31	技術指導・助言	3

8. 広報、報道

表 1.15 マスメディア対応

掲載日	報道機関	内容	関係部署
R6.4.16	読売テレビ	マダニの写真	ウイルス課
R6.4.13	毎日放送	食中毒菌の写真	公衆衛生部
R6.5.8	毎日放送	マダニの写真	健康危機管理課
R6.6.22	朝日新聞	マダニの写真	ウイルス課
R6.6.7,9,10	NHK	青カビの写真	細菌課
R6.6.12	朝日新聞	青カビの写真	健康危機管理課
R6.6.14	読売テレビ	ウエルシュ菌の写真	健康危機管理課
R6.6.24	朝日放送テレビ	きのこの写真	食品安全課
R6.6.24	読売テレビ	きのこの写真	食品安全課
R6.7.2	関西テレビ	マダニの写真	健康危機管理課
R6.7.23	テレビ朝日	青カビの写真	健康危機管理課
R6.8.5	NHK	夏休み科学体験	研究企画課
R6.8.16	読売新聞	夏休み科学体験	研究企画課
R6.9.29	CBC テレビ	きのこの写真	食品安全課
R6.10.3・11.1	読売新聞	第1回大阪健康安全基盤研究所公開講座について	研究企画課
R6.10.4	朝日新聞	きのこの写真	食品安全課
R6.10.10	朝日放送テレビ	青カビの写真	健康危機管理課
R6.11.14	TVQ九州放送	インフルエンザウイルスの写真	健康危機管理課
R6.11.20	TVQ九州放送	インフルエンザウイルスの写真	健康危機管理課
R7.1.7	フジテレビ	ヒトメタニューモウイルス感染症について	健康危機管理課
R7.1.8	フジテレビ	ヒトメタニューモウイルスの写真	健康危機管理課
R7.1.7,9,22	テレビ朝日	ヒトメタニューモウイルスの写真	健康危機管理課
R7.1.7,9	TBS テレビ	ヒトメタニューモウイルスの写真	健康危機管理課
R7.1.7,28	フジテレビ	ヒトメタニューモウイルスの写真	健康危機管理課
R7.1.8,11	日本テレビ	ヒトメタニューモウイルスの写真	健康危機管理課
R7.1.8	毎日放送	ヒトメタニューモウイルスの写真	公衆衛生部
R7.1.8	TBS テレビ	ヒトメタニューモウイルスの写真	健康危機管理課
R7.1.8	TBS テレビ	ヒトメタニューモウイルスの写真	健康危機管理課
R7.1.8	テレビ愛媛	ヒトメタニューモウイルスの写真	健康危機管理課
R7.1.8	NHK	ヒトメタニューモウイルスの写真	健康危機管理課
R7.1.8	TBS テレビ	ヒトメタニューモウイルスの写真	健康危機管理課
R7.1.8	毎日新聞	ヒトメタニューモウイルスの写真	健康危機管理課
R7.1.8	長崎放送	ヒトメタニューモウイルスの写真	健康危機管理課
R7.1.9	CBC テレビ	ヒトメタニューモウイルスの写真	健康危機管理課
R7.1.9	夕刊フジ	ヒトメタニューモウイルスの写真	健康危機管理課
R7.1.9	日本テレビ	ヒトメタニューモウイルスの写真	健康危機管理課
R7.1.9	uhb 北海道文化放送	ヒトメタニューモウイルスの写真	健康危機管理課
R7.1.9	読売テレビ	ヒトメタニューモウイルスの写真	健康危機管理課
R7.1.9	読売テレビ	ヒトメタニューモウイルスの写真	健康危機管理課
R7.1.9	読売テレビ	ヒトメタニューモウイルスの写真	健康危機管理課
R7.1.10	広島ホームテレビ	ヒトメタニューモウイルスの写真	健康危機管理課
R7.1.10	テレビ東京	ヒトメタニューモウイルスの写真	健康危機管理課
R7.1.14	関西テレビ	ヒトメタニューモウイルスの写真	健康危機管理課
R7.1.14	NHK	大阪・関西万博感染症情報解析センター発足式	公衆衛生部
R7.1.14	日本経済新聞	大阪・関西万博感染症情報解析センター発足式	公衆衛生部
R7.1.14	共同通信社	大阪・関西万博感染症情報解析センター発足式	公衆衛生部
R7.1.14	読売テレビ	大阪・関西万博感染症情報解析センター発足式	公衆衛生部
R7.1.15	毎日新聞	大阪・関西万博感染症情報解析センター発足式	公衆衛生部
R7.1.15	産経新聞	大阪・関西万博感染症情報解析センター発足式	公衆衛生部
R7.1.15	読売新聞	大阪・関西万博感染症情報解析センター発足式	公衆衛生部
R7.1.16	関西テレビ	ヒトメタニューモウイルスの写真	健康危機管理課
R7.1.16	北海道テレビ	ヒトメタニューモウイルス、インフルエンザウイルスの写真	健康危機管理課
R7.1.17	ユーザベース	ヒトメタニューモウイルスの写真	健康危機管理課
R7.1.18	日本経済新聞	ヒトメタニューモウイルスの写真	健康危機管理課
R7.1.21	光文社	ヒトメタニューモウイルスの写真	健康危機管理課
R7.2.7	講談社	ヒトメタニューモウイルスの写真	健康危機管理課
R7.3.13	NHK	2025 大阪・関西万博と感染症について	公衆衛生部
R7.3.13	NHK	ヒトスジシマカの写真	ウイルス課
R7.3.13	読売新聞	麻しんについて	公衆衛生部
R7.3.14	テレビ朝日	アストロウイルスの写真	健康危機管理課

表 1.16 大安研ニュースの発行

号数	発行日	記事	関係部署
No.20	令和6年7月	我が家の加湿器は大丈夫？（レジオネラに注意） 検査の信頼性を支える～信頼性保証室（QAU：キューエーユー）の仕事～	生活環境課 信頼性保証室
No.21	令和6年11月	2024年はマイコプラズマ肺炎患者の報告数が増えています 11月10日は、世界HTLVデー HTLV-1とは？	健康危機管理課 ウイルス課
No.22	令和7年3月	万博に向けて禁煙を広めよう 大安研では健康食品の分析をしています	疫学解析研究課 医薬品課

表 1.17 大安研セミナーの開催

回	開催日	演題	講師	所属
No.13	R6.8.23	病原真菌の分類とヒトへの危害について	矢口貴志	千葉大学 真菌医学研究センター
No.14	R6.11.19	スピロラクトン錠の溶出試験に用いるポリソルベート80の品質に関する研究	川口正美	医薬品課
		放射線損傷塩基を指標とした新規照射食品検知法の実用化に向けて	藤原拓也	食品安全課
No.15	R7.2.25	微生物学的試験法における抗菌性陽性食肉試料の理化学分析	上村聖子	食品化学課
		自閉スペクトラム症における循環器疾患リスクと環境要因との関連性の解明	吉田知克	疫学解析研究課
		在宅中の子どもにおける有害化学物質の一日摂取量と室内空気質の寄与 ～可塑剤・難燃剤・殺虫剤・防虫剤～	吉田俊明	生活環境課
		大阪府内で分離されたヒト・食品・環境由来カンピロバクターの分子系統解析	梅川奈央	細菌課
		先天梅毒児における <i>Treponema pallidum</i> の感染動態に関する検討	川畑拓也	ウイルス課

表 1.18 「大安研夏休み科学体験」の開催

開催日	内容	参加者
R6.8.4	ミクロの世界を体験しよう (電子顕微鏡、実体 / 光学顕微鏡、クイズ)	小学生 21 名 (保護者同伴)

表 1.19 「大安研公開講座」の開催

回	開催日	演題	講師	所属	参加者
No.1	R6.10.31	感染症から身を守る	朝野和典	-	71 名

9. 受賞、表彰

表 1.20 受賞一覧

受賞日	所属	氏名	表彰名	題名
R6.5.17	生活環境課	小泉義彦	日本防菌防黴学会論文賞	Changes in Bacterial Diversity and Community Structure in Drinking Water Distribution System Revealed by High Throughput Sequencing
R6.7.18	研究企画課	小島洋子	地方衛生研究所全国協議会近畿支部支部長表彰	—
R6.7.18	食品化学課	吉光真人	地方衛生研究所全国協議会近畿支部支部長表彰	—
R6.9.6	細菌課	坂田淳子 若林友騎 西嶋駿弥 他	第45回日本食品微生物学会学術総会優秀発表賞	O抗原糖鎖のマスマスペクトルによる「糖鎖型判別法」の検討
R6.10.28	細菌課	河合高生	地方衛生研究所全国協議会 会長表彰	—
R6.11.8	食品化学課 食品安全課 生活環境課	福井直樹 藤原拓也 高取聡 他	日本食品衛生学会論文賞	5,6-ジヒドロチミジンを指標とした植物性乾燥食品の照射履歴の検知
R6.11.19	細菌課	若林友騎	第26回腸管出血性大腸菌感染症研究会 奨励賞（疫学部門）	肉用牛から分離された志賀毒素産生大腸菌O171の分子疫学解析
R6.11.30	生活環境課 ウイルス課	吉田俊明 味村真弓 左近直美	2024年一般社団法人室内環境学会論文賞	在宅中の子どもにおける2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタンジオールモノイソブチレートおよび2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタンジオールジイソブチレートの摂取量の推定
R7.2.14	食品化学課	平田祥太郎	第7回（公社）日本食品衛生学会近畿ブロック勉強会 優秀発表賞	なし飲料を対象とした残留オキシテトラサイクリン試験法の妥当性確認 - 地方衛生研究所での抗生物質試験法の技術研修 -

表 1.21 職員表彰受賞者一覧

表彰項目	受賞者	所属
優秀職員表彰 研究開発賞最優秀賞	尾崎麻子	食品安全課
優秀職員表彰 研究開発賞優秀賞	山口貴弘、山本香織、平井佑治、高橋佑介	細菌課レジオネラ担当
優秀職員表彰 業務改善賞	阿久津和彦、上村聖子、小笠原準	信頼性保証室
功績職員表彰	山元誠司 松井啓史	ウイルス課 食品化学課
功績職員表彰	安楽正輝	細菌課
功績職員表彰	藤原拓也	食品安全課
功績職員表彰	平田祥太郎	食品化学課

10. 委員会等

表 1.22 委員会一覧

委員会名	委員長・議長	委員*	備考
安全衛生委員会	副理事長	17名	労働安全衛生法及び安全衛生管理規程による職員の安全確保及び健康増進等に関する審議を行う。
安全推進委員会	安全管理者 (衛生化学部長)	13名	安全衛生委員会の下位組織として、職場環境の安全に関する措置に関する検討を行う。
感染症防止対策委員会	衛生管理者 (公衆衛生部長)	11名	職員の感染による健康被害防止に関する検討を行う。
兼業等審査委員会	理事長	3名以上	理事長が必要と認める職員の兼業の許可に関する審議を行う。
備品委員会	総務部長	17名	備品の計画的な整備及び効率的な利用を図ることを目的として、購入内容に関する審議を行う。
総合評価一般競争入札事業者選定委員会	副理事長	3名以上	総合評価一般競争入札を実施するにあたり、落札者決定基準及び評価点の決定に係る審査を行う。
防火・防災管理委員会	総務部長	6名	防火・防災管理業務の効果的な推進を図り、消防計画の見直し、改善について審議を行う。
食品衛生検査等業務管理運営委員会	理事長	10名	食品衛生法等に基づく食品衛生検査又は試験の信頼性確保のため、業務管理に関する基本方針等の審議を行う。
病原体等検査業務管理運営委員会	理事長	7名	感染症法に基づく病原体等検査の信頼性確保のため、業務管理に関する基本方針等の審議を行う。
許可試験業務管理運営委員会	理事長	6名	許可試験の信頼性確保のため、業務管理に関する基本方針等の審議を行う。
地域連絡会	理事長	18名	研究所運営に対する住民の理解を深めるため、安全実験施設の運用状況や、調査研究、検査業務について、地域住民に情報を提供する。
倫理審査委員会	企画部長	8名	人を対象とする医学系研究等の倫理審査を行う。
利益相反管理委員会	企画部長	10名	外部資金等を利用して実施する調査研究において、当該研究員の利益相反管理を目的とした審議を行う。
調査研究審査委員会	理事長	6名	法人において実施している調査研究の妥当性に関する審議を行う。
調査研究評価委員会	外部有識者	6名	研究水準の向上及び活性化を図るため、研究内容について外部有識者により評価を行う。
組換え DNA 実験安全管理委員会	組換え DNA 実験安全主任者(細菌課長)	-	組換え DNA 実験の実施状況の確認及び次年度実験計画に関する審議を行う。
動物実験委員会	ウイルス課長	9名	動物実験を立案し、実施する場合に遵守すべき事項を示し、科学的はもとより、動物福祉の観点から、適正な実験の実施に関する審議を行う。
大安研セミナー運営委員会	ウイルス課長	10名	調査研究の推進及び試験検査等の技術と水準の向上をはかるために開催される所内研究発表会を機能的かつ円滑に行う。
大安研ニュース編集委員会	細菌課長	9名	広報誌・メールマガジンに掲載する記事内容について検討のうえ、紙面の発行、HP への掲載等による情報発信を行う。
研究年報編集委員会	食品化学課長	9名	年1回発行される研究報告書の原稿作成に伴う業務を行う。
病原体等取扱安全管理運営委員会	病原体等取扱主任者 (微生物部長)	9名	取扱病原体等の安全管理について定め、病原体等に起因して発生する曝露及び感染症法に基づく事故の未然防止に関する審議を行う。
ECD 運営委員会	生活環境課長	4名	ECD の使用管理に関する事項を定め、放射線障害の防止と安全を確保に関する審議を行う。
目的積立金活用選定会議	総務部長	5名	設立団体の長の承認を受けた目的積立金を効果的かつ効率的に活用するため、活用内容の選定に関し、その必要性や妥当性を審議する。
コンプライアンス推進委員会	理事長	7名	コンプライアンスの推進、公益通報の処理及びその他必要な事項に関することについて、取組の検討、審議する。
情報セキュリティ委員会	理事長	19名	情報セキュリティを確保するために遵守すべき基本的事項を定める。

* 委員長・議長を含む人数

課別事業内容等

企 画 部

研 究 企 画 課
信 頼 性 保 証 室

研究企画課

研究企画課は、中期計画・年度計画関連業務、検査・研究管理業務、所内研修の企画、広報活動、職員表彰、府内外の関連機関との連絡調整、学術情報室の運営を担当している。このうち検査・研究管理業務においては、検査実施状況の集計と府・国への報告を行った。また、各種委員会を開催した。

1) 中期計画・年度計画関連業務

令和5年度実績を報告書としてとりまとめた。また、令和6年度計画の進捗管理を実施するとともに、令和7年度計画を作成した。

2) 検査・研究管理業務

調査研究業務の実施にあたって遵守すべき医学研究等倫理、組換え遺伝子実験、利益相反管理、病原体等安全管理等の規程に関する各委員会を適宜開催し、関連業務の適切な運営管理を行った。

(1) 調査研究審査委員会

各課での研究の取組みの柱となる通常研究課題、個別の公募研究、受託研究、共同研究について、行政の要請や社会的な課題への対応と還元の観点から、調査研究審査委員会において審査した。

(2) 利益相反管理委員会

厚生労働科学研究、受託研究及び共同研究において、当該研究を担当する研究員の利益相反を審査した。

(3) 調査研究評価委員会

微生物や衛生化学に関する外部の有識者・専門家（計6名）からなる調査研究評価委員会を設置し、当所における調査研究の客観的な評価を行った。

開催日時：令和6年12月16日

評価対象：公衆衛生部1課題、微生物部2課題、衛生化学部2課題

（計5課題）

各選択課題の要旨及び口頭発表をもとに、研究の必要性、内容、成果及び総合評価の各項目について評価を受けた。評価対象となった課題についての総合評価は、5段階評価（1：再考すべき 2：改善を要する 3：標準的である 4：優れている 5：非常に優れている）で3.3～4.6（平均3.85）であり、その結果をホームページで

公表した。指摘事項については、個別に対応を検討し、評価委員に回答した。

(4) 倫理審査委員会

当所において行われる研究が、関連する倫理指針の趣旨に沿って実施されることを目的とし、自然科学の有識者、倫理学あるいは社会科学面の有識者、一般市民の立場の者からなる倫理審査委員会を設置し、倫理審査委員会を2回開催した。

第1回開催日：令和6年8月29日

第2回開催日：令和7年2月7日

迅速審査：計17課題

3) 重点研究課題の推進

社会的なニーズや住民の関心が高い課題など、地方衛生研究所として重点的に実施すべき喫緊の研究課題として、「自閉スペクトラム症における心臓血管病リスクと環境要因との関連性の解明」「高病原性A群溶血性レンサ球菌UK系統株のリアルタイムPCR検出法の開発とゲノム解析」「梅毒トレポネーマに関する研究」を令和6年度重点研究として調査研究審査委員会で選出した。

4) 所内研修の企画

当所職員等を対象に、研究機関として礎となる、研究倫理に関する研修や、感染症法に係る研修等を実施した。

5) 職員表彰の実施

職員の勤労意欲の高揚を目的に、優れた研究の立案・遂行、革新的な検査手法の開発、業務改善等、法人の社会的な評価に貢献した職員に対し、表彰を行った。

6) 講演等

R6.11.15 令和6年度地方衛生研究所全国協議会近

畿支部理化学部会研修会「たのしい残留分析」(起橋)

7) 委員会

大阪府救急医療対策審議会専門委員(2回)(小島)

8) その他

R6.10.24 東成区医師会主催第41回健康展に参加
足指筋力測定(主担:疫学解析研究課)

信 頼 性 保 証 室

信頼性保証室は、法に基づく業務管理が求められる各部門の試験検査に対し、独立した部門として信頼性保証を担っている。内部監査（内部点検と同義）により、業務が適正に遂行されていることを検証するとともに、内部精度管理の記録を点検して、試験検査の信頼性が確保されていることを確認した。また、厚生労働省や（一財）食品薬品安全センター等が実施する外部精度管理調査に参加し、研究所として検査の信頼性の確保に取り組んだ。

1) 業務管理体制の検証

食品衛生検査等業務、病原体等検査業務および許可試験業務については、業務管理運営委員会を開催し、医薬品試験検査業務、水道水質検査業務および計量証明事業については、マネジメントレビューにより、試験検査の業務管理体制の適切性および有効性を確認した。

2) 内部監査

食品衛生検査等業務は、検査区分ごとに保存料検査（食品安全課）、PCB 検査（食品化学課）、大腸菌群検査（細菌課）およびノロウイルス・A 型肝炎ウイルス検査（ウイルス課）を対象として、実験室等への立入調査を実施し、試験検査業務に関する点検を行った。病原体等検査業務については、検査区分ごとに腸管出血性大腸菌検査（細菌課）および重症熱性血小板減少症候群ウイルス遺伝子検査（ウイルス課）について実験室等への立入調査を実施し、試験検査業務に関する点検を行った。水道水質検査業務は、内部監査チームを編成し、検査部門および信頼性確保部門の業務記録の監査を実施した。許可試験業務では、関与成分ごとに書類の内部点検を行った。医薬品試験検査業務では、自己点検およびマネジメントレビューの結果を確認した。計量証明事業では、指定地域特定施設等放流水の浮遊物質質量検査を対象として、実験室等への立入調査を実施し、試験検査業務に関する点検を行った。必要に応じて試験検査部門に文書で是正処置を求め、講じられた是正処置を確認した。

3) 精度管理

各試験検査部門において、定められた手順にしたがって内部精度管理を実施し、検査区分責任者等が検査員の技能評価と検査等の精度の評価を行った。その記録を信

頼性確保部門でとりまとめて点検し、検査項目ごとに設定した精度が確保されていることを確認した。また、表 2.1 に示した外部精度管理調査に参加し、結果が公表された項目については、評価の確認を行った。全体的に良好な結果であった。一部の調査項目について、統計的に棄却される異常値には該当しないが、「満足」の評価基準となる目標範囲内に収束しなかったものがあつた。これらの調査項目については、試験検査部門に文書で原因究明と改善を求め、講じられた措置を確認した。

4) 研修

信頼性確保業務への理解を深め、検査の信頼性の向上を図るため、試験検査部門の職員を対象に「検査業務における信頼性確保研修」を開催した（対面・e-ラーニング）。さらに、試験検査に関する知識・技能の習得のため、職員 10 名を技術研修等に派遣した。

5) 委員会等

R6.7.26 大阪府保健所生活衛生室検査課業務管理運営委員会（阿久津）

6) 講演等

R6.6.13 厚生労働省 令和 6 年度食品衛生検査施設信頼性確保部門責任者等研修会「大阪健康安全基盤研究所における信頼性確保」（阿久津）

表 2.1 令和6年度 外部精度管理調査参加項目

試験検査の分類	試験項目	種別	対象媒体	結果	実施機関
食品衛生検査等 (理化学的検査)	重金属検査 (カドミウム)	定量	玄米粉	良好	
	残留農薬検査 (有機リン系農薬 2 種)	定量	にんじんペースト	良好	
	食品添加物検査 (ソルビン酸)	定量	果実ペースト	良好	※ 1
	残留農薬検査 (6 種農薬中の 3 種)	定性 / 定量	ほうれんそうペースト	良好	
食品衛生検査等 (微生物学的検査)	残留動物用医薬品検査 (スルファジミジン)	定量	豚肉 (もも) ペースト	良好	
	E.coli 検査	定性	ハンバーグ	良好	
	一般細菌数測定検査	定量	ゼラチン基材	良好	※ 1
	腸内細菌科菌群検査	定性	ハンバーグ	良好	
食品表示に係る検査 (特定原材料検査)	特定原材料検査 (卵)	定量	イチゴジャム	概ね良好	※ 1
食品表示に係る検査 (栄養成分検査)	栄養成分検査 (たんぱく質、脂質、 灰分、水分、炭水化物、熱量)	定量	プロテインパウダー	概ね良好	※ 1
水道水質検査 (理化学的検査)	全有機炭素 (TOC)	定量	水	良好	
	ハロ酢酸 (クロロ酢酸、ジクロロ酢酸、 トリクロロ酢酸)	定量	水	良好	※ 2
病原体等検査	腸管出血性大腸菌の遺伝子検査	定性	腸管出血性大腸菌 DNA	良好	
	麻疹・風疹ウイルスの遺伝子解析	定性	麻疹・風疹ウイルス RNA	良好	※ 3
	コレラ菌の同定検査	定性	コレラ菌 (菌株)	良好	
	結核菌遺伝子型別検査 (VNTR)	定性	結核菌 DNA	良好	※ 4
医薬品試験	ベラパミル塩酸塩錠の定量・確認試験	定性 / 定量	錠剤	集計中	※ 3

※ 1：(一財) 食品薬品安全センター 秦野研究所

※ 2：環境省

※ 3：厚生労働省

※ 4：(公財) 結核予防会 結核研究所、厚生労働科学研究費研究班

公衆衛生部

健康危機管理課
疫学解析研究課

健康危機管理課

健康危機管理課は、健康危機管理体制の整備及び調整、実地疫学調査、公衆衛生情報の収集及び提供、公衆衛生関係者の教育及び訓練に関すること、地方衛生研究所全国協議会に関すること、府内外の関係機関との連絡調整、大阪府感染症情報センターの管理・運営を担当している。

1. 健康危機対応

1) 健康危機管理体制の整備及び調整

健康危機事象発生時等に大阪府、大阪市と連携を図り公衆衛生に関わる行政機関等への科学的かつ技術的な支援を行うことを目的として、健康危機事象発生時等における業務の実施に関する基本協定書を大阪府と大阪市との間で締結している。また、土日夜間の対応を支援するための検査業務に関する協定書について中核市との間で締結している。さらに府市関係機関と緊急連絡網を作成し、緊急時の連絡体制を確認している。

2) 健康危機事象への対応

- (1) 紅麹配合食品にかかる大阪市食中毒の発生に対して以下の取り組みを実施した。
- ・法人内に紅麹配合食品にかかる大安研食中毒対策本部を設置し、対策本部会議において、情報共有や所内対応の協議を行った。
 - ・大阪市からの疫学調査チーム（O-FEIT: Osaka-Field Epidemiologic Investigation Team）派遣依頼要請により、大阪市食中毒対策本部調査チームが実施する健康被害事例の疫学調査支援活動を行った。
- (2) 2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）の開催に対して以下の取り組みを実施した。
- ・大阪府、大阪市、国立感染症研究所及び法人職員で構成される「大阪・関西万博感染症情報解析センター」を法人内に設置し、感染症情報の収集・解析・発信の体制を整備した。
 - ・1月より、大阪府・市担当者、大阪府内全保健所、医療機関、2025年日本国際博覧会協会、国立感染症研究所と連携して感染症強化サーベイランスを開始し、万博関係者や住民に影響を与える健康危機事象の早期発見・早期対応に取り組んだ。

(3) 麻しん

大阪府内で発生した麻しん症例の疫学情報を集約し、迅速に関係機関と共有した。

(4) その他の感染症

大阪府内の薬剤耐性菌症例発生事例、新型コロナウイルス感染症症例集積事例等について、O-FEITが微生物部（細菌課）と連携して管轄保健所の相談対応や疫学調査支援活動を行った。

(5) その他

健康危機事象に関する注意喚起の記事をホームページに適時掲載した。

3) 疫学研修会の開催

大阪府内保健所職員などの感染症業務に携わる職員に疫学調査など現場対応能力の向上を図るため、大阪府・市との共催でO-FEITによる疫学研修会を開催した。令和6年度は「大阪・関西万博を想定した麻しん感染症事例対応研修」を行った。

4) 報道機関連絡会の開催

報道機関に対して連絡会を毎月1回開催し、大阪府の感染症情報や話題の感染症等（ダニ媒介感染症、新型コロナウイルス感染症、腸管出血性大腸菌、きのこ、インフルエンザ、アニサキス、食物アレルギー、ヒトメタニューモウイルス感染症、エムボックス、放射線照射食品）について情報提供と解説を行った。

2. 講演、委員会、研修等

1) 講演等

R6.10.14 令和6年度阪神地区感染症懇話会・感染症担当者研修会 台湾での研修参加を通して考える新興再

興感染症への備え（関）

R6.10.30 感染症情報の現状と展望を考える会（日本公衆衛生学会 自由集会）大阪健康安全基盤研究所疫学調査チーム O-FEIT の活動および取り組み（柿本）

R7.2.27 第38回公衆衛生情報研究協議会研究会シンポジウム 大阪健康安全基盤研究所疫学調査チーム（O-FEIT）の活動と取り組み（柿本）

2) 委員会等

大阪市感染症発生動向調査解析評価検討会（柿本）

大阪市結核解析評価検討会（西田、関）

大阪感染症情報解析委員会（臯月）

吹田市保健所管内院内感染対策連絡会議（柿本、入谷）

藤井寺保健所管内院内感染対策ネットワーク会議（柿本）

3) 研修等の受講

R6.7.5 令和6年度 大阪府蚊媒介感染症対策訓練（大阪府・大安研共催）

R6.10.23-R7.1.10 全国疫学情報ネットワーク構築会議（東京都健康安全研究センター）

R6.11.12 2025年日本国際博覧会協会感染症対応訓練（2025年日本国際博覧会協会）

R7.1.27 感染症サーベイランスオフィサープログラム キックオフミーティング（国立感染症研究所）

R7.2.7 関西広域連合構成団体及び連携県・感染症担当者合同研修会（徳島県）

R7.2.28 令和6年度 地方感染症情報センター担当者会議（東京都健康安全研究センター）

R7.3.7 「大阪・関西万博感染症情報解析センター」運用訓練（大阪府）

4) 令和6年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部疫学情報部会事務局

(1) 役員会の開催（R6.6.17）

(2) R6年度地域保健総合推進事業に係る近畿ブロック「精度管理事業（健康危機事象対応模擬訓練）」の実施（R6.10.24）

(3) 第39回疫学情報部会研究会の開催（R6.12.6）

3. 大阪府感染症情報センター

大阪府感染症情報センターは、大阪府内を統括する基幹地方感染症情報センターとして当所に設置され、厚生労働省を中心とする全国ネットワークで運用される感染症発生動向調査事業を実施している。当センターは府内関係機関と連携し、以下の業務を担当した。

- ・患者情報・発生情報のチェック・集計
- ・大阪感染症情報解析委員会への解析資料の提供
- ・解析結果の還元と週報・月報の作成とホームページへの掲載・公開
- ・感染症発生動向調査事業報告書 第42報 2023年版の発行配布とホームページへの掲載

疫学解析研究課

疫学解析研究課は、蓄積されてきた検査データや、それに付随する疫学情報を活かし、さらに今後必要な情報提供を得て多様なリスク要因を解析し、対応策を探索している。必要に応じ、大阪府・大阪市または府内市町村や健康保険者団体等とともに試行研究や研修会等を実施し、その成果を行政部局に助言する。

大阪府より生活習慣病に関する予防研究業務を受託しており、健診や医療費等のデータの分析、それに基づく市町村等の取り組みや課題等を把握し、関係機関と連携しながら、データを活用した専門的技術支援の実施、モデル地区のモニタリングを基にした研究や府民の健康づくりを支援する機能等の役割を果たしている。

1. 循環器疾患予防研究受託業務

1) 健診・保健指導・医療費等データ分析

- 大阪府より提供される国民健康保険団体連合会、後期高齢者医療広域連合、全国健康保険協会等のデータにかわって、匿名医療保険等関連情報データベース（NDB）を用いた特定健診、特定保健指導及び医療費のデータを分析し、各市町村における医療費や疾病構造にかかる課題、特定健診・特定保健指導の実施状況、健診有所見者状況の課題を明らかにした。
- 匿名医療保険等関連情報データベース（NDB）を用いて、外部の専門家との連携による地域分析手法を確立した。

2) 行動変容プログラムの推進

- 新たな汎用性の高い行動変容プログラム（第二期）の開発、普及を目的として、市町村の保健事業等の取り組み状況の実態調査を実施し、調査結果の取りまとめと内容を報告した。また、開発したプログラム案を市町村や関係機関へ提示した。
- 第二期プログラムのテーマである「骨粗鬆症対策」、「ロコモ予防」について、講演とグループワークを実施し、保健事業に関わる市町村担当者への支援を実施した。

3) 循環器疾患と危険因子のモニタリング及び研究

- 八尾市における住民の健康増進の向上を図るとともに健康づくり事業の発展と充実に寄与することを目的に「健康づくり事業を推進に関する協定書」を八尾市と大阪健康安全基盤研究所で締結を継続した。

- 長崎大学との共同研究にて、長崎県五島市及び、長崎県佐々町で実施している動脈硬化検診データを用いた循環器疾患リスク因子に関する検討を実施した。
- 大阪府在住の成人を対象に循環器疾患リスク因子に関する Web アンケート調査を実施した。

4) 府民の健康づくりを支援するシンクタンク機能の役割

- 大阪府の施策、保健事業に関連する各種会議等への対応として、「国保ヘルスアップ支援事業検討会議」、「食育推進ネットワーク会議」、「地域・職域連携推進連絡会」等に出席した。
- 第4次大阪府健康増進計画に係る指標として、大阪府内の全市町村別に健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）の算定を実施した。
- 1)～4)の事業に関連し、事業説明会、研修会を開催した。

2. 調査研究

1) 呼吸器感染症に関する疫学解析研究

(1) RS ウイルス感染症に関する疫学解析研究

RS ウイルス感染症発生动向情報を用いてコロナ禍における地域間拡散機構の把握、および2023、2024年のRS ウイルス感染症の流行予測を行った。

(2) 新型コロナウイルス感染症に関する疫学解析研究

新型コロナウイルス感染症の流行動態を把握し、大阪府における実効再生産数を解析しモニターした。

(3) 麻疹に関する疫学解析研究

微生物部と連携し、大阪府における麻疹ウイルス検査情報を用いて、変異株の検査感度を評価する統計解析方法について評価・検討した。

2) 疾病発症因子に関連する疫学解析研究

(1) 健康と生活習慣に関するウェブ調査

大阪府民を対象とした発達障がいおよび生活習慣病に関連した、健康と生活習慣に関するウェブ調査をおこなった。

(2) 精神疾患と生活習慣病に関する発症動向についての解析

解析の元データとなる National Database (NDB) の解析に着手した。

(3) 身長低下に影響を与える因子の同定

昨年度に引き続き、新たに頸動脈・動脈硬化が身長低下リスク因子であること、血管修復をつかさどることで知られる血小板の数が多いと高血圧者においては、身長低下リスクが有意に下がっていることが判明した。また body mass index (BMI) は低くても、高くても身長低下リスク因子であることが示唆された。

(4) 長崎大学の動脈硬化検診データを用いた研究

エネルギー代謝指標 GDF-15 の値が高い者でのみ (エネルギー代謝異常が示唆される者でのみ)、早食いと動脈硬化の間には有意な正の関連が認められた。また血清尿酸値は、血管修復活動が惹起されていると思われる者でのみ (末梢血 CD34 陽性細胞が多い者でのみ)、正の関連を機能的動脈硬化との間に認めた。遺伝的に新生血管を形成しやすい高齢者は残尿感のオッズ比が高くなることが判明した。

(5) 大阪住民を対象に実施した Web 調査

アルコール耐性が低いことを示唆するアルコールフラッシュ現象を有する者は非飲酒者であっても、フラッシュ現象を有さない者に比較し睡眠満足度は低い傾向にあることが認められた。自閉症スペクトラム障害 (ASD) に関する研究では、ASD を有さない者で認められる生活満足度指数と短時間睡眠との間に認める有意な負の関係は、ASD を有する者では認めないことが判明した。精神疾患と散歩頻度の関係において、ASD を有さない者では有意な負の関係を、散歩頻度と精神疾患の間に認めたが、ASD を有する者ではそのような傾向は認めず、有意ではなかったが、むしろ正の傾向を認めた。

3. 講演、委員会、研修等

1) 講演

R6.5.31 防犯防災総合展 2024 講演 (吉田)

R6.9.14 第6回臨床血管健康研究会 講演 (清水)

R6.12.18 令和6年度大阪府国保ヘルスアップ支援事業「特定健診未受診者対策支援事業」検討会 基調講演 (本田)

2) 委員会、連絡会等

大阪感染症情報解析委員会 (三山)

大阪府国民健康保険団体連合会保険事業支援・評価委員会 (清水、本田)

大阪府国民健康保険団体連合会保険事業支援・評価委員会ワーキングチームによる検討会 (清水、本田)

大阪府食育推進ネットワーク会議 (清水)

八尾市衛生問題対策審議会 (清水)

微生物部

細菌課
ウイルス課

細菌課

細菌課は、大阪市域及び府域で発生する腸管系感染症（コレラ、チフス、パラチフス、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、ボツリヌス症等）や呼吸器系感染症（結核、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、レジオネラ症、肺炎球菌感染症、細菌性髄膜炎等）について、その感染経路の解明に活用するために、細菌学的、免疫学的及び遺伝学的特性の解析を実施している。さらに、薬剤耐性菌の行政検査では、大阪市域及び府域で発生した薬剤耐性菌感染症の原因菌株の同定検査を実施し、その流行状況の把握に努めるとともに、院内感染疑い事例に対しても適宜対応している。

大阪市域及び府域で流通している多くの種類の市販食品について、大阪市健康局、大阪府健康医療部、大阪府保健所及び中核市保健所の依頼により食品衛生法施行令で定めるところのGLP対応で細菌等の検査を実施している。また、製造所、調理施設において扱う食材及び食品についても、腸管出血性大腸菌、サルモネラ、腸炎ジブリオ、カンピロバクター、衛生指標菌等の検査を実施し、食中毒予防や食品衛生に役立てている。食中毒、集団下痢症等の発生時において、患者材料（便、吐物）、原因食品、原因施設（ふきとり）等から原因病因物質の検出を行うとともに、汚染経路の解明を実施している。また、苦情食品、有症苦情等についてもその原因について検査している。また、行政と協力して市民対応の現場で生じる「課題」を調査・研究として実施している。

1. 試験検査

1) 腸管系感染症

令和6年1月から令和6年12月に医療機関及び保健所から発生届が出された3類感染症患者から分離された原因菌株のうち当課に搬入された195株（腸管出血性大腸菌（EHEC）190株、赤痢菌1株、チフス菌3株、パラチフスA菌1株）について確認検査、血清型別、遺伝子型別等を実施した。EHECの190株のうち170株についてはMLVA法で遺伝子型別を実施（MLVA法による遺伝子型別は、O157、O26及びO111については当課で実施、その他は国立感染症研究所で実施）し、その解析情報を行政担当部局（大阪府感染症対策課、大阪市感染症対策課、大阪府食の安全推進課、大阪市健康局生活衛生課、保健所等）へ提供した。その詳細な内訳及び結果（血清型、毒素型、遺伝子型数）は表3.1に示した。赤痢菌は、*Shigella boydii* 1と同定された。また、コレラ疑い患者から分離された菌株の同定試験を実施し、コレラ毒素非産生の *Vibrio cholerae* と同定した。3類感染症患者の接触者検便検査あるいは陰性確認検査において、EHEC 25株（O118 1株、O157 24株）を分離・同定した。

5類定点疾患の病原体サーベイランス（令和6年1月から令和6年12月）で実施した感染性胃腸炎検査では、

患者から分離されたサルモネラ菌6株について同定検査（血清型別）を実施した（*Salmonella*. Braenderup 1株、*S. Enteritidis* 3株、*S. Schwarzengrund* 2株）。

一般依頼の糞便検査として、赤痢菌4件、チフス菌・パラチフスA菌4件、腸管出血性大腸菌O157 5件、サルモネラ4件の検査を実施した。

2) 結核及び非結核性抗酸菌感染症

令和6年4月から令和7年3月31日までに薬剤感受性試験依頼、遺伝子型別依頼、菌株保存依頼で搬入された結核菌株数は860株（大阪市397株、大阪市を除く大阪府域463株）であった。薬剤感受性試験依頼26件あり、そのうち多剤耐性株、SM、EB耐性株、SM耐性株が1株ずつあった。抗酸菌同定検査依頼は1件あり、*Mycobacterium avium* と同定された。BCG菌と結核菌の鑑別依頼は1件あり、BCG株と鑑別された。VNTR遺伝子型別検査依頼は205件（大阪市96株、大阪市を除く大阪府域109株）あった。そのうち集団感染疑い事例由来株は93株（大阪市34株、大阪市を除く大阪府域59株）、外国人由来株は40株（大阪市35株、大阪市を除く大阪府域5株）、その他は地域分子疫学対象株であった（VNTR、薬剤感受性については2021年以前の菌株に対する依頼もあるので搬入菌株数と検査依頼株数には齟齬が出る）。

表 3.1 腸管出血性大腸菌感染症の発生状況と
遺伝子型別結果 (R6.1 ~ R6.12)

血清型	毒素型	発生状況			遺伝子型数 MLVA 型数
		事例数	感染者数	菌株数	
O157:H7	1+2	59	74	74	40
O157:H7	2	34	53	56	26
O157:HNM	1+2	11	11	13	11
O157:HNM	1	1	1	1	1
O157:HNM	2	1	1	1	1
O5:HNM	1	1	1	1	
O8:H19	2	1	1	1	
O26:H11	1+2	1	1	1	1
O26:H11	1	5	5	5	5
O26:HNM	2	1	2	2	2
O28ab:H25	2	1	1	1	
O43:H2	1	1	1	1	
O45:HNM	1	1	1	1	
O63:H6	2	1	1	1	
O71:H11	1	1	1	1	
O91:H14	1	1	1	1	1
O103:H2	1	5	5	5	5
O108:H25	2	1	1	2	
O111:HNM	1+2	3	3	3	3
O111:HNM	1	3	3	3	2
O115:H10	1	1	1	1	
O118:H2	1	1	2	2	
O121:H19	1	1	1	1	1
O145:HNM	1	2	2	2	1
O145:HNM	2	1	1	1	1
O146:HNM	1+2	1	1	1	
O165:H25	2	1	1	1	1
O168:H8	2	1	1	1	
O171:H25	1	1	1	1	
O181:H2	1	1	1	1	
O182:H25	1	1	1	1	
OgN8:H2	1+2	1	1	1	
OgN8:H2	2	1	1	1	
OgN12:H32	1	1	1	1	
合計		148	184	190	102

3) その他の呼吸器系感染症

5 類定点疾患の病原体サーベイランスでは、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者由来株 46 株の血清型別を実施した。また、近畿地区のレファレンスセンターとして地区内で劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (STSS) 症例分離株または重症症例分離株の収集に努め、確保できた定点医療機関以外から収集したレンサ球菌感染症患者分離株 201 株を合わせた計 247 菌株 (A 群 174 株、B 群 26 株、C 群 3 株、G 群 44 株) の解析を実施した (令和 6 年 1 月から令和 6 年 12 月)。なお、これらレンサ球菌の血清型別検査の成績については、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者由来株と STSS 患者由来株に分けて表 3.2 に示した。

医療機関から発生届が出されたレジオネラ症患者由来の臨床検体の検査 (令和 6 年 1 月から令和 6 年 12 月) では、24 検体中 13 検体からレジオネラを分離した。また、社会福祉施設 6 施設および民間企業施設 1 施設で採取された浴槽水 23 検体について検査を行ったところ、1 施設 2 検体からレジオネラが分離された。

流行予測調査 (令和 6 年 4 月から令和 7 年 3 月) では、府内で発生届が出された侵襲性肺炎球菌感染症及び侵襲性インフルエンザ菌感染症の患者由来株を収集・解析し、流行株の把握に努めた。

4) 薬剤耐性菌感染症

薬剤耐性菌の検査 (令和 6 年 1 月から令和 6 年 12 月) では、保健所及び医療機関から検査を依頼された薬剤耐性菌感染症や院内感染疑い事例に由来する薬剤耐性菌 254 株 (内訳は、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌 196 株、バンコマイシン耐性腸球菌 58 株) について同定検査、薬剤感受性検査及び薬剤耐性遺伝子の解析、また必要に応じて遺伝子型別によるマッチングをそれぞれ

表 3.2 レンサ球菌血清型検査成績 (R6.1 ~ R6.12)

	検査 菌株数	<i>S. pyogenes</i> (A 群) 血清型 (T 型)										B 群	C 群	G 群
		1	4	11	12	13	14/49	28	B3264	UT	小計			
A 群溶血性レンサ球菌 咽頭炎患者分離株	46	19	4	-	8	-	-	-	15	-	46	-	-	-
STSS 患者分離株 *	201	59	1	1	22	1	2	1	11	30	128	12	1	26
合計	247										174	12	1	26

* 届出に満たない重症症例を含む

実施し、流行状況の把握や院内感染疑い事例の解明に努めた。

5) 食品の収去検査

大阪市、大阪府及び中核市の年度監視計画に基づき検査を行った。その内訳は食品製造業、販売店などから収去された食品の細菌学的検査、魚介毒等の検査である。今年度は2,587検体、5,260項目の検査を行った。その検査結果は表3.3に示した。規格基準のある食品はいずれも成分規格適合であった。一方、汚染実態調査では腸管出血性大腸菌は検出されなかったが、サルモネラ属菌は640検体中65検体、カンピロバクターは467検体中25検体が陽性となった。腸炎ビブリオについては加熱用1検体が陽性となった。

6) 食中毒事例等の原因調査

令和6年1月から令和6年12月に大阪府域及び府域、他府県で発生した食中毒、有症苦情等に関連して保健所から当課へ検体が搬入された事例は126事例であった。これらに関連した検体数は、患者及び関係者の便が748検体、食品が28検体、拭き取りが69検体、菌株が2検体の計847検体で、依頼項目数として総計7,397項目（ウイルス課で実施したノロウイルス検査等は含まない）の検査を実施した。126事例のうち、64事例において食中毒病因物質等が検出された（菌株のMLVA型別は含まない）。その検査結果の内訳を表3.4

表3.4 食中毒・有症苦情事例の検査結果

菌種	検査総数	分離株数
黄色ブドウ球菌	741	47
セレウス菌	731	2
サルモネラ	762	13
EHEC・ETEC	726	4
腸炎ビブリオ	723	0
カンピロバクター	734	82
ウェルシュ菌	751	64
チフス菌・パラチフスA菌	724	0
赤痢菌	726	0
コレラ菌	723	0
その他	56	0

に示した。令和6年は、カンピロバクターによる事例に加え、1月に配達弁当を原因とするウェルシュ菌による事例が2件、4月に老人ホームでの食事を原因とするウェルシュ菌による事例、5月、6月に飲食店の食事が原因として疑われた *Salmonella* Enteritidis による事例と *S. Typhimurium* による事例、8月にちらし寿司を原因とするブドウ球菌による事例、9月に飲食店の食事が原因として疑われた腸管毒素原性大腸菌による事例が発生した。紅麴配合食品による健康被害事例においては、旧製造工場の拭き取り検査を行った結果、ペベルル酸産生性青カビ (*Penicillium adametzioides*) が分離された。さらに、紅麴菌と青カビの共培養試験を行ったところ、培養物中にペベルル酸が産生されることが確認された。

7) 貸おしぼりの衛生基準試験

大阪市健康局生活衛生課からの依頼により、11月に市内13施設を対象として計65検体の貸おしぼりについて衛生基準試験を行った。その結果、5施設において衛生基準に不適合（細菌数）と判定された。令和7年2月に当該5施設について再検査を実施した結果、細菌数はすべて衛生基準に適合となった。

2. 調査研究

1) 腸管感染症に関する研究

(1) 食中毒に関する研究

- 耐酸性リステリア・モノサイトゲネス株の培養細胞内での病原因子およびストレス応答因子遺伝子発現量等を比較した。
- 成分規格のない食品の衛生指標菌検査を迅速かつ正確に実施するために、全自動生菌数測定装置（TEMPO）の有用性を検討した。
- 下水について食中毒起因性ウェルシュ菌とディフィシル菌の分布調査を行った。
- 市販鶏肉及び食中毒患者からの食中毒起因性 *Staphylococcus argenteus* の分離、並びに菌株解析用のリアルタイムPCR系の特異性を評価した。
- 鶏肉由来サルモネラ、食品、ウシ及びヒト由来下痢原性大腸菌について薬剤感受性試験を実施した。
- ヒト、食品及びウシ由来カンピロバクターについて薬剤感受性試験、Penner血清型別、改良Penner-PCR

- 型別、mP-BIT 法、MLST 法等を実施した。
 - ・ *Escherichia albertii* を含む下痢原性大腸菌の遺伝子試験法について検討した。
 - ・ セレウス菌保存株を使用して食品中のセレウリド産生性を評価した。
 - ・ 黄色ブドウ球菌新型エンテロトキシン検出法の検討を実施した。
 - ・ リステリア属菌について、ヒト糞便からの分離を実施した。
 - ・ セレウス菌に高濃度に汚染された調理済の高野豆腐からセレウリド（嘔吐毒）の検出を試みるとともに、高野豆腐に存在する耐熱性菌の汚染状況を調べた（大阪市特別調査）。
- (2) 細菌性腸管感染症に関する研究
- ・ 腸管出血性大腸菌分離株について MLVA 法による遺伝子型別と MLVA 法の精度管理を実施した。
 - ・ 市販血清で型別できない EHEC 株の血清型を精査した。
 - ・ 腸管出血性大腸菌の MLVA 法で、PCR 増幅効率が低い傾向にある遺伝子座 EH111-8 および O157-34 について、プライマーを再設計し、評価した。
 - ・ 赤痢菌と腸管侵入性大腸菌の病原遺伝子 *ipaH* についてのリアルタイム PCR 法を評価した。
 - ・ ウシ糞便および体表ふきとり検体を採取し、STEC の検出を試みた（大阪市特別調査）。
 - ・ 健康者由来糞便の増菌培養液から大腸菌の分離を試みるとともに、DNA を抽出し、16SrDNA 遺伝子を標的としたメタゲノム解析を実施した。

2) 呼吸器感染症に関する研究

- (1) 細菌性呼吸器感染症に関する研究
- ・ 結核菌の薬剤感受性試験及び全ゲノム SNPs 解析を実施した。
 - ・ 細菌性呼吸器感染症原因菌について流行株の薬剤感受性試験や全ゲノム配列解析を実施した。
 - ・ M1 型 *S. pyogenes* のうち高病原性と言われる UK 系統株の解析およびリアルタイム PCR 法を用いた UK 系統株鑑別法の検討を実施した。
 - ・ レジオネラ複数事例において全ゲノム配列解析を用いた分子疫学的解析法を検討するとともに、レジオネラ属菌とマウス培養細胞を共培養し菌株間の細胞傷害性を比較した。
- (2) 薬剤耐性菌感染症に関する研究

- ・ 大阪府域で分離されたバンコマイシン耐性腸球菌 (VRE) について PFGE を実施して流行株の解析を行った。
- ・ 大阪府内で流通する鶏肉および大阪府内で採取した下水の VRE 汚染実態調査を実施した。
- ・ 大阪府域・市域で分離された薬剤耐性菌について性状解析及び全ゲノム配列解析を実施した。
- ・ 大阪府域で分離された市中感染型 MRSA 疑いの菌株について、性状解析及び遺伝子解析を実施した。

3) 衛生動物を介する感染症に関する研究

(1) 動物由来感染症に関する研究

- ・ 大阪市域のイヌ・ネコからパスツレラ症原因菌の保有調査を実施した。
- ・ 伴侶動物由来カプトサイトファーガ属菌のゲノム配列解析を実施した。

3. 講演、委員会、研修等

1) 講演等

- R6.10.18 令和6年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部細菌部会研究会 2000年に発生した低脂肪乳等を原因とする大規模食中毒を振り返って（河合）
- R6.11.29 第55回日本食品微生物学会学術セミナー（日本食品微生物学会）食品細菌検査における技術進歩に伴う考え方の変遷（神吉）
- R6.11.29 第55回日本食品微生物学会学術セミナー（日本食品微生物学会）地方衛生研究所における次世代シーケンサーの活用と今後の展望（若林）
- R7.2.21 Symposium on collaborations with Medical Sciences, Veterinary Sciences and Engineering to fight infectious diseases Molecular epidemiology of non-O157 Shiga toxin-producing *Escherichia coli* isolates from humans and bovines in Japan（若林）

2) 委員会等

- 四條畷、泉佐野、八尾市、吹田市、各保健所結核コホート検討会議（計16回）（田丸、山本）
- 大阪感染症情報解析委員会（神吉、中村、田丸、河原、梅田、原田、山口、坂田、余野木、山本、梅川、平井、高橋）

大阪市衛生検査所精度管理専門委員（中村）

大阪市結核分子疫学検討会（6回）（山本、田丸）

大阪市結核解析評価検討会（9回）（山本、田丸）

大阪市感染症発生动向調査解析評価検討会（6回）（田丸、梅田）

大阪府衛生検査所精度管理審議会（2回）（河原）

内閣府食品安全委員会薬剤耐性菌に関するワーキンググループ専門委員（中村）

3) 研修等の受講

R6.7.18-19 病原体等の包装・運搬講習会（大阪府）

R6.8.22-23 第3回 下痢原性大腸菌等遺伝子検査法講習会（宮崎大学）

R6.10.8 令和6年度 薬剤耐性菌に関する研修 アップデートコース（国立感染症研究所）

R6.12.13 令和6年度第2回 阪神地区感染症懇話会（感染症担当者研修会）（大阪府）

R6.12.18-19 希少感染症診断技術研修会（厚生労働省）

R6.6.14 感染症担当者研修会（大阪府）

R6.10.20-11.8 令和6年度細菌研修（国立保健医療科学院）

ウイルス課

ウイルス課は、大阪府・大阪市におけるウイルス感染症の病原体検出、府民・市民の免疫保有率の実態を把握するため、大阪府健康医療部感染症対策課や大阪府の保健所、大阪市保健所感染症対策課と緊密に連携し、腸管感染症（ウイルス性下痢症・エンテロウイルス感染症）、呼吸器感染症、発しんを主徴とする感染症、HIV 感染症、HTLV-1 感染症やその他の性感染症、節足動物媒介・動物由来感染症について検査・調査を行っている。

国の感染症発生動向調査事業として、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）に基づく検査・調査では、大阪府、大阪市内の定点医療機関及びインフルエンザ定点機関と協力し、定点把握感染症の病原体検出を行った。インフルエンザウイルスについて、薬剤耐性に影響を与える遺伝子変異の解析を行った。また、全数把握感染症について、2 類、4 類、5 類感染症についても病原体検出を行った。HIV と HTLV-1 の確認検査を実施するとともに、HIV 感染者の早期探知のため、NPO や協力診療所と連携し HIV 検査の受検機会の提供を行った。節足動物媒介感染症については、大阪府保健所、大阪市保健所、中核市保健所と協力し、蚊を定期的に採取し、蚊の形態学分類、蚊媒介ウイルス（デングウイルス、チクングニアウイルス、ウエストナイルウイルス、ジカウイルス、日本脳炎ウイルス）の検出を行い監視した。また、蚊の形態学分類について、保健所職員を対象に研修を行った。

国の感染症流行予測調査事業として、予防接種法に基づく調査・検査では、定期ワクチン接種対象である日本脳炎ウイルス、麻しんウイルス、水痘ウイルス、ヒトパピローマウイルス、B 型肝炎ウイルスを対象とした抗体保有調査を行い、また感染源調査では環境水からのポリオウイルスの検出・分離を行った。

食品衛生法に基づくウイルス性食中毒の検査として、食中毒疑い事例においてノロウイルス検査を行った。

1. 試験検査

1) 腸管系ウイルス

(1) ウイルス性胃腸炎

① 感染症発生動向調査事業

令和 6 年度は、128 検体の搬入があり、ノロウイルス GI が 1 件、ノロウイルス GII が 46 件、サポウイルスが 8 件、アストロウイルスが 2 件、A 群ロタウイルスが 19 件検出された（検出率 59.4%）。ノロウイルス GII の遺伝子型は GII.4[P16] が 16 件、GII.7[P7] が 11 件、GII.17[P17] が 10 件、GII.6[P7] が 5 件、GII.Genotype 未同定 (GII.NT) が 4 件であった。A 群ロタウイルスの VP7 遺伝子型は、G3 が 14 件、G2、G8 が各 2 件、G1 が 1 件であった。サポウイルスの遺伝子型は、GII.5 が 5 件、GII.3 が 3 件であった。アストロウイルスの遺伝子型は HAstV-1 と HAstV-4 が各 1 件であった。（主担：左近、白井）

② 集団胃腸炎事例

令和 6 年度にヒト-ヒト感染により集団胃腸炎（10 人以上の胃腸炎患者）と推定された事例のうち、当所に

て検査を実施した事例は 165 事例であった。検出されたウイルスは、ノロウイルス GII が最も多く 118 事例、次いでサポウイルスが 17 事例、A 群ロタウイルスが 15 事例、アデノウイルスが 9 事例、ノロウイルス GI とアストロウイルスが各 2 事例であった。この中で異なるウイルスが検出された混合事例は 8 事例であった。混合事例の内訳はノロウイルス GII とサポウイルスが 2 事例、サポウイルスと A 群ロタウイルスが 1 事例、ノロウイルス GII と A 群ロタウイルスが 1 事例、サポウイルスとアデノウイルスが 1 事例、A 群ロタウイルスとアデノウイルスが 1 事例、ノロウイルス GI とアストロウイルスが 1 事例、アデノウイルスとパレコウイルス A が 1 事例であった。また、令和 6 年に大阪府管内の 3 保健所にてノロウイルスが 58 事例 146 検体で検出された。遺伝子型別は GII.7[P7] が最も多く 29 事例、次いで GII.4[P16] が 21 事例であった。その他 GII.17[P17] が 3 事例、GII.3[P12] と GI.1[P1] がそれぞれ 2 事例より検出された。GII.6[P7]、GI.2[P2]、GI.3[P10]、GI.6[P11] は各 1 事例から検出された。上記集計は混合事例を含んでいる。（主担：左近、白井）

(2) エンテロウイルス

令和6年度中に、大阪府および大阪市の感染症発生動向調査事業病原体定点から搬入されたエンテロウイルス感染症疑い症例から検出されたエンテロウイルスは、コクサッキーウイルスA (CV-A) 6、CV-A10、CV-A16、エコーウイルス7型 (E-7)、E-9、E-11、エンテロウイルスA71 (EV-A71)、エンテロウイルスB種であった。

手足口病疑い患者では5月から8月にかけて23名からCV-A6、5月に2名からCV-A10、7月から11月にかけて4名からEV-A71、7月から1月にかけて16名からCV-A16が検出された。ヘルパンギーナ疑い患者では6月にCV-A6とE-11が1名ずつから検出された。無菌性髄膜炎疑い患者では8月に1名からE-9、11月に1名からE-9およびエンテロウイルスB種、1名からE-7が検出された。(主担：中田、前田)

(3) 肝炎

令和6年度は、A型肝炎4症例について遺伝子検査を実施し、そのうち3症例からA型肝炎ウイルスが検出され、いずれもIAに分類された。E型肝炎は5症例について遺伝子検査を実施し、そのうちE型肝炎ウイルスが4症例から検出され、3症例がG3、1症例がG4に分類された。(主担：左近、白井)

2) 食中毒

保健所から当課に搬入された食中毒(疑い、有症苦情、他府県関連を含む)に関連したノロウイルス検査は133事例865検体(前年比56%増)であった。4事例からノロウイルスGI、71事例からノロウイルスGII、5事例からノロウイルスGIおよびGIIが検出された(表4.1)。単一の遺伝子型が検出された事例はGII.17[P17]が47事例、GII.7[P7]が9事例、GII.4[P16]が7事例、GI.1[P1]が4事例、GII.3[P12]が2事例、GII.12[P16]とGII.8[P8]が各1事例であった。複数の遺伝子型が検出された事例は5事例あり、GII.4[P16]とGII.17[P17]、GI.NTとGII.4[P16]、GI.NTとGII.17[P17]、GI.NTとGII.2[P16]とGII.17[P17]、GI.NTとGII.NTが各1事例であった。ノロウイルス陰性だった1事例についてはサポウイルスの検査を行い、サポウイルスGII.5が検出された。

その他に1事例について食品のノロウイルス検査を実施したが陰性であった。(主担：左近、白井)

3) インフルエンザ及びその他呼吸器ウイルス

(1) インフルエンザ

2023/24シーズンは第17週に定点あたり患者数が1.0を下回り、流行期が終了した。9月初旬の第36週から始まる2024/2025シーズンは11月中旬となる第46週に流行期入りした。流行期入り後、患者数が急激に増加し、第49週には注意報レベルの定点あたり患者数10.0を超え、2024年第51週には警報レベルの30.0を超す45.75となった。第52週に患者報告数は66.27のピークとなり、その後減少に転じた。感染症サーベイランスに基づく病原体定点からの2024/2025シーズン入りから4月末までの採取検体からはインフルエンザウイルスが220例検出され、内訳はAH1pdm亜型160例、AH3亜型37例、B型Victoria系統23例である。また、得られた分離株の一部について薬剤耐性に関連する遺伝子変異を検出しているが、現在までに変異は見つかっていない。(主担：森川)

(2) アデノウイルス

アデノウイルスは前年度のような大きな流行はなく、咽頭結膜熱検体からはAd1が1例、Ad2が6例、Ad3が2例、Ad54が1例検出された。流行性角結膜炎検体からは14型が1例、37型が2例、56型が1例検出されている。感染性胃腸炎検体からは2型が2例、3型が1例、41型が7例、型不明が8例であった。(主担：廣井、平井)

(3) RSウイルス

2024年度は、前年度2月から引き続きRSウイルス感染症の流行がみとめられ、4月がピークであったが、例年ほど流行の波が下がりきらないまま2025年1月より検出が増加している。RSウイルス陽性となった検体は計24例で、遺伝子型別の結果、A型が13例、B型が11例であった。(主担：小山、廣井)

(4) 新型コロナウイルス

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、令和6年7月をピークとした流行があり、オミクロン株KP.3系統のウイルスが中心であった。令和6年の冬はXEC株が流行の中心であるが、前年と比較して報告数は少ない状況である。検査の依頼は2例のみであった。また、大阪府の積極的疫学調査検体(191検体)についてはウイルス課でCt値を測定後、新型コロナウイルスゲノム解析チームにより全ゲノム配列解析が実施され、関係

表 4.1 (1) ノロウイルスが検出された食中毒疑い事例

No.	保健所	検査開始日	発生施設	検体数	検出ウイルス
1	茨木、大阪市	2024/4/2	飲食店等	15	ノロウイルス GII
2	大阪市、和泉、池田	2024/4/6	飲食店等	5	ノロウイルス GII
3	四條畷、大阪市、八尾市、枚方市	2024/4/12	飲食店等	19	ノロウイルス GII
4	吹田市	2024/4/12	他府県等	1	ノロウイルス GII
5	大阪市、守口、四條畷、和泉	2024/4/16	他府県等	5	ノロウイルス GII
6	藤井寺	2024/4/17	飲食店等	1	ノロウイルス GII
7	大阪市	2024/4/23	飲食店等	7	ノロウイルス GII
8	藤井寺	2024/4/25	飲食店等	12	ノロウイルス GII
9	大阪市	2024/5/1	飲食店等	2	ノロウイルス GII
10	藤井寺	2024/5/3	他府県等	3	ノロウイルス GII
11	大阪市	2024/5/9	他府県等	1	ノロウイルス GI
12	和泉	2024/5/9	飲食店等	2	ノロウイルス GII
13	大阪市、茨木	2024/5/12	飲食店等	5	ノロウイルス GII
14	大阪市、藤井寺	2024/5/16	飲食店等	26	ノロウイルス GII
15	富田林	2024/5/22	飲食店等	10	ノロウイルス GII
16	池田、吹田市	2024/8/20	飲食店等	2	ノロウイルス GI+GII
17	大阪市	2024/8/29	他府県等	2	ノロウイルス GII
18	和泉	2024/9/30	飲食店等	2	ノロウイルス GI
19	東大阪市、寝屋川市、四條畷、大阪市	2024/11/16	事業所等	18	ノロウイルス GII
20	寝屋川市	2024/11/19	飲食店等	2	ノロウイルス GI
21	茨木	2024/11/19	他府県等	1	ノロウイルス GII
22	大阪市	2024/11/29	他府県等	5	ノロウイルス GII
23	吹田市、大阪市、茨木	2024/12/9	他府県等	6	ノロウイルス GII
24	大阪市、茨木、和泉、守口、岸和田	2024/12/10	飲食店等	28	ノロウイルス GII
25	吹田市	2024/12/13	他府県等	2	ノロウイルス GII
26	大阪市、守口、四條畷	2024/12/18	飲食店等	19	ノロウイルス GII
27	八尾市	2024/12/26	飲食店等	13	ノロウイルス GII
28	大阪市	2025/1/4	飲食店等	23	ノロウイルス GII
29	大阪市	2025/1/16	他府県等	1	ノロウイルス GI
30	大阪市、茨木、吹田市	2025/1/16	飲食店等	3	ノロウイルス GII
31	東大阪市、池田	2025/1/21	飲食店等	2	ノロウイルス GII
32	大阪市、岸和田	2025/1/22	飲食店等	5	ノロウイルス GII
33	富田林	2025/1/29	他府県等	4	ノロウイルス GII
34	四條畷	2025/1/30	他府県等	1	ノロウイルス GII
35	守口、寝屋川市	2025/2/5	飲食店等	5	ノロウイルス GI+GII
36	藤井寺	2025/2/5	飲食店等	4	ノロウイルス GII
37	大阪市、富田林	2025/2/7	飲食店等	29	ノロウイルス GII
38	大阪市、吹田市	2025/2/7	他府県等	4	ノロウイルス GII
39	富田林、藤井寺、吹田市、大阪市、四條畷	2025/2/13	飲食店等	65	ノロウイルス GII
40	八尾市	2025/2/15	飲食店等	13	ノロウイルス GI+GII
41	池田	2025/2/15	飲食店等	1	ノロウイルス GII
42	富田林	2025/2/15	他府県等	1	ノロウイルス GII
43	和泉	2025/2/17	飲食店等	5	ノロウイルス GII
44	茨木	2025/2/18	施設等	10	ノロウイルス GII
45	大阪市	2025/2/19	飲食店等	5	ノロウイルス GI+GII
46	吹田市、岸和田	2025/2/19	飲食店等	5	ノロウイルス GII
47	大阪市	2025/2/20	飲食店等	14	ノロウイルス GII
48	大阪市	2025/2/20	飲食店等	5	ノロウイルス GII
49	大阪市	2025/2/20	飲食店等	1	ノロウイルス GII
50	大阪市	2025/2/20	飲食店等	5	ノロウイルス GII
51	大阪市、富田林	2025/2/21	飲食店等	6	ノロウイルス GII
52	大阪市	2025/2/21	飲食店等	4	ノロウイルス GI+GII
53	大阪市、吹田市	2025/2/22	他府県等	3	ノロウイルス GII
54	藤井寺、大阪市、富田林	2025/2/24	飲食店等	9	ノロウイルス GII
55	四條畷	2025/2/26	飲食店等	11	ノロウイルス GII
56	藤井寺	2025/2/27	飲食店等	3	ノロウイルス GII
57	大阪市	2025/2/27	他府県等	2	ノロウイルス GII
58	富田林	2025/2/28	飲食店等	2	ノロウイルス GII

表 4.1 (2) ノロウイルスが検出された食中毒疑い事例

No.	保健所	検査開始日	発生施設	検体数	検出ウイルス
59	大阪市	2025/3/1	飲食店等	6	ノロウイルス GII
60	大阪市、富田林、和泉	2025/3/2	飲食店等	35	ノロウイルス GII
61	泉佐野	2025/3/2	施設等	20	ノロウイルス GII
62	大阪市、岸和田	2025/3/2	飲食店等	13	ノロウイルス GII
63	大阪市	2025/3/3	飲食店等	1	ノロウイルス GII
64	東大阪市	2025/3/6	飲食店等	2	ノロウイルス GII
65	大阪市	2025/3/6	他府県等	1	ノロウイルス GII
66	枚方市	2025/3/7	飲食店等	4	ノロウイルス GII
67	藤井寺	2025/3/10	学校等	2	ノロウイルス GII
68	岸和田、泉佐野	2025/3/13	飲食店等	6	ノロウイルス GII
69	富田林	2025/3/13	飲食店等	10	ノロウイルス GII
70	吹田市	2025/3/18	施設等	16	ノロウイルス GII
71	寝屋川市、藤井寺、和泉	2025/3/18	飲食店等	11	ノロウイルス GII
72	池田	2025/3/19	他府県等	1	ノロウイルス GII
73	大阪市	2025/3/20	他府県等	1	ノロウイルス GII
74	大阪市	2025/3/21	飲食店等	10	ノロウイルス GII
75	八尾市	2025/3/26	飲食店等	7	ノロウイルス GII
76	高槻市、茨木	2025/3/27	飲食店等	7	ノロウイルス GII
77	大阪市	2025/3/29	飲食店等	2	ノロウイルス GII
78	八尾市	2025/3/29	他府県等	1	ノロウイルス GII
79	四條畷	2025/3/29	施設等	13	ノロウイルス GII
80	大阪市	2025/3/31	施設等	8	ノロウイルス GII

行政機関に結果を還元した。(主担：廣井)

(5) その他の呼吸器ウイルス

急性呼吸器感染症または原因不明感染症から採取された180検体について、19ウイルス(亜型を含む)の遺伝子検査をおこなった。79検体(43.9%)から95例のウイルスを検出した。最も多く検出されたウイルスはライノウイルス28例であり、次いで、RSウイルス10例、ヒトボカウイルス10例、ヒトメタニューモウイルス9例の順であった。(主担：改田、平井)

4) エイズ、性感染症

(1) HIV 感染確認検査

2024年度にHIV感染確認検査を行った検体は166件であり、昨年度と比較して5件(3.1%)増加した。そのうち、HIV-1陽性と確認されたものは89件であったが(HIV-2陽性は0件)、そのうち34件は大阪府の実施するクリニック検査キャンペーン「¥0(ゼロエン)性病検査!」を利用した治療中のHIV陽性者の検体であり、これを除いた55件を前年度の陽性数72件と比較すると、17件(23.6%)の大きな減少となった。陽性例を依頼元で分類すると、政令市・中核市を含む府内保健所が13件(3件減)、大阪予防啓発相談支援センター(chotCAST)の火曜夜間検査が2件(3件減)、同木曜夜間即日検査が6件(2件減)、同土曜即日検査が8件(増

減なし)、同日曜即日検査が8件(2件増)、大阪府内の医療機関からのものが18件(11件減)と、自発検査の陽性件数と医療機関で診断される陽性件数、ともに減少した。府外の医療機関からの依頼における陽性例は0件(増減なし)であった。55件の陽性例の内訳は、日本人男性が27件、外国人男性が10件、国籍不明男性が18件であった。

本年度、抗体価が低く、HIV-1/2抗体確認検査試薬(Genius)で判定保留または陰性となり、リアルタイムRT-PCR法(核酸増幅検査:NAT)によって感染が確認された感染初期例と思われる陽性件数は2件(増減なし)であった。(主担：阪野、浜、川畑)

(2) HTLV 感染確認検査

国のHTLV-1総合対策に沿って大阪府内の自治体が保健所において実施するHTLV-1抗体検査で陽性になった検体について、依頼を受けHTLV抗体の確認検査(HTLV-1、HTLV-2の型別を含む)を実施している。2024年度は大阪府の保健所から依頼された1件についてHTLV確認検査を行ったところ、HTLV-1抗体陽性であった。(主担：阪野、浜、川畑)

(3) MSM 向け HIV/STI 検査相談事業

当研究所が協力し、大阪府の事業として府内の診療所11ヶ所とCBO(community-based organization: 地域社会に根ざした組織)の協力を得て実施しているゲイ・バ

イセクシャル男性向け HIV/STI 検査事業（令和 6 年 8 月 19 日～9 月 30 日まで実施）において、337 名が受検し、治療中の HIV 陽性者をのぞいた新規の HIV-1 陽性者は 1 名（0.30%）であった。また、府内 1 ケ所と兵庫県内 2 ケ所の診療所と CBO の協力を得て研究事業として、府の事業と一体化してみえるよう同じ期間に実施したゲイ・バイセクシャル男性向け HIV/STI 検査（令和 6 年 10 月 1 日～10 月 31 日まで実施）において、129 名が受検し、HIV-1 陽性者は 0 名（0%）であった。（主担：川畑、阪野、浜）

5) 麻しん、風しん、エムポックス

麻しんおよび風しん疑い 197 症例に対し核酸検査を実施し、13 症例で麻しんウイルスが陽性であった。13 症例中 1 症例は遺伝子型 D8、10 症例は遺伝子型 B3、2 症例は遺伝子型 A（ワクチン株）であった。風しんウイルスはすべての症例で陰性であった。遺伝子型 B3 の麻しんウイルスは、主にベトナムからの輸入症例とその関連症例から検出された。エムポックス疑い 6 症例は、全て核酸検査陰性であった。（主担：倉田、上林）

6) 突発性発しん、水痘、伝染性紅斑

突発性発しん疑い 3 症例のうち、2 症例からヒトヘルペスウイルス 6（HHV6）が検出された。水痘疑い 7 症例のうち、4 症例から水痘帯状疱疹しんウイルス（VZV）が検出された。伝染性紅斑疑い 3 症例のうち、2 症例からヒトパルボウイルス B19 が検出された。

（主担：倉田、上林）

7) 節足動物媒介性ウイルス、リケッチア、マラリア

蚊媒介性感染症（デング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症、ウエストナイル熱、マラリア）やダニ媒介感染症（SFTS、つつが虫病、日本紅斑熱、Q 熱）が疑われた 64 例（129 検体）を検査し、デングウイルスが 8 例（1 型 3 例、2 型 2 例、3 型 3 例）、ジカウイルスが 1 例、SFTS ウイルスが 3 例、日本紅斑熱リケッチアが 16 例（遺伝子検査陽性 12 例、抗体検査陽性 4 例）、つつが虫病リケッチアが 1 例（遺伝子検査陽性）、熱帯熱マラリア原虫が 2 例検出された。（主担：医動物グループ）

8) 一般依頼による試験・検査業務

(1) 糞便検査

4 月以降、寄生虫卵 1 例を検査し、陰性であった。

2. 調査研究

1) 腸管感染症に関する研究

(1) 下痢症ウイルスの分子疫学解析と流行に関する研究

大阪における長期サーベイランスではノロウイルスについて dual typing を実施し、全年齢層を網羅する疫学情報の集積を継続している。加えて、下水中に存在するウイルスの検出を 1 年にわたって実施し、流行の予測化およびバリエーション解析に基づく感染実態の把握に取り組んだ。特にサポウイルスの検出において、次世代シーケンズにより解析した（共同研究）。その結果、下水のサポウイルス遺伝子型は患者からの検出株では検出されなかった遺伝子型の検出も認められ、人における感染実態を示していることが推察された。

また、COVID-19 流行前後のノロウイルス RdRp および VP1 の遺伝子配列全長データを取得し、進化系統樹解析を行った。異なるタイプの RdRp を有する GII.4[P31] と GII.4[P16] それぞれの進化速度を系統樹解析により比較した結果、差は見られなかった。GII.4[P16] の検出年数が短いため今後の継続的な解析を行う必要がある。（主担：左近、白井）

2) 呼吸器感染症に関する研究

(1) ウイルス性呼吸器感染症に関する研究

インフルエンザウイルスについては前シーズンである 2023/2024 シーズンが、2009 年の新型インフルエンザパンデミック以降初となる、夏季の流行入りとなった。2023/2024 シーズンにインフルエンザ患者から分離されたウイルスは AH1pdm09 亜型、AH3 亜型、BVictoria 系統が同程度検出され、HA 遺伝子の全長を用いた系統樹解析の結果、いずれの分離株も 2023/2024 シーズンのそれぞれのワクチン株が位置するクレードから、さら細分化されたクレードに属することが明らかとなった。

また、インフルエンザウイルスの検出が陰性だった上気道由来検体 11 検体から網羅的に原因ウイルスの検出を試みたところ、6 検体からエンテロウイルス / ライノ

ウイルス共通領域が陽性となった。そのうちの2検体はそれぞれヒトボカウイルス、アデノウイルス3型との重感染であった。共通領域が陽性の6検体のうち、5検体でライノウイルスが陽性となり、BLASTを用いた型別の結果A78型、102型、C1型、15型、51型と判定された。(主担：森川)

小児におけるインフルエンザワクチンの有効性モニタリングとして、府内の4小児科と福岡県内の3小児科を対象に、症例・対照研究を行っている。最終シーズンとなった2023/2024シーズンは、6歳未満小児における513名を対象としてtest-negative designで有効性を評価したところ、有意な発症予防効果を認めた。(大阪公立大学との共同研究、厚生労働科学研究費)(主担：森川、廣井)

RSウイルスについて、2019年度～2024年度に大阪府下で検出されたA型44検体、B型31検体を対象としてGタンパク質及びFタンパク質領域の遺伝子解析を実施した。Gタンパク質領域についてA型41検体、B型28検体、Fタンパク質領域についてA型30検体、B型24検体の系統樹解析の結果、A型、B型ともに近年国内外で検出されている株と近縁であった。(主担：小山、廣井)

アデノウイルスについては、2024年に咽頭結膜熱検体から検出された1型1株、2型6株、3型2株、54型1株のヘキソン遺伝子可変領域の塩基配列を解析したが、特徴的な変異は認められなかった。流行性角結膜炎の検体からは大阪で初めて14型が分離され、ペントン、ヘキソン可変領域、ファイバーの各領域の塩基配列を解析した結果、14p1型であることが確認された。(主担：廣井、小山、平井、改田)

新型コロナウイルスについては、VeroE6 TMRSS細胞を用いてウイルス株の分離を試み、オミクロン KP.3.3 を分離した。被験者の血清を用いて KP.3.3 株に対する中和抗体価を測定した結果、BA.5 系統に対する中和抗体価と比較して有意に低く、ウイルスの抗原性が変化していることが確認された。(主担：廣井)

(2) 発しん性ウイルス感染症に関する研究

2024年2月から3月にかけて大阪府内で検出された麻しんウイルス核酸検査のプライマー結合領域に変異を持つ遺伝子型D8の麻しんウイルスについて、現状のリアルタイムPCRの検出感度への影響評価と検査系の改良を行い、学会発表および論文報告を行った。(主担：

倉田、上林)

風しんの長期疫学解析を実施し、2011年以降の風しん流行は、国外から持ち込まれた風しんウイルスによる感染が感受性者の間で拡大したことが原因であることを明らかにした。(主担：上林、倉田)

3) HIV およびその他の性感染症に関する研究

(1) HIV 感染症に関する研究

性感染症関連の2診療所を定点としたHIV疫学調査において、検査を実施した78例中、HIV-1陽性例が1例検出された(陽性率1.28%)。(主担：川畑、阪野、浜)

2024年1月～12月のHIV確認検査陽性検体49例のうち、env-V3領域の遺伝子解析により16例中3例(18.8%)から感染後期に出現するとされるX4タイプのHIV-1が検出された。また22例についてHIV-1のpolおよびenv領域の塩基配列よりサブタイプ型別を行った結果、15例(68.2%)がサブタイプBであった。B以外のサブタイプ(non-Bサブタイプ)は7例であった(CRF01_AEが4例、Cが1例、リコンビナント株のBCが1例、CRF25_cpxが1例)。22例の未治療HIV-1感染例について薬剤耐性遺伝子検査を実施したところ、3例(13.6%)において薬剤耐性関連アミノ酸変異が検出された。(主担：阪野、浜、川畑)

(2) HIV 感染症以外の性感染症に関する研究

HIVスクリーニング検査実施時にHBs抗原検査を実施していなかったHIV確認検査陽性検体26例と、性感染症関連の2診療所を定点としたHIV疫学調査において得られたHIV感染についてリスクの高い性行動を取る人の血清78検体について、B型肝炎ウイルスの抗原(HBs抗原)の検査を実施したところ、3例が陽性であった。治療中のHIV陽性者を含む、HIV確認検査陽性例79例についてHTLV-1抗体検査を実施したところ、全て陰性であった。昨年に引き続きMSM向けHIV検査の保存検体を用いたHTLV-1抗体保有状況調査を実施した結果、のべ4469検体の血漿または血清より10件のHTLV-1抗体陽性例を検出し、少なくとも1名の水平感染を突き止めた。医療機関からの依頼により梅毒トレポネーマの核酸増幅検査を98例実施したところ、57例が陽性であった。昨年度に引き続き、先天梅毒疑い症例(6症例目)の生存児とその母から採取された検体の梅毒TP遺伝子の検出を行ったが、すべて陰性であった。企業との共同研究により昨年度発売された、マイクロ

流路を利用したリアルタイム PCR 装置用の梅毒トレポネーマ遺伝子検出試薬について、皮膚病変部からスワブ検体を採取する手法に関する啓発用動画を作成し公開した。大阪府内の診療所と国立感染症研究所との共同で薬剤耐性淋菌のサーベイランスを実施し、2024 年 4 月から 2025 年 3 月末までに得られた 108 株の分離淋菌株について解析を行った。(主担：川畑、阪野、浜)

4) 衛生動物を介する感染症に関する研究

(1) 衛生動物の発生状況、管理指導に関する研究

蚊媒介感染症のサーベイランスについては、府内 42 地点(大阪市・中核市依頼検査分を含む)で捕獲された蚊(525 プール、5298 頭)に対してウエストナイルウイルス、フラビウイルス属ウイルス、デングウイルス、チクングニアウイルスの遺伝子検査を行った。その結果、上記のウイルスはすべて検出されなかった。ウエストナイル熱に関する死亡鳥類調査事業については、死亡カラス 4 頭を遺伝子検査し、全てウエストナイルウイルス陰性であった。また、令和 6 年度蚊媒介感染症対策訓練(実地訓練：大阪城公園、机上訓練：大安研)において、シナリオ作成、実地研修、講師として協力した。2025 年 4 月より大阪・関西万博が開催予定であり、海外から持ち込まれる蚊媒介性ウイルス感染症のリスクが増加する。これら感染症の早期発見、早期対応のためにも、本サーベイランスは危機管理対策の一つとして重要であり、継続して実施する必要があると考えられる。(主担：医動物グループ)

大阪市特別調査として、蚊類のオビトラップ(産卵トラップ)による幼虫(ボウフラ)の密度調査を 8 か所で実施し、2 種 2547 頭を同定した。成虫の少ない地点でも多く幼虫が発生しており、成虫、幼虫両方の調査が必要であることが示された。クスノキの落葉がサクラより好成績となり、オビトラップに用いる落葉の種は結果に影響することが示された。今後も蚊幼虫の生息密度を把握し、ウエストナイル熱やデング熱の潜在媒介蚊の動向を明らかにすることは重要と考えられた。(主担：山崎)

大阪府環境衛生監視員、大阪市生活衛生課職員に対し、蚊・ダニ媒介感染症の研修とそ族昆虫に関する研修を実施した。担当職員の同定能力ならびに対住民指導能力の向上をはかることは、公的機関として重要な任務と考えられた。(主担：医動物グループ)

大阪市保健センターからの害虫相談、食品や家屋の害

虫の同定とアドバイスを今年度は 6 件実施した。害虫の相談件数は減少傾向である。(主担：山崎)

(2) 動物由来感染症に関する研究

大阪府動物由来感染症サーベイランスとして、動物愛護畜産課とともに府内で捕獲されたアライグマ 100 頭に対して日本紅斑熱の感染実態調査を実施した結果、49 頭(49%)に日本紅斑熱の抗体保有が確認された。大阪府動物管理愛護センターより搬入されたイヌ 10 頭に対して狂犬病ウイルスの遺伝子検査を実施した結果、全て陰性であった。(主担：医動物グループ)

野生動物における日本紅斑熱や SFTS の抗体調査を実施したところ、アライグマ(上記サーベイランスを含む) 221 頭のうち、日本紅斑熱は 124 頭(陽性率 56%)、SFTS は 59 頭(陽性率 27%)で抗体が陽性となり、府内での日本紅斑熱や SFTS の浸淫地域が拡大している可能性が示唆された。また、大阪府内のマダニを採集し、リケッチア・SFTS ウイルスの保有について調査するため、マダニ 71 匹を同定鑑別し遺伝子検査を実施したところ、紅斑熱群リケッチア 17/32 プール(陽性率 53%)を検出した。SFTS は全て陰性であった。また SFTS が疑われた伴侶動物 12 頭について遺伝子検査を実施したところ、ネコ 3 頭(陽性率 25%)が陽性となった。ただし陽性は全て府外からの依頼検体であった。(主担：青山、池森)

(3) 日本脳炎ウイルスに対する感受性調査(抗体保有調査)

厚生労働省感染症流行予測調査事業の一環として、大阪府民の日本脳炎ウイルスに対する感受性調査を実施した。各年齢層を含む 257 名について調べた結果、全体の抗体保有率は 64%であった。(主担：医動物グループ)

(4) 寄生虫等の分類、同定、検査法に関する研究

臨床、動物等に由来する寄生虫と食品等に認める寄生虫または寄生虫様の異物について、その同定法の技術向上に努めた。ヒト由来の有鉤囊虫、日本海裂頭条虫、ヘビ由来のマダニ、鮮魚由来の粘液胞子虫等の同定を実施した。有鉤囊虫はプライマー部に変異のある株であったため、従来法では増幅しなかった。日本海裂頭条虫はホルマリン固定されて間もない検体では分子同定できたが、半年間浸漬された検体では同定できなかった。

令和 6 年 1～12 月にかけて大阪府に流通する魚介類 31 種類 328 個体を調査し、287 虫体の寄生虫が検出された。食品媒介寄生虫症の原因となるアニサキスの他、

異物苦情の原因となる粘液胞子虫のシストが確認された。(主担：馬場)

3. 講演、委員会、研修等

1) 講演等

- R6.6.15 第37回近畿エイズ研究会学術集会・第12回日本性感染症学会関西支部総会 合同ミニシンポジウム「増え続ける梅毒にどう立ち向かうか」梅毒トレポネーマのPOCTと薬剤耐性について(川畑)
- R6.7.5 令和6年度大阪府蚊媒介感染症対策訓練「蚊と蚊媒介感染症 その対策について」(青山)
- R6.7.26 第39回日本環境感染学会総会 シンポジウム「地方衛生研究所における下水サーベイランス」(左近)
- R6.7.10 衛生微生物技術協議会 第44回研究会 シンポジウムI 梅毒 梅毒トレポネーマの核酸増幅検査とその応用(川畑)
- R6.8.24 第4回かんさい感染症セミナー 長期疫学(1982～2023)からわかること：麻しんの排除と排除維持(倉田)
- R6.8.24 第4回かんさい感染症セミナー 長期疫学(1982～2023)からわかること：風しんの排除にむけて(上林)
- R6.9.19 令和6年度 大阪市感染症発生動向調査委員会「急性呼吸器感染症のウイルス検査」(改田)
- R6.10.29 令和6年度ノロウイルス食中毒予防講習会「ノロウイルスの特徴と傾向について」(白井)
- R6.11.8 第54回全国市場食品衛生検査所協議会全国大会 食品にみられる寄生虫について(馬場)
- R6.12.4 防菌防黴学会 微生物汚染と対策に関する基礎講座シンポジウム「新型コロナウイルス流行に伴う感染症の発生動向(感染性胃腸炎を中心に)」(左近)

2) 委員会等

- R6.9.17 大阪府アライグマ対策連絡協議会総会(オブザーバー参加、池森、青山)
- R6.10.25 第16回大阪市エイズ対策評価委員会(オブザーバー参加、川畑)
- R6.11.6 大阪市感染症発生動向調査委員会梅毒部会(オブザーバー参加、川畑)

- 大阪市感染症発生動向調査解析評価検討会(6回)(川畑)
- R6.9.19 大阪市感染症発生動向調査委員会(改田)
- 内閣府食品安全委員会専門委員会(3回)(左近)
- R6.12.27 茨木市環境保全対策専門指導委員会(左近)
- R7.3.13 大阪府動物由来感染症対策会議(オブザーバー参加、青山)

3) 研修等の受講

- R6.5.29-31 第38回バストロジー実習講座(日本環境衛生センター)、川崎市
- R6.6.20-21 令和6年度(第13回)蚊類調査に係る技術研修会(国立感染症研究所)、東京
- R6.10.16-18 農林交流センターワークショップ「次世代シーケンサーのデータ解析技術」(筑波産学連携支援センター)
- R6.11.2 輸入感染症・動物由来感染症オンライン講習会(国立国際医療センター)
- R6.11.18,22 大阪・関西万博に係る擬似症サーベイランス研修会(大阪府)、大阪市
- R6.12.4-6 狂犬病ブロック研修(国立感染症研究所)
- R6.12.18-19 希少感染症診断技術研修会(国立感染症研究所) web開催
- R7.1.30-31 ゲノムデータ解析研修会(近畿地区)
- R7.2.5-6 動物由来感染症リファレンスセンター研修会(SFTS検査研修)(国立感染症研究所)
- R7.2.6-7 ウイルス分離技術研修(山形県衛生研究所)
- R7.2.25-26 生物テロに対する警察/公衆衛生合同対応に関する国際ワークショップ(国立感染症研究所)、大阪市
- R7.3.6 令和6年度 食品内で発見される昆虫等に関する検査技術研修会(東京都健康安全研究センターほか)

衛生化學部

食 品 安 全 課

食 品 化 學 課

醫 藥 品 課

生 活 環 境 課

食 品 安 全 課

食品安全課は、大阪府健康医療部食の安全推進課および保健所、ならびに大阪市健康局健康推進部生活衛生課および保健所との協力のもと、令和6年度大阪府食品衛生監視指導計画ならびに大阪市食品衛生監視指導計画に従い、遺伝子組換え食品、アレルゲン、食品添加物、有害金属等の残留基準・使用基準、および器具・容器包装、玩具、栄養成分、食品添加物などの規格基準に基づく検査を行った。また、他の検査機関で違反疑いとなった検体の確認試験や、食中毒事例にも対応した。大阪府内の中核市や大阪市教育委員会からの依頼検査も実施した。

当法人は、健康増進法に規定される許可試験を行う機関（登録試験機関）であり、令和6年度は、特定保健用食品の許可後の品質管理等の定期的な報告に関する試験を実施した。

業務管理基準（GLP）関連では、標準作業書の改定を行った（12件）。

研究業務では、検査法の開発および評価などを行い、学術誌もしくは学会で発表した。また、厚生労働省の研究にも参画した。

令和6年度に実施した検査業務での総検体数は1,004であった(表5.1)。検査の結果、規格違反が6検体で確認された。

1. 試験検査

1) 遺伝子組換え食品

安全性審査済み遺伝子組換えについては、分別生産流通管理検証の検査として大豆穀粒（2検体）について3品種（RRS、RRS2、LLS）の定量検査を実施した。いずれも遺伝子組換え大豆は検出限界(0.5%)未満であった。

安全性未審査の遺伝子組換え検査については、ばれいしょ（対象品種：F10、J3）21検体、トウモロコシ（対象品種 Bt10）14検体、コメ（対象品種：63Bt、NNBt、CpTI）21検体の加工品において定性検査を実施した。とうもろこし加工品1検体とコメ2検体で検知不能、その他はすべて陰性であった。

2) アレルゲン

食物アレルギーの原因となる原材料（小麦、そば、乳、卵、落花生、えび、かに）7品目の混入について検査した。小麦29検体、そば8検体、乳40検体、卵42検体、落花生28検体、えび、かにについては甲殻類として28検体、計175検体についてスクリーニング検査（ELISA法）を行った。乳の表示がないパン1検体から基準値（10 μ g/g）を超える乳タンパク質を検出し、確認検査（ウェスタンブロット法）でも乳タンパク質を検出した。えび、かにに対する検査では1検体から基準値を超える甲殻類タンパク質を検出した。当該検体には

代替表記として「魚肉すり身（魚介類）」の表示が確認された。その他の検体ではスクリーニング検査で基準値を超える対象タンパク質は検出されなかった。

3) 食品添加物

以下の（1）～（7）について検査を行ったところ、甘味料1検体、酸化防止剤5検体、着色料1検体に指定外添加物が検出された。その他については、違反は認められなかった。

（1）保存料（安息香酸など）

魚肉ねり製品など（181検体）を検査した。

（2）甘味料（サッカリンNaなど）

菓子類など（257検体）を検査した。加工食品1検体からサイクラミン酸を検出した。

（3）着色料

菓子類など（174検体）を検査した。加工食品1検体から指定外着色料キノリンイエローを検出した。

（4）発色剤

加熱食肉製品（39件）を検査した。

（5）漂白剤 / 酸化防止剤（二酸化硫黄）

果実酒など（50検体）を検査した。

（6）酸化防止剤（TBHQ・BHA・BHT）

菓子類など（186検体）を検査した。加工食品2検体、菓子類3検体からTBHQを検出した。

（7）食品添加物製剤（着色料製剤）

表 5.1 行政検査業務実績

項目	検体数				試験検査の項目数								
	総数	行政検査		その他		総数	有害金属	食品添加物	容器・包装等規格	アレルギー	遺伝子組換え食品	栄養・機能性成分	その他の定性・定量
		良	不良	良	不良								
種類													
総数	1004	867	6	131		6023	101	5057	527	176	125	29	8
魚介類・加工品 (かん詰・びん詰を除く)	89	82		7		269	44	190		10		25	
肉卵類及びその加工品 (かん詰・びん詰を除く)	52	42		10		121	6	114		1			
牛乳・乳製品・乳類加工品	11	10		1		21		21					
穀類及びその加工品 (かん詰・びん詰を除く)	78	75		3		223	5	118		30	64		6
野菜類果物及びその加工品 (かん詰・びん詰を除く)	116	91		25		706	10	685		5	6		
菓子類	245	213	6	26		2070	10	1934		75	51		
清涼飲料水・水・清酒・ 果実酒・氷雪	18	14		4		52	20	31		1			
かん詰びん詰食品	137	116		21		1127		1085		38	4		
添加物及びその製剤	2	2				9	6	3					
器具・容器包装、おもちゃ、洗浄剤	152	136		16		527			527				
特定保健用食品	4			4		4						4	
その他の食品	100	86		14		894		876		16			2

表 5.2 食品添加物規格に関する試験

検体名	検体数	検査項目
着色料製剤（花紅色）	1	食用赤色 3 号、食用赤色 106 号確認試験、重金属、ヒ素、クロム、マンガン
着色料製剤（製菓用赤色）	1	食用赤色 102 号確認試験、重金属、ヒ素

着色料製剤(2 検体)の規格適合性を検査した(表 5.2)。

4) 有害金属

(1) 二枚貝

総水銀について、二枚貝（アサリ：2 検体、シジミ：2 検体、ハマグリ：1 検体）を検査した。いずれも暫定的規制値（0.4ppm）以下であった。

(2) 食肉

総水銀について、食肉（鶏：3 検体、豚：3 検体）を検査した。いずれも定量下限（0.01ppm）未満であった。

(3) 玄米・精米

カドミウムおよびヒ素について、玄米 2 検体を検査した。カドミウムはいずれも基準値(0.4ppm)以下であった。ヒ素は三酸化二ヒ素として 0.31 および 0.29ppm であった。カドミウムについて、精米 1 検体を検査し、基準値（0.4ppm）以下であった。

(4) 清涼飲料水

清涼飲料水 13 検体中の重金属規格（鉛、ヒ素、スズ）の検査では、違反は認められなかった。

(5) 魚介類

魚介類 36 検体中の総水銀の検査を行ったところ、暫定的規制値（0.4ppm）を超える検体はなかった。

5) 有害物質

(1) フェオホルバイド

クロロフィルを含む健康食品(クロレラ加工品 1 検体)を検査した。フェオホルバイドは指導基準(既存フェオホルバイド量が 100mg/100g、または総フェオホルバイド量が 160mg/100g)未満であった。

(2) シアン化合物

生あん(4 検体)を検査した。いずれも不検出(検出下限: 0.5mg/kg)であった。

6) 器具・容器包装および玩具等

(1) 器具・容器包装

ポリプロピレン(PP)およびポリエチレン(PE)を主成分とする食品容器など 20 検体、ポリスチレン(PS)を主成分とする食品容器など 11 検体、ポリエチレンテレフタレート(PET)を主成分とする食品容器など 11 検体、メラミン樹脂を主成分とする食品容器など 1 検体、ゴム製品 1 検体、ガラス・陶磁器・ホウロウ引き製品 21 検体の規格検査を行った。紙皿や紙コップなど 18 検体について蛍光染料の検査を実施した。いずれも基準に適合していた。

(2) 玩具

折り紙 22 検体、それ以外の知育玩具、がらがら、粘土等の 21 検体について規格検査を行い、いずれも基準に適合していた。

(3) その他

合成洗剤 1 件について規格試験を行い、基準に適合していた。

7) 栄養成分

加工食品 4 検体について検査を実施した(表 5.3)。

8) 異物・苦情食品

大阪府健康医療部食の安全推進課や大阪市健康局健康推進部生活衛生課等から依頼される食品に関する苦情原因調査および基準値超過疑いなどに関する確認検査について実施した(表 5.4)。

9) 教育委員会から依頼される検査

大阪市教育委員会事務局総務部学校給食課の依頼に基づき、給食で使用される食品あるいは器具・容器に対して検査を行い、それらの品質向上ならびに安全確保において重要な役割を担っている。検査した食品の内訳を表 5.5 に示す。いずれも教育委員会が定める規格および食品衛生法の規格基準を満たしていた。

学校給食用ポリカーボネート製の器具・容器(飯椀 7 検体、三切り皿およびはし各 1 検体)について、ビスフェノール A(フェノールおよび p-t-ブチルフェノールを含む)の溶出量を食品擬似溶媒(水、4% 酢酸、20% エタノールおよびヘプタン)を用いて所定の条件下で検査した。いずれも規格基準に適合した。

表 5.3 栄養成分検査

検査項目		検体数
熱量		4
たんぱく質		4
脂質		4
炭水化物		4
食塩相当量		4
ミネラル	カルシウム	4
	カリウム	1

表 5.4 食中毒、苦情の原因調査及び法令違反の疑い等に関する試験

分類	事例番号	検体	検査項目	結果
食中毒の原因調査	1	調理済みふぐの白子	ふぐ種の同定(遺伝子鑑別)	トラフグ属のゴマフグの可能性が最も高い
	2	ふぐ残品	魚種鑑別	トラフグ属のトラフグの可能性が最も高い
確認試験	1	アカガレイ(粉碎品)	メチル水銀	メチル水銀(水銀として) 0.63 ppm であった
	2	ソース(試験液)	パラオキシ安息香酸エステル類	パラオキシ安息香酸イソプロピル、パラオキシ安息香酸イソブチル、パラオキシ安息香酸ブチルが検出された

表 5.5 学校給食用食品に関する試験

検体名	検体数	検査項目
青果物・その加工品		
トマトケチャップ、ブルーベリージャムなど	6	タール色素
じゃがいも、きゅうり、りんごなど	5	ヒ素、鉛
大豆、金時豆	2	シアン化合物
魚介類・その加工品		
さごし、えび	3	総水銀
肉類・その加工品		
焼き豚	1	亜硝酸根
調味料		
しょうゆ、ソース	6	ソルビン酸
合計	23	検査総項目数：28

2. 調査研究

1) 器具・容器包装等に関する衛生学的研究

非食品用途原料を化学的再生処理したペットボトルについて安全性確保のための研究を実施した。また、玩具等に含まれる有害元素の実態調査、紙ストロー及びその原紙に含まれる PFAS の実態調査、合成樹脂製品に含まれる非意図的添加物のデータベース化のための論文調査を実施した。また、ホルムアルデヒド試験法の改良法について性能評価を実施した。(主担：尾崎、岸、水口)

マイクロプラスチックについて、2012～2022 年度の大阪市内における大気浮遊粉じん中濃度の経年変化を把握した結果、一般環境大気測定局よりも自動車排出ガス測定局の方が高い傾向にあることがわかった。(主担：

10) 中核市からの依頼検査

中核市等からの依頼検査を表 5.6 にまとめた。

表 5.6 依頼による検査

依頼者	検査対象品	検査項目	検体数	
高槻市保健所	加工食品	食品添加物	着色料、保存料、甘味料、指定外甘味料、漂白剤、酸化防止剤、発色剤	18
豊中市保健所	加工食品	食品添加物	着色料、保存料、甘味料、指定外甘味料、指定外酸化防止剤	14
		特定原材料	小麦、乳、卵	3
	容器包装		蛍光染料	2
枚方市保健所	加工食品	食品添加物	指定外酸化防止剤	2
	折り紙	重金属	重金属・ヒ素	1
	容器包装		蛍光染料	2
八尾市保健所	加工食品	食品添加物	着色料、保存料、甘味料、指定外甘味料、漂白剤、指定外酸化防止剤、発色剤	20
		特定原材料	そば、小麦、落花生、乳、卵、えび・かに	6
	清涼飲料水	重金属	鉛・ヒ素	1
	折り紙	重金属	重金属・ヒ素	1
	容器包装	容器包装規格	規格(ポリプロピレン)	1
			蛍光染料	1
寝屋川市保健所	加工食品	食品添加物	着色料、保存料、甘味料、指定外甘味料、漂白剤、指定外酸化防止剤、発色剤	20
		特定原材料	乳、卵	4
	清涼飲料水	重金属	鉛・ヒ素	1
	折り紙	重金属	重金属・ヒ素	2
	容器包装	容器包装規格	規格(ポリエチレン、ポリスチレン、PET)	3
			蛍光染料	1
吹田市保健所	加工食品	食品添加物	着色料、保存料、甘味料、指定外甘味料、漂白剤、指定外酸化防止剤、発色剤	21
		特定原材料	乳	1
	折り紙	重金属	重金属・ヒ素	1
	容器包装		蛍光染料	1

尾崎)

2) 食品に含まれる健康危害物質に関する衛生学的研究

(1) 食中毒（苦情）等の原因究明に関する研究

有毒きのこの迅速鑑別法の開発を行い、顕微鏡によるきのこの鑑定を進めるとともに、きのこについて情報提供を行った。また、毒きのこ成分の単離精製、合成を行い、機器分析法を検討した。(主担：野村、山口瑞)

食品中の危害微生物のリアルタイム・オンサイト定量システムの開発において、マイクロ流路デバイスを用いた検出方法と既存の検出方法である培養法やリアルタイムPCR法との検出感度の比較を行った結果、マイクロ流路デバイスを用いた検出方法が既存の検出方法と同等の検出感度を持っていることが分かった。(主担：徳永)

イムノセンサによる食品に含まれる健康危害物質（かび毒）の分析法の検討を行った。今年度は、かび毒デオキシニバレノール (DON) に対するモノクローナル抗体を6種類作製した。抗体を用いてDONに対するイムノセンサを1種類構築した。また、かび毒オクラトキシンA (OTA) に対するモノクローナル抗体を6種類作成した。新たに構築したDONに対するイムノセンサは、昨年度構築したものより14倍高感度化した。小麦粉への添加回収試験、DON汚染小麦の測定、LC-MS/MS分析との比較の結果、当イムノセンサは小麦中のDONのスクリーニング検査に適した性能を示した。(主担：山崎)

(2) 食品に含まれる化学物質に関する研究

無機水銀、有機水銀標準品を添加したタイの抽出溶液を用い、EMR-Lipid固相抽出カラムに負荷した結果、脂質除去効果が認められ、良好な回収率が得られた。引き続き、水銀とともに、カドミウム、鉛等を含めた重金属形態別一斉分析法の構築を検討する。(主担：柿本幸、吉光)

3種の認証標準物質（肉類）を用いてマイクロウェーブ分解-ICPMS分析で多元素同時分析の検討を行い、これらの試料においても分析妥当性が確認された。(主担：油谷、村野、新矢)

3) 食品の安全性、機能性および品質に関する研究

(1) アレルゲンに関する研究

入手した鶏卵アレルゲン6種類の標準品をもとに、

それぞれの機器分析条件を検討し、分析法がゆで卵に対して適用可能であることを確認した。(主担：清田、吉光、松井)

牛肉、豚肉、鶏肉のアレルゲンを同時分析可能なイムノセンサの構築を検討した。今年度はイムノセンサの材料となる抗体の精製、標準となるタンパク質の精製を行った。(主担：山崎)

(2) 食品の安全性、機能性、品質等に関する研究

甘味料分析法の妥当性確認を行うため、代表的な食品（菓子類・漬物類・魚介加工品・ジャム類・清涼飲料水）から複数食品を選択し、添加回収試験を行った。甘味料ごとに回収率に差異があるものも確認されたが、概ね妥当性ガイドラインの目標値を満たす結果が得られた。(主担：村上、寺谷、柿本葉、徳永、大西)

栄養成分の検査項目拡充のため、4種類の水溶性ビタミンおよびカフェイン、テオブロミンのLCによる一斉分析条件を検討し、そのうちのビタミンB2およびニコチン酸、ニコチン酸アミドの妥当性確認を行った。ビタミンB2およびニコチン酸、ニコチン酸アミドは真度、精度ともに良好であった。カフェイン、テオブロミンについては、固相精製を検討し市販の茶飲料およびコーヒー飲料における含有量調査を行った。カフェイン分析値は、表示や参考値と同程度であった。(主担：紀、油谷、柿本葉、山崎、寺谷、昌山)

食品中の酸化防止剤TBHQの分析法を改良し、妥当性確認を行った。5種類の食品（ポテトチップス、ガム、サラダ油、マーガリン、ごま油）にTBHQを20 µg/g添加し、2併行分析を3人で2日間行った。ピーナッツやごま等を含む食品の場合、活性炭固相カラムによる精製操作を追加することで、妨害ピークを除去できることがわかったため、ごま油についてはこの操作を追加した。添加回収試験の結果、本分析法は食品中の食品添加物分析法の妥当性確認ガイドラインの目標値を満たした。(野村、柿本葉、寺谷)

3. 講演、委員会、研修等

1) 講演

R7. 2. 14 日本包装学会 第92回シンポジウム「マテリアルリサイクルPET材料を使用した食品用器具・容

器包装の安全性確認について」(尾崎)

2) 委員会等

令和6年度 食品衛生基準審議会器具・容器包装部会委員(消費者庁)(尾崎)

令和6年度 食品安全委員会器具・容器包装専門調査会専門委員(内閣府)(尾崎)

令和6年度 食品用器具・容器包装の規格基準改正に関する検討委員会委員、オブザーバー(国立医薬品食品衛生研究所)(尾崎、岸)

令和6年度 日本食品化学学会監事(日本食品化学学会)(尾崎)

令和6年度 薬学会環境・衛生部会容器包装試験法専門委員(尾崎)

2023-2025 執行委員会代議員(AOAC INTERNATIONAL JAPAN SECTION)(村上)

令和6年度 令和5～6年度学会活性化委員会(日本食品衛生学会)(清田)

日本食品化学学会第31回総会・学術大会実行委員会(日本食品化学学会)(清田)

3) 研修の受講

R6.6.26 第3回FHSコミュニティ 食物アレルギー物質に関する法規制動向と検査技術(日本食品衛生学会)

R7.1.17 地域保健総合推進事業 第1回食品の試験検査技術の啓発に関する取組(理化学系現場の会)

食品化学課

食品化学課は、大阪府健康医療部食の安全推進課、大阪市健康局健康推進部生活衛生課および各保健所との協力の下、食の安全安心の確保を目的として、令和6年度大阪府食品衛生監視指導計画ならびに令和6年度大阪市食品衛生監視指導計画に従い、残留農薬、PCB、有害性金属、動物用医薬品、カビ毒、貝毒、防かび剤、酸価・過酸化物質、放射性物質等の分析及び乳等の規格基準に基づく検査を行った。また、大阪府内の中核市や市町の教育委員会からの依頼検査も実施した。さらに、ふぐ毒、ヒスタミン、ソラニンおよびチャコニンの食中毒事例にも対応した。

調査研究では、大阪府健康医療部食の安全推進課、大阪市健康局健康推進部生活衛生課および各保健所との連携を密にし、学会発表および学術論文の投稿を行った。また、本年度も厚生労働省の委託を受け「食品試料調製事業」を実施した。

本年度実施した検査業務の概要を表6.1に示す。令和6年度に実施した検査業務での総検体数は881であった。規格基準違反の不良食品件数は、そのうちの1件であった。

1. 試験検査

1) 残留農薬の検査

(1) 乳

牛乳等10検体について有機塩素系農薬類6項目を分析した結果、全て定量下限(0.005 ppm)未満であった。牛乳2検体について残留農薬50項目を分析した結果、全て定量下限(0.01 ppm)未満であった。(主担：畜水産物G)

(2) 食肉

食肉18検体(牛肉4検体、豚肉14検体)について有機塩素系農薬類6項目を分析した結果、全て定量下限(0.005 ppm)未満であった。食肉6検体(豚肉3検体、鶏肉3検体)について残留農薬50項目を分析した結果、全て定量下限(0.01 ppm)未満であった。(主担：畜水産物G)

(3) 魚介類

養殖魚介類15検体について残留農薬50項目を分析した結果、全て定量下限(0.01 ppm)未満であった。(主担：畜水産物G)

(4) 国内産農産物

野菜、果実、穀類等109検体について、残留農薬の検査を行った。検査は、5月から2月の間、8月、9月、10月を除いて毎月実施され、その検査項目は、1検体につき250項目とした。農薬が検出された食品と検出値を表6.2に示した。(主担：農産物G)

(5) 輸入農産物

野菜、果実、穀類等151検体について、残留農薬の検査を行った。検査は、5月から1月の間、11月を除いて毎月実施され、その検査項目は、1検体につき52～250項目とした。農薬が検出された食品と検出値を表6.3に示した。(主担：農産物G)

2) PCBの検査

(1) 乳及び乳製品

牛乳等12検体についてPCBを分析した結果、全て定量下限(0.01 ppm)未満であった。(主担：畜水産物G)

(2) 鶏卵

鶏卵9検体についてPCBの分析を行った結果、全て定量下限(0.02 ppm)未満であった。(主担：畜水産物G)

(3) 食肉

食肉6検体(豚肉3検体、鶏肉3検体)についてPCBを分析した結果、全て定量下限(0.05 ppm)未満であった。(主担：畜水産物G)

(4) 魚介類

魚介類28検体についてPCBの分析を行った結果、2検体から定量下限(0.05 ppm)以上のPCBが検出された。いずれも暫定的規制未満であった。(主担：畜水産物G)

(5) 調製粉乳・調製液状乳

調製粉乳2検体、調製液状乳3検体についてPCBを分析した結果、全て定量下限(0.1 ppm)未満であった。(主担：畜水産物G)

表 6.1 行政検査業務実績

項目	検体数				試験検査の項目数								
	総数	行政検査		その他		総数	残留農薬	P C B	動物用医薬品	自然毒	食品添加物	放射性物質	その他の定性・定量
		良	不良	良	不良								
総数	881	700	1	180		77,851	74,015	65	3,341	75	24	72	259
魚介類・加工品 (かん詰・びん詰を除く)	177	175		2		1,851	750	23	942	12		6	118
肉卵類及びその加工品 (かん詰・びん詰を除く)	172	121		51		2,403	450	20	1,931			2	
牛乳・乳製品・乳類加工品	131	105		26		829	190	22	468	2		20	127
穀類及びその加工品 (かん詰・びん詰を除く)	37	18		19		3,275	3,250			23		2	
野菜類果物及びその加工品 (かん詰・びん詰を除く)	311	242	1	68		69,411	69,375				24	12	
清涼飲料水・水・清酒・果 実酒・氷雪	29	25		4		36				22		14	
かん詰びん詰食品	3	3				6						6	
その他	21	11		10		40				16		10	14

3) 動物用医薬品の検査

(1) 乳

牛乳等9検体について合成抗菌剤30項目の分析を行った結果、全て定量下限(0.01 ppm)未満であった。牛乳18検体についてテトラサイクリン系抗生物質2項目の分析を行った結果、全て定量下限(オキシテトラサイクリン、クロルテトラサイクリン及びテトラサイクリンの総和:0.02 ppm、ドキシサイクリン:0.05 ppm)未満であった。牛乳18検体についてホルモン剤4項目の分析を行った結果、全て定量下限(クロステボル:0.01 ppm、ゼラノール:0.002 ppm、メチルプレドニゾロン:0.01 ppm、ヒドロコルチゾン:0.01 ppm)未満であった。生乳2検体について動物用医薬品10項目の分析を行った結果、全て定量下限(オキシテトラサイクリン、クロルテトラサイクリン及びテトラサイクリンの総和:0.02 ppm、他:0.01 ppm)未満であった。(主担:畜水産物G)

(2) 鶏卵

鶏卵9検体について合成抗菌剤30項目の分析を行った結果、全て定量下限(0.01 ppm)未満であった。鶏卵9検体について、駆虫剤3項目の分析を行った結果、全て定量下限(0.01 ppm)未満であった。(主担:畜水産物G)

(3) 食肉

食肉36検体(牛肉4検体、豚肉14検体、鶏肉18検体)について合成抗菌剤30項目の分析を行った結果、全て定量下限(0.01 ppm)未満であった。牛肉10検体についてホルモン剤5項目の分析を行った結果、全て定量下限(クレンブテロール:0.0002 ppm、ゼラノール、酢酸トレンボロン:0.002 ppm、クロステボル、メチルプレドニゾロン:0.01 ppm)未満であった。食肉23検体(牛肉10検体、豚肉13検体)について、駆虫剤3項目の分析を行った結果、全て定量下限(0.01 ppm)未満であった。食肉6検体(豚肉3検体、鶏肉3検体)についてテトラサイクリン系抗生物質2項目および合成抗菌剤13項目の分析を行った結果、全て定量下限(オキシテトラサイクリン、クロルテトラサイクリン及びテトラサイクリンの総和:0.02 ppm、他:0.01 ppm)未満であった。(主担:畜水産物G)

(4) 魚介類

魚介類18検体についてテトラサイクリン系抗生物質4項目および合成抗菌剤30項目の分析を行った結果、ぶり1検体からオキシテトラサイクリンが0.04 ppmで検出された。その他の17検体については全て定量下限(オキシテトラサイクリン、テトラサイクリン:0.02 ppm、クロルテトラサイクリン:0.03 ppm、ドキシサ

表 6.2 国産農産物から検出された農薬

実施月	食品	産地	農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
5月収去	きゅうり	宮崎県	ジノテフラン	0.03	2
			プロシミドン	0.03	4
	きゅうり	宮崎県	プロシミドン	0.08	4
			埼玉県	プロシミドン	0.03
	きゅうり	宮崎県	プロシミドン	0.11	4
			ボスカリド	0.20	5
	こまつな	茨城県	シアゾファミド	0.15	15
ねぎ	大分県	ジノテフラン	0.04	15	
6月収去	トマト	愛媛県	イミダクロプリド	0.01	2
6月収去	はくさい	長野県	ボスカリド	0.06	40
			ジノテフラン	0.02	2
7月収去	きゅうり	宮崎県	プロシミドン	0.04	4
			アセタミプリド	0.22	5
	こまつな	福岡県	シアゾファミド	0.33	15
			ジノテフラン	0.04	10
			シベルメトリン	0.11	6
			フルフェノクスロン	0.39	10
			ジノテフラン	0.01	0.5
	だいこん	青森県	ホスチアゼート	0.06	0.05
	だいこん	北海道	メタラキシル及びメフェノキサム	0.01	0.2
	なす	奈良県	クロルフェナビル	0.03	1
	にんじん	青森県	メタラキシル及びメフェノキサム	0.02	0.4
	ねぎ	埼玉県	ボスカリド	0.02	5
	はくさい	長野県	ボスカリド	0.02	40
	ほうれんそう	岐阜県	イミダクロプリド	0.06	15
			シアゾファミド	0.22	25
	チンゲンサイ	長野県	シアゾファミド	0.02	15
	メロン	静岡県	ジノテフラン	0.29	1
			シベルメトリン	0.02	0.8
	メロン	北海道	プロシミドン	0.11	2
			ベルメトリン	0.02	0.5
11月収去	きゅうり	群馬県	ルフェヌロン	0.01	0.3
	こまつな	茨城県	シアゾファミド	0.01	15
			フルフェノクスロン	0.27	10
	だいこん	岩手県	アゾキシストロピン	0.01	1
			イミダクロプリド	0.03	0.4
	だいこん	神奈川県	トルフェンピラド	0.03	0.03
	はくさい	茨城県	ボスカリド	0.02	40
	ほうれんそう	岐阜県	テフルトリン	0.04	0.5
	りんご	青森県	シハロトリン	0.01	0.4
	チンゲンサイ	静岡県	ジノテフラン	0.04	10
ブロッコリー	徳島県	ピラクロストロピン	0.01	5	
		ボスカリド	0.05	5	
玄米	山形県	ジノテフラン	0.10	2	
		フサライド	0.01	1	
		フルトラニル	0.02	4	
12月収去	いちご	岡山県	インドキサカルブ	0.02	1
			ルフェヌロン	0.02	1
	西洋なし	山形県	ジノテフラン	0.01	1
			シハロトリン	0.02	0.4
			シフルトリン	0.02	0.6
			シベルメトリン	0.05	2
	ぶどう	岡山県	チアクロプリド	0.21	2
			ジノテフラン	0.08	15
	みかん	高知県	テブコナゾール	0.01	10
			ボスカリド	0.12	10
ジノテフラン			0.07	5	
1月収去	玄米	秋田県	テブコナゾール	0.05	3
			トルフェンピラド	0.03	3
			エチプロール	0.03	0.2
2月収去	きゅうり	宮崎県	フサライド	0.02	1
			フルトラニル	0.05	4
			フェリムゾン	0.02	2
	きゅうり	徳島県	ジメトモルフ	0.04	0.7
			プロシミドン	0.05	4
	なす	愛知県	ジノテフラン	0.02	2
			プロチオホス	0.02	2
	ねぎ	大分県	ジノテフラン	0.10	2
			エトフェンブロックス	0.03	7
	はくさい	和歌山県	ピラクロストロピン	0.04	3
ボスカリド			0.22	40	
れんこん	茨城県	ジノテフラン	0.55	25	

表 6.3 輸入農産物から検出された農薬 (1)

実施月	食品	産地	農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
5月収去	えだまめ	中国	ピラクロストロビン	0.06	0.5
			アセタミプリド	0.06	3
	えだまめ	台湾	アゾキシストロビン	0.06	5
			ピリプロキシフェン	0.01	0.2
	ほうれんそう	中国	アセタミプリド	0.01	3
	ほうれんそう	中国	シアゾファミド	0.09	25
	バナナ	フィリピン	イミダクロプリド	0.05	15
ジメトモルフ			0.04	50	
芽キャベツ	ベルギー	ビフェントリン	0.02	0.1	
		ジフェノコナゾール	0.01	2	
6月収去	ぶどう	チリ	ボスカリド	0.02	5
			アゾキシストロビン	0.01	10
			ピリメタニル	0.22	10
	オレンジ	アメリカ	ボスカリド	0.04	10
			アゾキシストロビン	0.50	10
	グレープフルーツ	南アフリカ	イマザリル	2.6	5.0
			チアベンダゾール	1.7	10
			ピラクロストロビン	0.03	2
	グレープフルーツ	トルコ	オルトフェニルフェノール	1.11	10
			ピリダベン	0.01	1
			ピリメタニル	0.77	10
	グレープフルーツ	南アフリカ	マラチオン	0.13	7
			アゾキシストロビン	0.03	10
			ピラクロストロビン	0.06	2
			ピリプロキシフェン	0.02	2
	バナナ	フィリピン	ピリメタニル	0.03	10
			クロルピリホス	0.02	2
アゾキシストロビン			0.03	3	
クロルピリホス			0.02	2	
ビフェントリン			0.02	0.1	
アセタミプリド			0.06	1	
ジノテフラン			0.31	3	
パプリカ	韓国	シハロトリン	0.01	1.0	
		ボスカリド	0.04	10	
7月収去	パプリカ	韓国	ピラクロストロビン	0.10	2
			ピリプロキシフェン	0.02	2
			ピリメタニル	0.03	10
	グレープフルーツ	南アフリカ	ピラクロストロビン	0.03	2
			ピラクロストロビン	0.04	2
	グレープフルーツ	南アフリカ	メトキシフェノジド	0.02	3
			ビフェントリン	0.03	0.1
	バナナ	フィリピン	フェンプロピモルフ	0.01	2
			アゾキシストロビン	0.03	3
			アゾキシストロビン	1.18	10
アゾキシストロビン			1.01	10	
9月収去	えだまめ	台湾	アセタミプリド	0.01	3
			シハロトリン	0.03	1.0
			ピラクロストロビン	0.12	0.5
	ほうれんそう	中国	イミダクロプリド	0.01	15
			ジメトモルフ	0.04	50
10月収去	ねぎ	中国	チアメトキサム	0.05	2
			ピリメタニル	1.84	10
	オレンジ	オーストラリア	カルバリル	0.07	5
	オレンジ	オーストラリア	マラチオン	0.02	7
	オレンジ	オーストラリア	ピリメタニル	0.79	10
	オレンジ	オーストラリア	ピリメタニル	1.89	10
	オレンジ	オーストラリア	ピリメタニル	1.42	10
	グレープフルーツ	オーストラリア	ピリメタニル	1.12	10
	グレープフルーツ	南アフリカ	トリフロキシストロビン	0.02	3
			メトキシフェノジド	0.07	3
			ピラクロストロビン	0.04	2
			メトキシフェノジド	0.09	3
	グレープフルーツ	南アフリカ	メトキシフェノジド	0.07	3
			クロルフェナピル	0.02	2
	バナナ	ベトナム	シハロトリン	0.05	0.5
			チアメトキサム	0.01	0.7
			ビフェントリン	0.03	0.1
バナナ	フィリピン	ビフェントリン	0.01	0.1	
バナナ	ベトナム	アゾキシストロビン	0.03	10	
バナナ	フィリピン	ビフェントリン	0.02	0.1	
パプリカ	韓国	ピラクロストロビン	0.03	1	
		メタラキシル及びメフェノキサム	0.02	2	
レモン	チリ	アゾキシストロビン	2.42	10	

表 6.3 輸入農産物から検出された農薬 (2)

実施月	食品	産地	農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
12月収去	バナナ	フィリピン	ピフェントリン	0.01	0.1
	バナナ	フィリピン	フェンプロピモルフ	0.01	2
	バナナ	ベトナム	アゾキシストロピン	0.02	3
	バナナ	エクアドル	ピフェントリン	0.01	0.1
	バナナ	フィリピン	ピフェントリン	0.03	0.1
1月収去	いちご	アメリカ	ピリメタニル	0.04	10
			フルトリアホール	0.10	2
	えだまめ	台湾	アセタミプリド	0.03	3
			アゾキシストロピン	0.06	5
			ジノテフラン	0.02	2
	えだまめ	タイ	アセタミプリド	0.02	3
			ピフェントリン	0.03	0.6
	えだまめ	中国	ルフェヌロン	0.01	3
			シベルメトリン	0.02	2
	えだまめ	中国	ピラクロストロピン	0.03	0.5
			アセタミプリド	0.01	3
	えだまめ	台湾	ジノテフラン	0.04	2
			ピフェントリン	0.01	0.6
			ピラクロストロピン	0.07	0.5
	えだまめ	台湾	シハロトリン	0.02	1.0
	ほうれんそう	中国	ジメトモルフ	0.19	50
	オクラ	中国	メトキシフェノジド	0.11	30
			イミダクロプリド	0.01	0.7
			エトキサゾール	0.01	0.01
			ピフェントリン	0.01	0.01
	プロッコリー	中国	ピラクロストロピン	0.02	0.01
			メトキシフェノジド	0.01	5
	大豆	カナダ	マラチオン	0.07	2
			イミダクロプリド	0.02	10
	烏龍茶	中国	チアクロプリド	0.02	25
			チアメトキサム	0.02	20
			ピラクロストロピン	0.04	25
			イミダクロプリド	0.03	10
	烏龍茶	中国、台湾	チアクロプリド	0.03	25
			チアメトキサム	0.05	20
ピラクロストロピン			0.08	25	
烏龍茶	中国	チアメトキサム	0.01	20	
		ピラクロストロピン	0.02	25	
烏龍茶	中国	イミダクロプリド	0.01	10	
		チアメトキサム	0.01	20	
		ピラクロストロピン	0.02	25	

イクリン：0.01 ppm、他：0.01 ppm) 未満であった。養殖魚介類 15 検体についてテトラサイクリン系抗生物質 4 項目および合成抗菌剤 18 項目の分析を行った結果、養殖ヒラメ 1 検体および養殖ハマチ 1 検体についてオキシテトラサイクリンがそれぞれ 0.04 ppm、0.06 ppm で検出された。その他 13 検体については定量下限 (オキシテトラサイクリン及びテトラサイクリン：0.02 ppm、クロルテトラサイクリン：0.03 ppm、他：0.01 ppm) 未満であった。(主担：畜水産物 G)

4) 自然毒の検査

(1) 木の実・輸入豆・穀類等加工品 (アフラトキシン)

18 検体について検査を実施した結果、全て定量下限 (アフラトキシン B1、B2、G1、G2 各 0.25 µg/kg) 未満であった。

(2) 生乳 (アフラトキシン M1)

2 検体について検査を実施した結果、1 検体について 0.01 µg/kg で検出された。その他 1 検体については定量下限 (0.01 µg/kg) 未満であった。

(3) りんごジュース (パツリン)

20 検体について検査を実施した結果、12 検体については 0.0008 ~ 0.0040 ppm で検出された。その他 8 検体については定量下限 (0.0005 ppm) 未満であった。

(4) 貝類 (麻痺性貝毒・下痢性貝毒)

二枚貝 5 検体について麻痺性貝毒および下痢性貝毒を検査した結果、全て規制値 (麻痺性貝毒 4 MU/g；下痢性貝毒 0.16 mg オカダ酸当量/kg) 未満であった。(主担：畜水産物 G)

5) 食品添加物 (防かび剤) の検査

(1) バナナ

9 検体について検査を実施した結果、全て定量下限（イマザリル、チアベンダゾール各 0.0002 g/kg）未満であった。

(2) キウイ

2 検体について検査を実施した結果、全て定量下限（フルジオキサニル 0.0002 g/kg）未満であった。

(3) 輸入かんきつ類

15 検体について検査を実施した結果、アゾキシストロピンは 4 検体から 0.00001 ~ 0.00171 g/kg の濃度で検出された。イマザリルは全ての検体から 0.00057 ~ 0.00319 g/kg の濃度で検出された。オルトフェニルフェノールは 2 検体から 0.00094 ~ 0.00371 g/kg の濃度で検出された。チアベンダゾールは 14 検体から 0.00010 ~ 0.00247 g/kg の濃度で検出された。ピリメタニルは 6 検体から 0.00005 ~ 0.00206 g/kg の濃度で検出された。フルジオキサニルは 7 検体から 0.00054 ~ 0.00204 g/kg の濃度で検出された。以上の 6 項目について、残りの検体は全て定量下限（0.00001 g/kg）未満であった。ピフェニル、及びプロピコナゾールは全ての検体で定量下限（0.00001 g/kg）未満であった。

6) 放射性物質の検査

輸入魚介類 3 検体、輸入加工食品 3 検体、乳児用食品等 13 検体、牛乳 2 検体、調製粉乳 2 検体、調製液状乳 3 検体について、ゲルマニウム半導体検出器による放射性物質（セシウム 134、137）の測定を行った結果、基準値を超過したものはなかった。（主担：畜水産物 G）

7) その他の定性・定量

(1) 乳、調製粉乳

牛乳等 21 検体、調製粉乳 9 検体について、成分規格検査を実施した結果、全て規格に適合していた。（主担：畜水産物 G）

(2) 即席めん

即席めん類 4 検体について酸価・過酸化価の検査を行った結果、全て規格基準に適合していた。（主担：畜水産物 G）

(3) 魚介類

魚介類 20 検体についてトリブチルスズ（TBT）及びトリフェニルスズ（TPT）の残留分析を行った結果、魚 3 検体から TPT（塩化トリフェニルスズとして）が検出

された。内訳は、さばから 0.06 ppm、まぐろから 0.03 ppm、ふぐから 0.02 ppm で検出された。その他は全て定量下限（0.02 ppm）未満であった。（主担：畜水産物 G）

(4) 魚介加工品

魚介類 18 検体についてヒスタミンの検査を行った結果、うるめ丸干しから 320 µg/g、さんま桜干しから 20 µg/g で検出された。その他の 16 検体は全て定量下限値（10 µg/g）未満であった。また、かまぼこ等の魚介加工品（34 検体）をスクリーニング検査した結果、全て CODEX 委員会の定める衛生指標（20 mg/100 g）を下回る結果であった。（主担：畜水産物 G）

8) 確認検査

確認検査は、他の都道府県等で不良品と認められた食品や、保健所などの予備試験で陽性（残留基準違反など）とされた検体を対象に、必要に応じて検査を行うものである。今年度は実施しなかった。

9) 苦情食品の検査

府民の不安解消や食品衛生行政の支援のため、必要に応じて苦情食品の検査を行っている。

6 月に、ふぐの白子を喫食して食中毒が疑われる事案が発生し、テトロドトキシンの分析を行ったが、調理済みふぐの白子、患者尿および血清からテトロドトキシンは検出されなかった。9 月に、ハマチの煮つけおよびハマチの竜田揚げがそれぞれ原因食品と疑われる食中毒が 2 件発生し、ヒスタミンの分析を行った結果、5000 µg/g および 2900 µg/g の濃度で検出された。11 月に、あじの味醂干しが原因食品と疑われる食中毒が発生し、ヒスタミンの分析を行った結果、4400 および 5000 µg/g の濃度で検出された。さらに、11 月に、カツオ生利節が原因食品と疑われる小学校での食中毒が発生し、ヒスタミンの分析を行った結果、給食残品からヒスタミンが検出された。3 月に、こども園で給食のシチューを喫食したことにより食中毒が疑われる事案が発生し、原料に使用したじゃがいもからソラニンが 489 mg/kg およびチャコニンが 470 mg/kg で、シチュー 6 検体からソラニンが 28 ~ 162 mg/kg ならびにチャコニンが 27 ~ 158 mg/kg の濃度で検出された。さらに、3 月にふぐを喫食して食中毒が疑われる事案が発生し、テトロドトキシンの分析を行ったが、テトロドトキシンは検出されなかった。（主担：畜水産物 G）

表 6.4 依頼による検査

依頼者	検査対象品	検査項目		検体数
東大阪市	国産農産物	残留農薬		6
	牛乳、鶏卵、食肉	動物用医薬品	合成抗菌剤	5
	鶏卵		駆虫剤	1
高槻市	国産農産物	残留農薬		2
	輸入果実類	食品添加物	防かび剤	2
	鶏卵、食肉	動物用医薬品	合成抗菌剤	3
	鶏卵	PCB		1
	国産農産物	放射性物質	放射性セシウム	2
寝屋川市	輸入農産物	自然毒	アフラトキシン	1
	リンゴジュース		パツリン	1
	国産・輸入農産物、牛乳、食肉	残留農薬	残留農薬	10
	輸入果実類	食品添加物	防かび剤	2
	牛乳	その他定性・定量	規格	2
	牛乳、鶏卵	PCB		2
	牛乳、鶏卵、食肉	動物用医薬品	合成抗菌剤	6
	鶏卵		駆虫剤	1
	魚介加工品	その他定性・定量	ヒスタミン	1
吹田市	輸入農産物	自然毒	アフラトキシン	2
	リンゴジュース		パツリン	1
	国産・輸入農産物、牛乳、食肉	残留農薬	残留農薬	14
	輸入果実類	食品添加物	防かび剤	2
	牛乳	その他定性・定量	規格	2
	牛乳、鶏卵	PCB		2
	牛乳、鶏卵、食肉	動物用医薬品	合成抗菌剤	5
	鶏卵		駆虫剤	1
八尾市	輸入農産物	自然毒	アフラトキシン	2
	リンゴジュース		パツリン	1
	国産・輸入農産物、牛乳、食肉	残留農薬	残留農薬	18
	輸入果実類	食品添加物	防かび剤	2
	牛乳	その他定性・定量	規格	2
	牛乳、鶏卵	PCB		2
	牛乳、鶏卵、食肉	動物用医薬品	合成抗菌剤	6
	鶏卵		駆虫剤	1
豊中市	国産・輸入農産物、牛乳	残留農薬	残留農薬	10
	輸入果実類	食品添加物	防かび剤	1
	牛乳	その他定性・定量	規格	1
	牛乳	PCB		1
	牛乳、鶏卵、食肉	動物用医薬品	合成抗菌剤	5
枚方市	リンゴジュース	自然毒	パツリン	1
	国産・輸入農産物、牛乳	残留農薬	残留農薬	11
	輸入果実類	食品添加物	防かび剤	1
	牛乳	その他定性・定量	規格	2
	牛乳、鶏卵	PCB		2
	牛乳、鶏卵、食肉	動物用医薬品	合成抗菌剤	5
	鶏卵		駆虫剤	1
	国産農産物	放射性物質	放射性セシウム	5
池田市教育委員会	その他の食品	放射性物質	放射性セシウム	3
河南町	その他の食品	放射性物質	放射性セシウム	1

10) 依頼検査

(1) 教育委員会から依頼された検査

大阪市教育委員会からの依頼検査として、農産物 11 検体について残留農薬（1 検体につき 210 項目）を分析した結果、全ての学校給食の規格基準に適合していた。

（主担：農産物 G）

食肉 6 検体について残留動物用医薬品 10 項目、食肉 3 検体について有機塩素系農薬類 6 項目、魚介加工品 8 検体についてヒスタミン、油脂含有食品 3 検体について酸価・過酸化物質を分析した結果、全ての学校給食の規格基準に適合していた。（主担：畜水産物 G）

(2) 中核市等から依頼された検査

中核市等からの依頼検査を表 6.4 にまとめた。

2. 調査研究

1) 食品に含まれる健康危害物質に関する衛生学的研究

(1) 食中毒（苦情）等の原因究明に関する研究

動物性および植物性自然毒による食中毒等の原因物質を究明するための分析法の検討を行い、今年度発生したじゃがいもおよびぶぐの食中毒疑い事例に適用した。

LC-MS/MS を用いたシガトキシンの分析法の検討を行った。LC-MS/MS による定量性が確認できたため、今後は LC-MS/MS の測定に適した試料溶液調製法の検討を行う（主担：仲谷）。

食品中の生理活性アミン類に関する研究では、昨年度に引き続き固相抽出カラム精製を検討し、ベビーフードを対象に HPLC-FL を用いた分析法を構築した。今後は実態調査や分析法の適用拡大等の検討が必要である。（主担：粟津）

(2) 食品に含まれる化学物質に関する研究

PCB 及び有機塩素系農薬について窒素キャリアを用いた APGC 四重極 MS で分析したところ、ヘリウムガスより良好な感度を得た。また、水素ガスをキャリアガスとした場合に著しく感度が低下した有機スズに関しては、APGC ではヘリウムガスと同等の感度を得た。以上のことから、APGC 四重極 MS を検査に活用できると判断した。（主担：永吉）

2) 食品中の残留農薬等に関する研究

(1) 食品中の残留農薬に関する研究

残留農薬検査を想定し、畜水産物を対象にヘリウムの代替ガスとして水素ガスキャリアによる GC-MS/MS 分析法を検討した。魚類、肉類、牛乳を対象に妥当性確認を行った結果、水素ガスキャリアを代替ガスに用いた場合でも、行政検査に実装可能であることが確認できた。経済的かつ持続可能な本手法を用いて今後の検査を実施していく。（主担：仲谷、平田）

昨年に引き続き、マトリックス効果や測定に影響を与える高脂質な農産物の残留農薬試験法について、シクロデキストリン（CyD）を不溶化したポリマーを用いて評価を行った。低回収率やばらつきを低くするため、コンディショニングや溶出液量などを検討して一部の農薬については改善した。しかしながら、良好な回収率が得られる項目は限定的であり、多成分一斉試験法の適用は難しいと考えられた。（主担：宮本）

昨年に引き続き、大阪市から依頼された特別調査研究として、食品中のグリホサート及びグルホシネートの汚染実態調査を実施した。今年度は、ハチミツ、小麦粉に加えて牛乳やアイスクリームなどの乳製品、野菜ジュースを対象に調査を行った。移動相に添加剤を加えることで、より高感度に測定できる条件を確立した。一部の小麦粉に微量ながらグリホサートが残留していることが明らかとなった。しかしながら、乳製品の回収率が良好ではなく、抽出法あるいは精製法の見直しが必要であった。（主担：宮本、中村、北口）

アーモンドミルク、オーツミルク、豆乳、発酵乳、ピーナツクリームに対するアフラトキシン類の検査法を確立した。さらに、実態調査を実施し、アーモンドミルク、発酵乳、ピーナツクリームからアフラトキシン類を検出した。パツリンについて、りんご、ぶどう、ももを原料とするジュースのパツリン実態調査を実施したところ、りんごジュース、ぶどうジュースからパツリンを検出した。アフラトキシン類、およびパツリンの汚染実態を把握することができ、また構築した分析法は有効であると考えられた。（主担：吉光、益山）

防かび剤、およびアフラトキシン類の検査法について、前処理手順を最適化し、定量下限を下げた改良法を確立した。また、りんご、ぶどう、ももを原料とするジュースを対象としたパツリン検査法を確立した。この方法を

用いることで、りんごジュースのパツリン汚染実態について、正確に把握することができた。(主担：吉光、小阪田、内田、宮本、中村実、北口、上野、益山)

(2) 食品中の動物用医薬品等に関する研究

既存の畜水産物中の残留動物用医薬品残留分析法について、妥当性評価実施試料を追加し、分析法の適用範囲(対象試料)を広げることができた。また、畜水産物中のマクロライド系抗生物質の分析法を検討し、牛肉中のマクロライド系抗生物質の分析法を確立できた。(主担：仲谷、福井、永吉、粟津、山口瑞、松井、平田、上村)

果実飲料を対象に残留抗菌性物質試験法を検討した。その結果、梅飲料(梅酒等)および梨飲料(梨ジュース等)対象とした残留オキシテトラサイクリン試験法について妥当性確認を完了できた。今後、果実飲料を対象とした残留抗菌性物質検査に活用することができる。得られた知見を活用し、次年度も果実飲料を対象にオキソリニック酸等の抗菌性物質について試験法をさらに検討する。(主担：平田)

ジビエを対象に残留動物用医薬品等試験法を検討した。ジビエを対象とした合成抗菌剤クロピドール試験法について妥当性確認が完了できた。今後、ジビエを対象とした残留動物用医薬品等検査に活用することができる。得られた知見を活用し、次年度もジビエを対象にチアベンダゾール等の動物用医薬品について試験法をさらに検討する。(主担：平田)

少品目の標準品でのサルファ剤の網羅的検出法を検討したところ、鶏卵中のサルファ剤について混合標準溶液に含まれていないサルファ剤をも検出可能であることが判明した。標準物質が入手困難であるような物質の検出への応用が期待できる。(主担：松井)

3) 食品の安全性、機能性および品質に関する研究

(1) アレルゲンに関する研究

食物アレルギー混入防止に関する研究では、小麦や大豆等の粉体アレルギーについて、使用後または調理後の飛散や除去について知見を収集した。(主担：吉光、清田)

(2) 食品の安全性、機能性、品質等に関する研究

放射線照射食品の検知に関する研究では、更新したLC-MS/MSを用いてジヒドロチミジン等の分析条件を構築できた。牛肉、エビ以外の動物性食品試料(鶏肉、豚肉、牡蠣、しらすちりめん、イカ等)を対象に照射履歴

を検知できた。照射後約3000日経過した冷凍エビも照射履歴を検知でき、さらに検知指標の線量依存性も認められた。(主担：福井、藤原、高取)

3. 講演、委員会、研修等

1) 委員会等

令和6年度 食品衛生学雑誌編集委員会(日本食品衛生学会)(吉光)

令和6年度 日本環境化学会評議員(永吉)

令和6年度 医薬品医療機器総合機構 日本薬局方原案検討委員会 生物試験法委員会委員(山口進)

令和6年度 奈良県調理師試験及び製菓衛生師試験委員(山口進)

令和6年度 JAXA 惑星等保護設計標準ワーキンググループ委員(山口進)

令和6年度 日本薬学会代議員(山口進)

令和6年度 安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進委託事業「海洋環境の変化を踏まえた貝毒低減等安全性向上に係る技術開発、検証」の審査委員及び評価委員(仲谷)

2) 研修等の受講

R6. 10. 8-11 令和6年度貝毒分析研修会(国立研究開発法人水産研究・教育機構)

R6. 11. 12-13 第34回 計量管理技術基礎講座(一般社団法人日本計量振興協会)

3) 講演

R6. 8. 2, SCIEX フォーラム 2024 ~さらなる高感度・より選択的な定量分析最前線~ 招待講演(中村)

R6.12.13 分析技術勉強会(第24回日本分析化学会中国四国支部・鳥取地区後援会) 招待講演(永吉)

R7. 1. 25 第42回日本獣医師会獣医学術学会年次大会 奨励賞講演(平田)

R7. 2. 20, 第6回 STQ法を考える会 招待講演(中村)

医薬品課

府内に流通している医薬品、医薬部外品、化粧品および医療機器の有効性や安全性を確保するため、製造販売承認書等に基づく検査を行った。また、健康被害の発生を未然に防ぐため、医薬品等が配合された可能性がある健康食品や危険ドラッグについて検査を行った。さらに、製造販売承認の権限が大阪府知事に委任されている医薬品および医薬部外品（33 薬効群）について、提出された試験方法に基づく製品試験を行った。加えて、厚生労働省の委託により、学術的な問題が指摘されている後発医薬品の溶出性に係る品質試験を実施した。さらに、大阪府の条例に基づき、薬物指定審査会に諮問する候補物質の調査、合成、活性評価等を行った。

研究業務では通常研究として、「医薬品等の品質確保及び健康被害防止に関する研究」および「危険ドラッグに関する研究」を実施した。

1. 試験検査

「医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理の基準（GMP：Good Manufacturing Practice）」対象品目の試験検査を行うため、厚生労働省の通知「GMP 調査要領の制定について」に基づく公的試験検査機関の認定査察を令和 7 年 2 月 12 日に受検した。今年度実施した GMP 対象品目を含む試験検査の概要を表 7.1 に示す。

1) 医薬品等の収去試験

(1) 大阪府の一斉収去

大阪府による医薬品、医薬部外品、化粧品及び医療機器の一斉収去では、使用頻度が高い品目等を検査対象とした。今年度、収去検査を実施した各製品の品質に特に問題は認められなかった。

(2) 厚生労働省の一斉監視指導（後発医薬品品質確保対策事業）

表 7.1 医薬品等の試験実施品目数・項目数

	試験品目数				試験項目数						
	総品目数	大阪府依頼品目数	大阪市依頼品目数	厚労省依頼品目数	総項目数	定性試験			定量試験		
						簡単なもの	複雑なもの	極複雑なもの	簡単なもの	複雑なもの	極複雑なもの
総数	245	219	9	17	1805	7	17	1425	92		264
医薬品	55	38		17	243		4	16			223
医薬部外品	126	126			130		13	25	88		4
化粧品	35	35			450			420			30
医療機器	4	4			15	7			4		4
無承認無許可医薬品 (健康食品)	24	15	9		964			962			2
危険ドラッグ	1	1			3			2			1

表 7.2 無承認無許可医薬品（健康食品）の買い上げ調査の対象成分

強壯効果を暗示するもの	スクリーニング対象の 40 成分 (シルденаフィル、ホモシルденаフィル、ヒドロキシホモシルденаフィル、メチソシルденаフィル、ウденаフィル、チオденаフィル、ホモチオденаフィル、ヒドロキシチオホモシルденаフィル、チオアイルденаフィル、タダラフィル、アミノタダラフィル、ホモタダラフィル、クロロプレタダラフィル、バルденаフィル、プソイドバルденаフィル、イミダゾサガトリアジノン、ホンденаフィル、ノルホンденаフィル、ゲンденаフィル、カルボденаフィル、アセチルアシッド、キサントアントラフィル、ヨヒンピン、イカリイン、フェンフルラミン、N-ニトロソフェンフルラミン、マジンドール、シブトラミン、フェノールフタレイン、ビスコジル、グリベンクラミド、グリクラジド、トルプタミド、トラザミド、アセトヘキサミド、クロルプロパミド、スピロラクトン、フロセミド、ヒドロクロロチアジド、フルオキセチン)
ダイエット効果を暗示するもの	

厚生労働省が行う後発医薬品品質確保対策事業に参加し、令和6年度の一斉監視指導品目について試験を行った。当該事業では、後発医薬品の品質を確認するための製品検査を実施する。今年度医薬品課では、フェキソフェナジン塩酸塩錠（17品目）について、承認書に規定された試験方法に基づき溶出試験を行った。検査を実施した各製剤の溶出性に係る品質に問題は認められなかった。

2) 無承認無許可医薬品（健康食品）の検査

平成15年度から無承認無許可医薬品による健康被害の発生および拡大防止を目的として、医薬品等が配合された可能性がある健康食品の検査を実施している。今年度は大阪府健康医療部および大阪市健康局の依頼により、強壯・強精効果（17製品）及びダイエット効果（7製品）を暗示する24品目について、表7.2に示す医薬品成分を対象とした試験検査を実施した。その結果、強壯・強精の1製品から医薬品成分であるタダラフィル及びクロロプレタダラフィルを検出した。

3) 危険ドラッグの買い上げ検査

平成23年度から大阪府健康医療部の依頼により、危険ドラッグの乱用防止を目的として買い上げ検査を実施している。今年度は試買した1製品を対象とし、指定薬物およびその類似体含有の有無について調査を実施した。その結果、指定薬物類似体を検出した。

4) 大阪府知事への承認申請に伴う製品試験

平成29年度から大阪府知事に製造販売承認申請が行われた一般用の医薬品および医薬部外品について、提出された規格および試験法に基づく製品試験を実施している。今年度、大阪府知事に申請が行われた医薬品および

表 7.3 知事承認申請に伴う試験検査

	医薬品	医薬部外品	合計
試験品目数	18	121	139
試験項目数	18	121	139

医薬部外品の製品試験の結果は、概ね良好であった。試験を実施した項目数等を表7.3に示す。

5) 経口固形製剤の溶出挙動等の確認（後発医薬品品質情報提供等推進事業）

厚生労働省の委託により、全国9都府県（東京都、埼玉県、神奈川県、静岡県、富山県、愛知県、京都府、兵庫県および福岡県）と共に後発医薬品品質情報提供等推進事業に参加した。当該事業では、学術的に課題となる後発医薬品の品質に関する試験検査を実施する。今年度はバルプロ酸ナトリウム製剤：9製品について、4液性（水、pH1.2、pH4.0およびpH6.8）による溶出挙動の確認を行った。

6) 大阪府の条例に基づく知事指定薬物の調査

大阪府では「大阪府薬物の濫用の防止に関する条例」（平成24年12月1日施行）を制定し、知事指定薬物を選定している。当該薬物は後に国の指定薬物となり、全国で規制を受けることになる。医薬品課では今年度も大阪府健康医療部薬務課および東京都健康安全研究センターと連携し、大阪府薬物指定審査会に諮問する候補物質の調査、選定、合成、化学的性質の確認および活性評価を行った。医薬品課の調査により今年度、大阪府知事指定薬物に指定された化合物を表7.4に示す。

表 7.4 大阪府知事指定薬物

1	ADB-5'Br-BUTINACA
2	ADB-5'Br-PINACA
3	1cP-MiPLA
4	1S-LSD

2. 調査研究

1) 医薬品等の品質確保及び健康被害防止に関する研究

(1) 医薬品等の品質確保に関する研究

- ①酸化染毛剤を用いて染毛試験を実施し、羊毛製の白布と他の資材で染色性を比較した結果を報告した。(主担：中村)
- ②接触性皮膚炎発症の原因となるホルムアルデヒド遊離型防腐剤を配合した化粧品において、化粧品の剤形や保存温度に関係なく化粧品中で新たに生成物が生じていることを確認した。(主担：田中)

(2) 無承認無許可医薬品による健康被害防止に関する研究

- ①流通検体を対象として検査項目外薬物の探索・同定を実施した。(主担：土井、浅田、東、田中、阪井、坂本)
- ②強壮系および痩身系の医薬品成分(50成分)について添加回収試験等を実施した。(主担：田中、阪井)

2) 危険ドラッグに関する研究

(1) 新規乱用薬物の分析・合成に関する研究

- ①買い上げ試験の結果、国内販売サイトから入手した紙試料より未知ピークが検出された。合成した標準品との比較から、新規のLSD類似化合物であることが明らかとなった。(主担：土井、浅田、東、田中、阪井、坂本)
- ②LSD類似化合物の系統的合成法を確立し、LSD系の新規乱用薬物3物質を合成した。THC類似化合物の系統的合成法を確立し、これまでに6物質を合成した。(主担：土井、浅田)
- ③これまでに合成した新規乱用薬物・合成中間体およびその不純物等のうち、13物質を対象として単結晶X線構造解析を行い、その分子の立体構造を特定した。(主担：土井、阪井)

(2) 新規乱用薬物の生体影響・代謝に関する研究

- ①海外で流通している新規乱用薬物(4物質)について、委託試験(Aequorinを用いたカルシウムアッセイ)を実施した。(主担：浅田、土井)
- ②過去に規制されたオピオイド系化合物(7物質)を対象に、2つの異なる試験系を用いて得られた受容体活性化能の結果について評価を行った。(主担：浅田、田中、土井)
- ③in vitroで強い活性が認められた化合物2物質、in vitroでは活性を示さなかったものの、プロドラッグとして中枢に影響を及ぼすと推定された2物質、計4物質についてマウスを用いた曝露試験を実施した。(主担：田中、東、浅田、土井)
- ④2種類の化合物を対象に、ヒト肝ミクロソーム画分を用いたin vitro代謝実験を実施し、2化合物の指標代謝物について構造決定を行った。(主担：東)
- ⑤不斉炭素を持つ乱用薬物を対象に、ヒト肝ミクロソーム画分を用いたin vitro代謝実験を実施し、代謝物をキラルクロマトグラフィーにより追跡した。(主担：浅田)

3. 研修・講演・委員会等

1) 相談業務

行政機関、地方衛生研究所、医薬品製造販売業者等から試験検査に対する問い合わせ34件に対応した(表7.5)。

表 7.5 行政等からの相談業務

	相談件数
行政(大阪府、大阪市)	21
地方衛生研究所	10
医薬品製造販売業者	1
その他	2

2) 委員会等

令和6年度大阪府薬物指定審査会(東京都、大阪府、4回)(田上、土井、浅田、東、田中、阪井、坂本)
令和6年度日局原案検討委員会製剤WG会議(医薬品

医療機器総合機構、6回) (川口)

令和6年度 日局原案検討委員会化学薬品委員会 (医薬品医療機器総合機構、6回) (田上)

令和6年度 医薬部外品原料規格検討連絡会議 (厚生労働省、3回) (田上)

令和6年度 医薬部外品原料規格ワーキンググループ会議 (国立医薬品食品衛生研究所、3回) (田上)

令和6年度 ジェネリック医薬品・バイオシミラー品質情報検討会 (国立医薬品食品衛生研究所、2回) (田上)

令和6年度 ジェネリック医薬品・バイオシミラー品質情報検討会製剤試験WGに係る打合せ会議 (国立医薬品食品衛生研究所) (中村)

令和6年度 大阪府麻薬覚醒剤等対策本部取締対策部会 (大阪府) (田上)

令和6年度 第61回全国薬事指導協議会総会 (富山県) (田上、中村)

生活環境課

生活環境課では、府民が健康で安全な生活を送るために必要な環境関連の試験検査、調査分析および調査研究を行っている。

上水関連の試験検査においては、水道水中の基準項目に加え、農薬類、ダイオキシン類、有機フッ素化合物類（PFAS）等の化学物質、水系感染症の原因となるクリプトスポリジウム等の病原微生物を中心に実施した。家庭用品検査は、市販繊維製品中のホルムアルデヒド試験の他、家庭用・住宅用洗剤や特定芳香族アミン等を対象として実施した。環境放射能・放射線に関しては、大阪府内の環境・食品中の放射線量や放射性物質について、原子力規制庁からの委託により調査分析を実施した。

水道水質検査における信頼性確保については、環境省が実施する「令和6年度水道水質検査精度管理のための統一試料調査」に参加し、精度管理に努めた。また、大阪府健康医療部生活衛生室環境衛生課と共同し、府内の水道事業者、保健所等の水質検査機関における検査精度向上を図る目的で「令和6年度大阪府水道水質検査外部精度管理」を実施した。

令和6年度に水質、生活用品および放射線等に関連して実施した試験検査等について、件数を表8.1に、項目数を表8.2に示した。

1. 試験検査等

1) 水質検査

(1) 理化学検査

基準項目検査（全項目：2件）、農薬類検査（11件）、ダイオキシン類検査（16件）、有機フッ素化合物検査（140件）、NDMA検査（4件）、ミクロキスチン類（8件）、プール水を対象としたトリハロメタン等検査（16件）を実施した。また、湧水（2件）および旅館水（16件）を対象とした平常項目等の検査を実施した。基準項目の検査については、基準値を超過した項目は存在しなかった。農薬類の検査については、対象農薬リスト掲載農薬類115種類、要検討農薬類2種類、その他の農薬類1種類、除外農薬類3種類を検査対象としたが、すべての項目において目標値未満であった。ダイオキシン類の検査では水道原水で目標値の1 pg-TEQ/Lを超えるものはなく、浄水においてはすべて目標値の1/10未満であった。有機フッ素化合物については、一部の地下水や飲用水においては暫定目標値の超過がみられたが、多くの検体は暫定目標値未満であった。NDMAについては、いずれの検体も目標値の1/10未満であった。ミクロキスチン類については、いずれの検体も暫定目標値未満であった。総トリハロメタンはすべてのプール水にお

いて基準値未満であった。一方、平常項目等の検査においては、一部の検体から一般細菌の基準超過がみられた。（主担：上水G）

(2) 微生物検査

府内浄水場の水道原水および浄水中のクリプトスポリジウム・ジアルジアの検査（44件）を実施し、原水からジアルジアが2件検出された。レジオネラ検査については、中核市からの依頼で採暖槽水（2件）、民間からの依頼で遊泳場水（3件）を実施した。いずれの検体からもレジオネラ属菌は検出されなかった。また、中核市からの依頼で遊泳場水（20件）、民間からの依頼で遊泳場水（33件）について5項目（一般細菌、大腸菌、pH、濁度、過マンガン酸カリウム消費量）の検査を実施した。いずれの検体も遊泳場水の水質基準に適合していた。（主担：環境微生物G）

(3) 放射性物質検査

府内1カ所の浄水場の水道原水および浄水について、放射性セシウムの検査（4件）を行ったが、いずれからもセシウム134およびセシウム137は検出されなかった。（主担：放射線G）

2) 水質汚濁防止法に関わる水質検査

府内指定地域特定施設放流水等の水質検査を実施した（49件）。（主担：上水G）

表 8.1 試験検査件数

項 目			依頼者	依頼によるもの				依頼によらないもの	計
				住民	保健所	行政機関	医療機関、学校、事業所等		
水道等 水質検査	水道原水	細菌学的検査							
		理化学的検査		12	47	1	20	80	
		生物学的検査			39			39	
	飲用水	細菌学的検査			7			7	
		理化学的検査			91	1	20	112	
	利用水等 (プール水含む)	細菌学的検査			22	36	50	108	
理化学的検査			14	20	33		67		
一般環境関係	一般廃棄物	細菌学的検査							
		理化学的検査							
	水質検査	公共用水域			1			1	
		工場・事業場排水			1			1	
		浄化槽放流水			37			37	
		その他	1	1	35			37	
	環境生物検査	藻類・プランクトン ・魚介類							
		その他							
一般室内環境									
その他									
家庭用品等	家庭用品			310			310		
	その他								
放射能	環境試料			2292			2292		
	食品			2			2		
	その他			31			31		
温泉（鉱泉）泉質検査				31			31		
その他									
合 計			1	27	2966	71	90	3155	

3) 家庭用品検査

「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」に基づく家庭用品検査（府・市からの行政依頼検査）は市販繊維製品中のホルムアルデヒド試験の他、家庭用および住宅用洗剤など計 192 件、中核市からの依頼検査計 118 件に対して、検査項目数総計 651 項目を実施した。大阪府および中核市から依頼を受けた乳幼児用繊維製品中のホルムアルデヒド試験で各 1 件（合計 2 件）の違反があった。それぞれ、取去検査を実施した結果、大阪府は 7 件中 4 件、中核市では 2 件中 1 件の基準値違反が認められた。（主担：家庭用品 G）

4) 調査等

(1) 温泉資源保護調査

大阪府温泉保護に係る調査実施要領に基づく府内温泉成分水質調査を実施した（31 件）。（主担：上水 G）

(2) 環境・食品中の放射線量・放射性物質の調査分析

原子力規制庁からの委託により大阪府内の環境および食品試料中の放射能および空間放射線量率調査を実施した。降水の全ベータ放射能測定 76 件、環境および食品中のガンマ線核種分析 31 件および空間放射線量率測定 2190 件を行った。令和 6 年度における環境および各種食品中の放射能および放射線調査の結果、すべて過去の値と同程度であり、人工放射性物質の環境への新たな放出はないことを確認した。（主担：放射線 G）

表 8.2 環境水質関連試験検査項目数

項目	種別	水道原水	飲用水	利用水等	温泉 (鉱泉)	下水 排水	公共用水	その他	合計
一般細菌			18	103				2	123
大腸菌群・大腸菌			18	53		48		3	122
レジオネラ菌				5					5
その他の細菌				50					50
クリプトスポリジウム等		39	5						44
その他の生物				50					50
変異原性試験									
内分泌攪乱物質活性試験									
カドミウム			2						2
クロム			2						2
水銀			2						2
セレン			2						2
鉛			2						2
ヒ素			2						2
亜鉛			2						2
アルミニウム			2						2
鉄			18		31			2	51
銅			2						2
マンガン			18		31			2	51
その他の金属			2		31				33
塩化物イオン			18		31	95		2	146
硫酸イオン					31				31
シアン			2						2
フッ素			2		31				33
ホウ素			2		31				33
臭素酸			2						2
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素			20		31	95		2	148
アンモニア性窒素					31	48			79
総窒素						48		1	49
リン						48		1	49
残留塩素									
その他非金属物質			2		31				33
揮発性有機物質			12						12
1,4-ジオキサン			2						2
ダイオキシン類		8	8						16
農薬類		388	374						762
トリハロメタン類			10	64					74
ハロ酢酸類			6						6
ホルムアルデヒド			2						2
陰イオン界面活性剤			2						2
非イオン界面活性剤			2						2
フェノール類			2						2
カビ臭物質			4						4
全有機ハロゲン化合物									
その他の有機物質		732	1090	24			74	20	1940
有機物質 (TOC 等)		40	58	44				2	144
味			18						18
色度			18					2	20
臭気			18			48		2	68
蒸発残留物			2						2
濁度 (透視度)			18	47				2	67
pH 値			18	47	31	48		3	147
COD						48		1	49
BOD						96		1	97
浮遊物						48		1	49
酸度・アルカリ度					31				31
マグネシウム・カルシウム (硬度)			2		31				33
n-ヘキサン抽出物						37			37
ヨウ素消費量									
ラドン									
ベータ線測定								76	76
ガンマ線核種分析		3	3					29	35
空間放射線量率								2190	2190
その他					31			24	55
計		1210	1814	487	434	707	74	2368	7094

2. 調査研究

1) 水環境に関する衛生学的研究

(1) 水質中有害物質の分析法開発および実態把握

LC-QTOFMSを用いたスクリーニング分析法について、昨年度に構築した負イオン化モードで検出する農薬類について、その分析精度を明らかにした。(主担：吉田仁、高木、安達、小池、赤木、河相)

大阪府健康医療部生活衛生室環境衛生課の依頼により、水道原水・浄水中の微量汚染物質の現状を把握し、水道水の安全・安心の確保に資するために「大阪府水道水中微量有機物質調査」を引き続き実施した。令和6年度は、水に対する溶解度が高く、河川水からの検出事例のある人工甘味料のうち指定外添加物を含む9種類(アスパルテーム、アセスルファムK、アドバンテーム、サッカリンNa、スクラロース、ネオテーム、サイクラミン酸Na、アリテームおよびズルチン)について調査した。その結果、アセスルファムKおよびスクラロースが、それぞれ一部の浄水場の原水および浄水試料から検出されたが、いずれもADIから算出された仮の目標値と比べて十分に低かったため、大阪府の飲料水は適切に管理されていると考えられた。(主担：吉田仁、小泉、安達、赤木、河相、大嶋)

13種類のPFASについてLC-QTOFMS用のデータベースを追加構築した。PFASのスクリーニング分析用検量線を4回作成し、傾きの比較を行った。また、構築したデータベースを用いて実試料を測定し、その定量値をターゲット分析の結果と比較し、定量精度を評価した。作成した4回分の検量線の傾きを比較したところ、相対標準偏差(RSD)は3～27%であり、3種類のPFASで20%を超過したものの、概ね良好な精度が得られた。実試料と標準液についてターゲット分析とスクリーニング分析での定量値を比較した結果、その比は0.83～2.80であり、スクリーニング分析としても十分な定量精度であった。(主担：高木、吉田仁、安達、小池、赤木、河相)

ヘリウムによらないガスクロマトグラフ-質量分析計を用いた分析法を開発することを目的に、水素キャリアガスを用いてジェオスミンおよび2-メチルイソボルネオール(別表第25)および農薬類の通知法(別添方法5、7および23)における妥当性評価を実施した。

別表第25では両物質について、別添方法5では16種類のうち11種の農薬について、別添方法7および23ではすべての農薬について、妥当性評価の目標を満たした。(主担：小泉、大嶋、高木)

(2) 水道水質検査における定量精度に影響を及ぼす因子の解明

大阪府健康医療部生活衛生室環境衛生課の依頼により、今年度も引き続き大阪府内の水道事業体、保健所等の試験検査機関を対象とした水道水質検査外部精度管理を実施した。今年度は「ホウ素及びその化合物」と「1,4-ジオキサン」を対象項目とした。その結果、「ホウ素及びその化合物」では、すべての参加機関が良好な分析精度を保っていた。「1,4-ジオキサン」では、外れ値になった1機関を対象に原因を追求した。その結果、外れ値の要因として、分析に用いたヘッドスペースガスクロマトグラフ質量分析計において1,4-ジオキサンの感度が低下しており、その結果として分析精度も低下したものと考えられた。(主担：吉田仁、小泉、安達、長谷川)

また、建築物飲料水水質検査業者を対象として、「鉛及びその化合物」と「プロモジクロロメタン」の模擬試料の測定結果から、既存検査法の定量精度に影響を及ぼす因子を考察した。「鉛及びその化合物」について外れ値になった5機関を対象に原因を追求した結果、標準液の汚染、前処理器具や分析機器の汚染、分析機器のメンテナンス不足および測定データの取違い等が外れ値の要因として考えられた。また、「プロモジクロロメタン」について外れ値になった1機関を対象に原因を追求した。揮発性物質分析で、本来、冷蔵状態で取り扱うべき試料を常温に戻したことが主たる要因であり、さらに密栓の不具合の可能性も要因として考えられた。(主担：吉田仁、大嶋、安達、長谷川)

(3) 生活排水が水環境に与える影響評価に関する研究

特定酵素基質培地法を用いた大腸菌数検査における培地等について検討した。対象とした試料で大腸菌数を計測したところ、検出されたコロニー数はすべての試料で令和7年4月1日より基準値となる800CFU/mL未満であった。(主担：安達、吉田仁、赤木)

(4) 環境微生物の検出法および生息実態の解明に関する研究

アメーバ共培養法を行った水道水試料について細菌叢解析を行った結果、主に環境由来菌種が検出され、高病原性細菌種は検出されなかった。(主担：枝川、余野木、

小池)

レジオネラ培養検査の技能試験に関する情報収集を行い、得られた情報について地衛研細菌部会レジオネラリファレンスセンターを通じて提供した。(主担：枝川、小池)

2) 生活衛生に関する総合研究

(1) 家庭用品中の有害物質試験法および基準に関する研究

防水加工された繊維製品中の GC-MS で測定可能な PFAS について、分析法の検討と実態調査を行った。その結果、防水加工製品からテロマーアルコール系の PFAS が検出されたが定量下限値未満であった。(主担：高木、吉田仁)

家庭用品規制法の規制対象となる 3 種類の防炎加工剤 (APO、TDBPP および BDBPP) の LC-MS/MS 分析法を確立し、論文に投稿した。また、APO については、既存の GC/MS 分析法で得られた試験液を LC-MS/MS 分析に適用する方法について検討した。(主担：大嶋)

大阪市健康局健康推進部生活衛生課の依頼により、繊維製品中有機スズ化合物の LC-MS/MS 法の検討を行った。有機スズ化合物の TBT および TPT について、LC の分離条件、プリカーサーイオンおよびプロダクトイオンを決定し、検量線の妥当性評価を実施した。(主担：高木、味村、吉田俊)

(2) 生活環境中の有害物質による健康影響に関する研究

厚労省において新たに室内濃度指針値の策定が検討されている 2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタンジオールモノイソブチレート (Texanol) および同ジイソブチレート (TXIB) について、在宅中の子どもにおける曝露量 (体内摂取量) について調べた成果は、住民におけるこれら化学物質の健康被害を防止するための更なる曝露影響評価研究や行政的施策において有用な資料として活用できるものと考えられた。(主担：吉田俊、吉田仁、味村)

修景水等中の細菌群集構造を解析するには、細菌の DNA 損傷や、夾雑物質による DNA 抽出効率の低下を考慮した前処理法を検討する必要があることがわかった。一般生活環境中に浮遊する微小粒子に関するデータ解析の結果、その粒径分布は過去の実験系で得られた分布と同等である可能性が示唆された。(主担：味村)

3. 講演、委員会、研修等

1) 講演等

R6.11.22 第 61 回全国衛生化学技術協議会年会 環境・家庭用品部門研究会「指針値設定検討化学物質への住民の曝露 - 2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタンジオールモノイソブチレートおよび 2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタンジオールジイソブチレート -」(吉田俊)

R6.11.22 第 61 回全国衛生化学技術協議会年会 環境・家庭用品部門研究会「水道における PFAS 問題に関する現状とこれからの取り組みから -」(高木)

R6.11.30 2024 年度室内環境学会総会「在宅中の子どもにおける 2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタンジオールモノイソブチレートおよび 2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタンジオールジイソブチレートの摂取量の推定」(吉田俊)

2) 委員会等

令和 6 年度 浄化槽行政連絡協議会 (大阪府、1 回) (安達)

令和 6 年度 大阪府環境審議会 温泉部会 (大阪府、1 回) (安達)

令和 6 年度 水道における微生物問題検討会 (環境省、1 回) (枝川)

令和 6 年度 環境放射能水準調査に係る技術検討会 (日本分析センター、1 回) (小泉、小池、肥塚)

熊取町大久保東地区地下水質汚染対策会議 (大阪府、3 回) (高取、高木)

3) 研修の受講

R6.6.21 計量管理講習会 (日本環境測定分析協会)

R6.7.11 質量分析講習会 (質量分析学会)

R6.10.1-2 GC/MS オンサイトトレーニング (アジレント・テクノロジー)

R6.12.12-13 不確かさの基礎 (日本電気計器検定所 関西支社)

地研関連事業

地 研 関 連 事 業

1) 感染症発生動向調査事業

大阪府から委託を受け、感染症発生動向調査事業の一環として、感染症情報センター事務、感染症流行予測調査事業、およびそれらに伴う病原体検査を実施している。

大阪府感染症情報センターは大阪府の基幹地方感染症情報センターと位置付けられ、大阪府と政令指定都市の大阪市・堺市及び中核市の東大阪市・高槻市・豊中市・枚方市・八尾市・寝屋川市・吹田市の協力のもと実施している。大阪府内の医療機関や指定届出機関（定点）から収集された全数把握対象疾患と定点把握対象疾患の患者情報を取りまとめ、厚生労働省が収集し提供する全国情報とともに、毎週研究所で開催される大阪感染症情報解析委員会に報告した。2024年の指定届出機関（定点）数は、インフルエンザ/COVID-19 定点 306・小児科定点 197・眼科定点 52・性感染症（STD）定点 64 及び基幹定点 18(2024年12月時点)であった。これらのデータは府内の保健所、各市町村、定点にメールおよび fax で還元するとともに、当所のホームページに掲載し、府民に広く提供した。また、定点把握対象疾患の病原体サーベイランスとして、府内の定点医療機関から依頼のあった 1583 検体について病原体検索を行い、結果を速やかに還元するように努めた。検査結果のまとめは、感染症発生動向調査事業報告書第 43 報 2024 年版に掲載される。(健康危機管理課)

2) 厚生労働省感染症流行予測調査事業

(1) 侵襲性肺炎球菌感染症

2014 年度より大阪府内の医療機関で血液・脳脊髄液等から検出された肺炎球菌を収集し、血清型別を実施している。2024 年度は、65 歳以上由来 72 株、10～64 歳由来 38 株、0～9 歳由来 37 株を含む全 147 株（2023 年度 117 株）について解析を行った。検出された血清型は 29 種類で、22F 型（27 株、18.4%）、3 型（16 株、10.9%）、35B 型（11 株、7.5%）、15B 型（9 株、6.1%）、10A・11A・38 型（各 8 株、5.4%）の順に多かった。(細菌課)

(2) 侵襲性インフルエンザ菌感染症

2014 年度より大阪府内の医療機関で血液・脳脊髄液等から検出されたインフルエンザ菌を収集し、血清型別を実施している。2024 年度は、65 歳以上由来 21 株、10～64 歳由来 5 株、0～9 歳由来 3 株を含む全 29 株（2023 年度 22 株）について解析を行った。検出された血清型は、a 型（1 株、3.4%）、f 型（1 株、3.4%）、型別不能型（27 株、93.1%）であった。(細菌課)

(3) 麻疹ウイルス感受性調査

0 歳から 73 歳までの計 257 名を対象に麻疹ウイルスに対する抗体価を測定し、抗体保有率を求めた。EIA 価で 4 以上を陽性とする年齢群別抗体保有率は、0～1 歳児は 50.0%（6/12）、2～3 歳児は 85.7%（12/14）、4～9 歳児は 100%（21/21）であり、第 1 期および 2 期の定期接種が適切になされていると考えられた。10 歳以上の年齢層での抗体保有率は 94.3%（198/210）であった。(ウイルス課)

(4) 水痘ウイルス感受性調査

0 歳から 73 歳までの計 257 名を対象に水痘ウイルス抗体価を測定した。測定は酵素免疫法 (EIA 法) で行い、EIA 価で 4 以上を陽性とする年齢群別抗体保有率は、0～1 歳児は 16.7%（2/12）、2～3 歳児は 57.1%（8/14）、4～9 歳児は 52.4%（11/21）、10 歳代は 91.7%（33/36）、20 歳代は 97.8%（45/46）、30 歳以上の年齢層の抗体保有率は 100%（128/128）であった。2014 年 10 月に水痘ワクチンの定期接種が開始されて以降、水痘患者の報告数は大きく減少している。今後も、水痘ワクチンの接種勧奨とともに抗体保有率の推移を継続的に調査する必要があると考えられた。(ウイルス課)

(5) 日本脳炎感受性調査

0 歳から 73 歳までの計 257 人について日本脳炎ウイルスに対する血清中の中和抗体価を測定した。その結果、65.0%（167 名）が抗体陽性（10 倍以上）となり、抗体保有率は低かった。標準的なワクチン接種年齢の 3～12 歳の抗体保有率は 84.2% で低い値となった。抗体保有率は 0～9 歳児は 68.1%（32/47）、10 歳代は 91.7%（33/36）、20 歳代は 87.0%（40/46）、30 歳代

は90.2% (37/41)、40歳代は38.7% (12/31)、50歳代は26.3% (10/38)、60歳代以上は16.7% (3/18)と、40歳以降の年齢層で著しい抗体保有率の低下が認められ、これらの年齢層で日本脳炎ウイルスに対する感染防御力が減弱していると考えられた。(ウイルス課)

(6) ヒトパピローマウイルスの抗体保有調査

成人(20～73歳)174名についてヒトパピローマウイルス(HPV)に対する抗体保有調査を行った。酵素免疫法(EIA法)により抗体価を測定した結果、抗体陽性と判定される4IU/mL以上を示したものは41名23.6%であった。そのうち25(9価回数不明を含むと26)名はHPVワクチン接種歴を有していた。(ウイルス課)

(7) B型肝炎ウイルス感受性調査

0歳から73歳までの計257人について、2016年10月1日から定期接種が開始されたB型肝炎ワクチンに関する感受性調査を実施した。酵素免疫法(EIA法)によりHBs抗体について抗体価を測定した結果、HBs抗体陽性例は154例(59.9%)であった。年齢群別のHBs抗体保有率は、0～4歳児は96.8%(30/31)、5～9歳児は75.0%(12/16)、10～14歳は23.1%(3/13)、15～19歳は0%(0/23)、20歳以上の年齢層は62.6%(109/174)であった。(ウイルス課)

(8) 環境水中のポリオ感染源調査

国外からのポリオウイルスの流入を監視するために、大阪府内3か所の環境水(流入下水)からポリオウイルスの分離を実施した。3か所のいずれの環境水からもポリオウイルスは分離されなかった。(ウイルス課)

3) 病原性微生物検出情報への協力

国立感染症研究所が月報として発行する病原微生物検出情報に参画し、細菌、ウイルス及び寄生虫検出情報を提供した。

4) 地方衛生研究所全国協議会等の活動

R6.6.7 地方衛生研究所全国協議会臨時総会

R6.8.29 指定都市衛生研究所長会議

R6.10.28 地方衛生研究所全国協議会第75回総会

5) 地研全国協議会近畿支部における活動

R6.5.28 第1回総会

R6.6.24 役員会

R6.7.18 第1回近畿ブロック会議及び第2回総会

R7.1.9 第2回近畿ブロック会議及び第3回総会

業 績 集

誌 上 発 表

●信頼性保証室

- 1) 紀雅美, 工藤鮎子, 寺谷清香, 山口之彦, 新矢将尚. 高速液体クロマトグラフを用いた加工食品中のビタミンB2、ニコチン酸およびニコチン酸アミドの妥当性評価および含有量調査. *大阪健康安全基盤研究所研究年報* 2024; 8: 1-9.

●健康危機管理課

- 2) Nishio T, Fukuyama J, Fukunaga I, Nishitani T, Takakura A, Sakai M, Masuda J. Evaluation of stabilization status of the landfill layers by comparing long-term monitoring data of methane emission with FOD model estimate. *Environ Technol* 2024; 45(18); 3679-3691.
- 3) 山中靖貴, 柿本健作, 西田陽子, 鶴飼友彦, 西尾孝之, 後藤薫, 皐月由香, 三山豪士, 入谷展弘, 本村和嗣. 大阪府における 2023 年の感染症発生動向. *大阪健康安全基盤研究所研究年報* 2024; 8: 10-19.

●疫学解析研究課

- 4) Miyama T, Kakimoto K, Yamanaka Y, Nishida Y, Iritani N, Motomura K. Irregular seasonality of respiratory syncytial virus infection persists in 2023 in Osaka, Japan. *IJID Reg.* 2024;13:100442.
- 5) Shimizu Y, Yoshida T, Ito K, Terada K, Sasaki N, Honda E, Motomura K. Impact of Autism on the Relation Between Sleep and Life Satisfaction in Japanese Adults. *Diseases.* 2024 Nov 28;12(12):305.
- 6) Shimizu Y, Yamanashi H, Noguchi Y, Kawashiri SY, Arima K, Nagata Y, Maeda T. Platelet count and hypertension as indicators of height loss in the general population: A prospective study. *PLoS One.* 2024 ;19(12):e0314527.
- 7) Shimizu Y, Yoshida T, Ito K, Terada K, Sasaki N, Honda E, Motomura K. Association Between Asian Flush and Satisfaction of Sleep via Alcohol Consumption Status in a Sample of Japanese Participants. *Med Sci (Basel).* 2024;12(4):62.
- 8) Shimizu Y, Kawashiri SY, Yamanashi H, Nakamichi S, Hayashida N, Nagata Y, Maeda T. Association between serum uric acid levels and cardio-ankle vascular index stratified by circulating level of CD34-positive cells among elderly Japanese men: a cross-sectional study. *Sci Rep.* 2024;14(1):21965.
- 9) Shimizu Y, Kawashiri SY, Noguchi Y, Sasaki N, Nakamichi S, Arima K, Nagata Y, Maeda T. Feeling of incomplete bladder emptying and angiogenesis-related polymorphism rs3025020 among older community-dwelling individuals. *Geriatr Gerontol Int.* 2024;24(10):1039-1044.
- 10) Shimizu Y, Kawashiri SY, Noguchi Y, Sasaki N, Matsuyama M, Nakamichi S, Arima K, Nagata Y, Maeda T, Hayashida N. Association between eating speed and atherosclerosis in relation to growth differentiation factor-15 levels in older individuals in a cross-sectional study. *Sci Rep.* 2024 Jul 17;14(1):16492.
- 11) Shimizu Y, Honda E, Sasaki N, Takada M, Yoshida T, Motomura K. Association between underweight, serum albumin levels, and height loss in the Japanese male population: a retrospective study. *J Physiol Anthropol.* 2024 May 27;43(1):15.
- 12) Miyata J, Yamanashi H, Dake Y, Nobusue K, Doi Y, Honda Y, Nonaka F, Arima K, Tamai M, Sasaki D, Shimizu Y, Hasegawa H, Kitaoka T, Yanagihara K, Aoyagi K, Kawakami A, Maeda T. Period prevalence of uveitis in human T-lymphotropic virus 1 carriers versus noncarriers in a highly endemic area: The Nagasaki Islands Study. *J Med Virol.* 2024 May;96(5):e29653.
- 13) Shimizu Y, Arima K, Yamanashi H, Kawashiri SY, Noguchi Y, Honda Y, Nakamichi S, Nagata Y, Maeda T. Association between atherosclerosis and height loss among older individuals. *Sci Rep.* 2024 ;14(1):7776.

- 14) Tezuka K, Kubota Y, Ohira T, Muraki I, Hayama-Terada M, Shimizu Y, Imano H, Shirai K, Okada T, Kiyama M, Iso H. Retirement status after the age of 60 years modifies the association between anger expression and the risk of cardiovascular disease: The Circulatory Risk in Communities Study. *Geriatr Gerontol Int.* 2024;24(4):385-389.
- 15) Aoki S, Yamagishi K, Maruyama K, Ikeda A, Nagao M, Noda H, Umesawa M, Hayama-Terada M, Muraki I, Okada C, Tanaka M, Kishida R, Kihara T, Takada M, Shimizu Y, Ohira T, Imano H, Sankai T, Okada T, Tanigawa T, Kitamura A, Kiyama M, Iso H. Mushroom intake and risk of incident disabling dementia: the Circulatory Risk in Communities Study (CIRCS). *Br J Nutr.* 2024 May 14;131(9):1641-1647.
- 16) Funakubo N, Okazaki K, Hayashi F, Eguchi E, Nishimagi M, Nagao M, Yoshida T, Yokozuka M, Moriyama N, Fujita Y, Ohira T. Association of laughter and social communication with oral frailty among residents in Fukushima: a cross-sectional study. *Sci Rep.* 2024; 14(1):26818.
- 17) 廣川空美, 藤吉奈央子, 吉田克知, 大平哲也. コロナ禍における精神科医療機関の職場メンタルヘルス対策に関するサービスの実態調査. *労働安全衛生研究* 2024;17(2):119-125.
- 18) Shimizu, Y., Yoshida, T., Ito, K., Terada, K., Sasaki, N., Honda, E., & Motomura, K. (2025). Habitual walking and mental disorder in relation to autism spectrum disorder. *International Journal of Developmental Disabilities.* 2025:1-6.
- 19) Satoh M, Ohkubo T, Miura K, Harada A, Tsutsui A, Hozawa A, Shimizu Y, Ishikawa S, Kokubo Y, Okamura T, Murakami Y. on behalf of the Evidence for Cardiovascular Prevention from Observational Cohorts in Japan (EPOCH-Japan). Long-term risk of cardiovascular mortality according to age group and blood pressure categories of the latest guideline. *Hypertension Research.* 2025. Epub ahead of print
- 20) Shimizu Y, Kawashiri SY, Yamanashi H, Nakamichi S, Hayashida N, Nagata Y, Maeda T. Beneficial influence of low-density lipoprotein cholesterol on the endothelium in relation to endothelial repair. *Environmental Health and Preventive Medicine.* 2025 in press.
- 21) Shimizu Y, Yoshida T, Ito K, Terada K, Sasaki N, Honda E, Motomura K. Habitual walking and mental disorder in relation to autism spectrum disorder. *Inter J Dev Disabili* 2025;1-6.

●細菌課

- 22) Wakabayashi Y, Kumeda Y, Yoshihara S, Tokumoto H, Kawatsu K, Miyake M. Prevalence of *Staphylococcus argenteus* among food handlers, kitchen utensils, and food samples in Japan. *Lett. Appl. Microbiol.* 2024; 77:ovae031.
- 23) Kojima K, Wakabayashi Y, Nishijima S, Sakata J, Sekiya S, Iwamoto S, Tanaka K. Characterisation of glucose-induced protein fragments among the order *Enterobacterales* using matrix-assisted laser desorption ionization-time of flight mass spectrometry. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* 2024; 732:150407
- 24) Umeda K, Anraku M, Yamaguchi T, Nakamura H, Kawahara R. Genetic characterization of KHM-1 metallo- β -lactamase-producing *Enterobacterales* isolates from inpatient sources in Osaka, Japan. *J. Glob. Antimicrob. Resist.* 2024; 37: 48-52.
- 25) Osugi A, Tamaru A, Yoshiyama T, Iwamoto T, Mitarai S, and Murase Y. *Mycobacterium tuberculosis* is less likely to acquire pathogenic mutations during latent infection than during active disease. *Microbiol Spectr.* 2024 Jul; 12(7): e04289-23
- 26) 高田利香, 庄司裕都, 西田伸子, 木下優, 高橋佑介, 平井佑治, 山本香織, 山口貴弘, 永井仁美: 冷却塔からの曝露が示唆されたレジオネラ症集積事例を経験して(第2報) ~検査対応および分子疫学的解析について~. *病原微生物検出情報* 2024; 45(7): 116-117.
- 27) Sagisaka Y, Ishibashi M, Hosokawa D, Nakagawa H, Yonogi S, Minami K, Suzuki Y, Ogawa T, Ukimura A, Nakano T,

- Komano J & The C. difficile Molecular Epidemiology Network of Japan. Regional and temporal genotype profiling of *Clostridioides difficile* in a multi-institutional study in Japan. *Scientific Reports* 2024; 14, Article number: 21559
- 28) Jinnai M, Yamaguchi T, Minh D T N, Hoang O N, Le T H, Thanh P N, Hoai P H, Do P N, Van C D, Kumeda Y, Hase A, Nakayama T. Edible river fish-derived extended-spectrum β -lactamase (ESBL)-producing Enterobacterales harboring transferable plasmids encoding *bla*_{CTX-M-15}, *bla*_{CTX-M-27}, and *bla*_{CTX-M-55}. *One Health* 2024; 18, 100685. doi. 10.1016/j.onehlt.2024.100685.
- 29) Jinnai M, Yamaguchi T, Minh D T N, Hoang O N, Thi H L, Thanh P N, Hoai P H, Do P N, Van C D, Kumeda Y, Hase A, Nakayama T. ESBL-producing *Atlantibacter hermannii* harboring a plasmid encoding IS26 up and down stream of *bla*_{CTX-M-27}, *bla*_{LAP-2}, and *qnrS1* isolated from an edible river *Anabas testudineus* fish. *Microbiol. Resour. Announce.* 2024; 13 (6), e00056-24.
- 30) 土井健二, 山本香織, 田丸亜貴: 大阪府市間での結核菌分子疫学調査. 大阪健康安全基盤研究所研究年報. 第7号, 20-25, 2024
- 31) 田丸亜貴, 山本香織, 村瀬良朗, 岩本朋忠: 同一患者由来結核菌株・家族内感染事例由来結核菌株の全ゲノム一塩置換多型 (SNV) 解析. 病原微生物検出情報 2024; in press.
- 32) 足立参希, 田中鉄也, 中野祐樹, 小武和正, 若林友騎, 梅永真弓: Salmonella Johannesburg 菌血症が原因と疑われた化膿性脊椎炎および腸腰筋膿瘍の診断と治療に抗菌薬適正使用支援チーム担当薬剤師が貢献した1例. 医療薬学 2024; 50(11): 573-580.
- 33) Yasuoka K, Gotoh Y, Taniguchi I, Nagano DS, Nakamura K, Mizuno Y, Abe T, Ogura Y, Nakajima H, Uesugi M, Miura M, Seto K, Wakabayashi Y, Isobe J, Watari T, Senda S, Hayakawa N, Ogawa E, Sato T, Nanishi E, Sakai Y, Kato A, Miyata I, Ouchi K, Ohga S, Hara T, Hayashi T. Genome analysis of Japanese analysis of Japanese *Yersinia pseudotuberculosis* strains isolated from Kawasaki disease patients and other sources and their phylogenetic positions in the global *Y. pseudotuberculosis* population. *Microbiol. Immunol.* 2025; 1-9.
- 34) 谷口公啓, 野崎昌俊, 青木寿明, 清水義之, 岡本裕也, 塩見正司, 磯田賢一, 南川洋平, 大友志伸, 天羽清子, 山口貴弘, 河原隆二: マクロライド耐性百日咳菌を検出した大阪府の小児3例. 病原微生物検出情報 2025; 46(2): 42-43.

●ウイルス課

- 35) Shirai T, Phadungsombath J, Ushikai Y, Yoshikae K, Shioda T, Sakon N. Epidemiological Features of Human Norovirus Genotypes before and after COVID-19 Countermeasures in Osaka, Japan. *Viruses.* 2024; 22; 16(4):654. <https://doi.org/10.3390/v16040654>
- 36) Sasaki T, Morita R, Aoyama I, Baba T, Goto T, Kubota-Koketsu R, Samune Y, Nakayama E E, Shioda T, Shirano M. Dengue virus type 3 infection in a traveler returning from Costa Rica to Japan in 2023. *Tropical Medicine and Health.* 2024; 52: 50. <https://doi.org/10.1186/s41182-024-00620-5>
- 37) Kanbayashi D, Kurata T, Kaida Y, Miyoshi T, Okayama F, Kase T, Komano J, Takahashi K, Ikuta K, Motomura K. How to prevent rubella epidemics and congenital rubella syndrome: lessons from 42 years of longitudinal epidemiology in Osaka Prefecture, Japan (1982-2023). *Journal of Infectious Diseases.* 2025; 231(2): 440-450. <https://doi.org/10.1093/infdis/jiae402>
- 38) Koyama M, Hiroi S, Hirai Y, Kaida A. Prevalence of human adenovirus type 3 associated with pharyngoconjunctival fever in children in Osaka, Japan during and after the COVID-19 pandemic. *Japanese Journal of Infectious Diseases.* 2024; 77: 292-295. <https://doi.org/10.7883/yoken.JJID.2024.035>
- 39) Yamazaki K. Observations of the scoliid wasp *Campsomeriella annulata annulata* (Fabricius, 1793) foraging on

- fallen *Firmiana simplex* (L.) W.F.Wight. *Entomological Communications* 2024; 6: ec06034
- 40) Tanaka H, Takahashi Y, Matsumoto S, Matsuyama M, Nakayama K, Kodaira H, Kubota Y, Kawakami J, Kurata T, Kanbayashi D, Motomura K. Shorter incubation period in symptomatic measles patients who had no history of measles vaccination. *Vaccine*. 2025; 45: 126652.
- 41) Kozuki M, Tanaka S, Shirai T, Sakon N, Harada S, Kitagawa A, Matsushima K, Abe Y, Fukutake N, Hasegawa H, Yamamoto S, Sakakibara Y, Sakamori R. A case of post-outbreak acute hepatitis a in a Japanese man who have sex with men infected with RIVM-HAV16-090 strain. *J Infect Chemother*. 2025; 31(4): 102673. doi: 10.1016/j.jiac.2025.102673.
- 42) Tamiya S, Matsumoto N, Kurokawa S, Nakamura Y, Takahashi Y, Sakon N, Inoue M, Koike Y, Uchida K, Yuki Y, Ushijima H, Kiyono H, Sato S. H and B blood antigens are essential for in vitro replication of GII.2 human norovirus. *Open Forum Infect Dis*. 2024;12(1):ofae714. doi: 10.1093/ofid/ofae714. eCollection 2025 Jan.
- 43) Mizukoshi F, Kimura R, Shirai T, Hirata-Saito A, Hiraishi E, Murakami K, Doan YH, Tsukagoshi H, Saruki N, Tsugawa T, Kidera K, Suzuki Y, Sakon N, Katayama K, Kageyama T, Ryo A, Kimura H. Molecular Evolutionary Analyses of the RNA-Dependent RNA Polymerase (RdRp) Region and VP1 Gene in Sapovirus GI.1 and GI.2. *Microorganisms* 2025;13(2):322. doi: 10.3390/microorganisms13020322.
- 44) 今村顕史, 土屋菜歩, 生島嗣, 今井光信, 大木幸子, 加藤眞吾, 川畑拓也, 城所敏英, 近藤真規子, 貞升健志, 佐野貴子, 須藤弘二. *保健所等における HIV 検査・相談のガイドライン 第5版* (令和6年3月版).
- 45) 馬場孝. 魚介類に寄生するアニサキスによる食中毒. *バムサジャーナル*. 2024; 36(2): 18-22.
- 46) 青山幾子. ヒトにうつるマダニ媒介感染症. *バムサジャーナル*. 2024; 36(3): 3-7.
- 47) 浮村聡, 川畑拓也, 駒野淳, 中山章文, 小川拓, 松尾宏一, 中野貴文, 榎屋友幸, 朝井章, 大井一弥, 松元一明, 磯邊浩和, 金本大成, 斎藤あつ子, 長野基子, 安武夫, 江頭伸昭, 山田孝明, 松元加奈, 西村信弘, 西圭史, 花井雄貴, 継田雅美, 山本武人, 山口諒, 高橋雅弘, 山崎伸吾. 感染症学 (1版) *Essential Knowledge and Skills*. 南山堂 2025年2月; ISBN 978-4-525-23981-7.
- 48) 森川佐依子, 大塚真紀, 阿部仁一郎. 大阪府内における 2023/2024 シーズンのインフルエンザ流行状況. *大阪健康安全基盤研究所研究年報*. 2024; 8: 26-35.
- 49) 青山幾子, 山元誠司, 馬場孝, 池森亮, 横田正春, 弓指孝博, 山崎一夫. 大阪府内における蚊媒介ウイルス感染症に対するサーベイランス調査 (2023年度). *大阪健康安全基盤研究所研究年報*. 2024.; 8: 36-46
- 50) 牛飼裕美, 白井達哉, 山崎笑子, 左近直美. 大阪府の食中毒疑い事例におけるヒトノロウイルスの検出状況と遺伝子解析 (2023年度). *大阪健康安全基盤研究所研究年報*. 2024; 8: 56-64.
- 51) 椎野禎一郎, 瀧永博之, 今橋真弓, 渡邊大, 南留美, 蜂谷敦子, 西澤雅子, 林田庸総, 吉田繁, 豊嶋崇徳, 伊藤俊広, 古賀道子, 貞升健志, 佐野貴子, 宇野俊介, 谷口俊文, 猪狩英俊, 寒川整, 中島秀明, 吉野友祐, 堀場昌英, 茂呂寛, 渡邊珠代, 阪野文哉, 川畑拓也, 藤井輝久, 高田清式, 中村麻子, 仲村秀太, 松下修三, 吉村和久, 杉浦互, 菊地正, 薬剤耐性 HIV 調査ネットワーク. 国内 HIV-1 伝播クラスターの 2022 年の動向: 薬剤耐性 HIV 調査ネットワークによる SPHNCS 年報 (2024). *日本エイズ学会誌* 2024; 26: 139-150.
- 52) 川畑拓也, 阪野文哉, 浜みなみ, 長島真美, 河上麻美代, 貞升健志, 佐野貴子, 加藤眞吾, 須藤弘二, 近藤真規子, 今村顕史. 地方衛生研究所における HIV 確認検査に関するアンケート調査結果. *病原微生物検出情報 (IASR)* 2024; 45: 165-166.
- 53) 本村和嗣, 柿本健作, 入谷展弘, 倉田貴子, 上林大起, 改田厚, 森川佐依子, 廣井聡, 平井有紀, 小山芽以, 阿部仁一郎, 三好龍也, 水谷英揮, 小林仁美, 福田弘美, 松本一美, 西野裕香, 梶川智洋, 坂本愛, 吉田英樹, 中山浩二, 廣川秀徹, 國吉裕子, 齊藤武志, 藤井史敏, 康莉瑛, 山中八重, 松本小百合, 浅田留美子, 宮園将哉, 柴田敏之, 田邊雅章, 大槻紀之. 2024年に経験した輸入症例を起点とした大阪府内の麻疹広域集積事例の疫学および分子疫学解析. *病原微生物検出情報 (IASR)* 2024; 45: 224-225.

- 54) 中田恵子, 前田和穂, 三好龍也, 荻美貴, 谷本佳彦, 大西優伽, 松浦侑輝, 山本紗也, 千葉翔子. CODEHOP VP1 RT-semi-nested PCR の原法と変法によるエンテロウイルスおよびライノウイルス遺伝子検出の比較検討. *病原微生物検出情報 (IASR)* 2024; 45: 226-228.
- 55) 前田和穂, 中田恵子, 阿部仁一郎. 大阪府におけるエンテロウイルス感染症の流行状況と分子疫学的解析 (2023年度). *大阪健康安全基盤研究所研究年報* 2024; 8: 47-55.
- 56) 花岡希, 高橋健一郎, 村上耕介, 吉見逸郎, 関なおみ, 齋藤智也, 岩館樹里, 青木順子, 高橋久美子, 高橋美帆, 廣井聡, 山木戸聡, 笠純華, 金子久俊, 佐野貴子, 稲田貴嗣, 松浦侑輝, 森愛, 谷本佳彦, 和田美江子. 重症急性呼吸器感染症アウトブレイクと関連するアデノウイルス B 種 14p1 型の日本で初めての探知と拡大への注意喚起. *病原微生物検出情報 (IASR)* 2025; 46.
- 57) 大瀨侑季, 矢原耕史, 志牟田健, 高橋英之, 吉田愛, 森田昌知, 川畑拓也, 安田満, 大西真, 明田幸宏. 新型コロナウイルス感染症流行前後における *Neisseria gonorrhoeae* の系統変化及び薬剤感受性の解析. *日本性感染症学会誌* 2024; 35(4): 79-86.
- 58) 左近直美. 感染症対策最前線の現場から - 衛生研究所での電顕活用. *Scientific Instrument News*. 2024; 67 (2).
- 59) 左近直美, 中村昇太. 下水からの病原体検出. *関西実験動物研究会会報*. 2024; 42: 1-3.

●食品安全課

- 60) Ogino H., Murano K., Okuno T., Ueno H. Relationship between Serum Concentrations and Muscular Expressions of Selenoproteins on Selenium-Supplemented Insulin Resistance Mouse Model. *Biol. Pharm. Bull.*, 2024; 47: 1000-1007.
- 61) 野村千枝, 柿本葉, 山口瑞香, 藤原拓也, 徳永佑亮, 山崎朋美, 新矢将尚. 溶媒抽出 - 固相精製および HPLC による食品中の保存料 8 種類の分析法の検討. *日本食品化学学会誌*, 2024; 31(2): 54-64.
- 62) 油谷藍子. 妊娠適齢期の女性の魚介類摂取について. *食と医療*, 2024; 30: 57-63.
- 63) 野村千枝, 柿本葉, 寺谷清香, 新矢将尚. 食品中の *tert*-ブチルヒドロキノン (TBHQ) 分析法の妥当性確認. *日本食品化学学会誌*, 2024; 31(3): 90-96.
- 64) 新矢将尚. 食品添加物の安全性確保の取り組み. *大阪保険医雑誌*. 2024; 52(699): 12-15.
- 65) 岸映里, 尾崎麻子, 新矢将尚. 食品用ラミネートフィルムに含まれる金属類の溶出. *食品衛生学雑誌*. 2024; 65(6): 142-153.
- 66) 柿本幸子, 清田恭平, 平田祥太郎, 村上太郎, 藤原拓也, 村野晃一, 宮本京子, 高取聡, 新矢将尚: 保存料における測定条件の検討. *大阪健康安全基盤研究所研究年報*. 2024, 65-70.
- 67) 柿本葉, 野村千枝, 山口瑞香, 新矢将尚: LC-MS/MS による着色料検出法の検討. *大阪健康安全基盤研究所研究年報*. 2024, 71-78.
- 68) Tokunaga Y., Wakabayashi Y., Yonogi S., Yamaguchi N. Rapid quantification of *Escherichia coli* O157:H7 and *Salmonella* Typhimurium in lettuce using immunomagnetic separation and a microfluidic system. *Biol. Pharm. Bull.*, 2024; 47: 1931-1936.
- 69) Fujiwara T., Fukui N., Furuta M., Takatori S. Detection of exposure to sprout-inhibiting radiation doses in onions via 5,6-dihydrothymidine quantification using ultrasonication-mediated DNA extraction. *Journal of Radioanalytical and Nuclear Chemistry*, 2025; 334: 595-602.
- 70) Kakimoto S., Yoshimitsu M., Kakutani N. Simple and rapid analytical method for the determination of methylmercury in fish and shellfish using solid-phase extraction and gas chromatography-mass spectrometry. *Journal of Chromatography B*, 2025; 1250: 124383.

●食品化学課

- 71) Shoda J., Yokoyama M., Yoshida W., Matsui H., Sugimori R., Kishi R., Kitagawa Y. Theoretical study on the correlation between open-shell electronic structures and third-order nonlinear optical properties in one-dimensional chains of π -radicals. *The Journal of Physical Chemistry A*, 2024;128: 8473-8482.
- 72) 平田祥太郎, 仲谷正, 山口進康, 星英之. HPLCによるジビエを対象とした残留クロピドール試験法の妥当性確認. *日本食品化学学会誌*, 2024; 31(1): 35-40.
- 73) 平田祥太郎: 合成抗菌剤オキソリニック酸の食品残留基準について. *大阪府獣医師会報*, 2024; 75: 7-11.
- 74) 平田祥太郎: これまで検査困難であった食品を対象とした残留農薬および動物用医薬品の試験法開発. *大阪健康安全基盤研究所研究年報*, 2024; 8: 122-123.

●医薬品課

- 75) 中村暁彦, 武田章弘, 川口正美, 土井崇広, 田上貴臣. 染毛試験に使用するJIS白布(毛)の代替資材の調査. *日本化粧品学会誌* 2024; 48(2): 78-81.
- 76) Azuma Y., Doi T., Asada A., Tanaka M., Tagami T., Synthesis and structure determination of a synthetic cannabinoid CUMYL-THPINACA metabolite with differentiation between the *ortho*-, *meta*-, and *para*-hydroxyl positions of the cumyl moiety. *Drug testing and analysis*, 2024; 16(4): 348-358.
- 77) Takeda A., Doi T., Asada A., Yuzawa K., Nagasawa A., Igarashi K., Maeno T., Suzuki A., Shimizu S., Uemura N., Nakajima J., Suzuki T., Inomata A., Tagami T., The biological effects and thermal degradation of NPB-22, a synthetic cannabinoid. *Forensic Toxicol.*, 2024; 42: 142-151.
- 78) 阪井貴之, 浅田安紀子, 東雄貴, 田中未紗, 土井崇広, 田上貴臣. 瘦身効果を標榜するいわゆる健康食品からビンホセチンを検出した事例. *大阪健康安全基盤研究所研究年報* 2024; 8: 79-86.
- 79) 田上貴臣, 石田晃大, 石原理恵, 植松猛, 大井逸輝, 岡坂衛, 河端昭子, 谷手紗也香, 葛原稜太, 西尾雅世, 山本豊, 横倉胤夫, 吉川舜, 北澤尚, 熊谷健夫, 吉松嘉代, 伊藤美千穂, 酒井英二, 森川敏生, 松田久司. インヨウカクについて: HPLCによるイカリイン分析法の検討と市場品及び採取品の分析. *生薬学雑誌* 2025; 79(1): 1-11.

●生活環境課

- 80) 吉田俊明, 味村真弓, 左近直美. 在宅中の子どもにおける2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタンジオールモノイソブチレートおよび2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタンジオールジイソブチレートの摂取量の推定. *室内環境*, 2024; 27(1): 9-22.
- 81) 吉田仁, 安達史恵. 水質検査における外部精度管理(2022年度)—銅及びその化合物—. *大阪健康安全基盤研究所研究年報*, 2024; 8: 87-93.
- 82) 小泉義彦, 長谷川有紀, 高取聡. 水質検査における外部精度管理(2022年度) - ホルムアルデヒド -. *大阪健康安全基盤研究所研究年報*, 2024; 8: 94-99.
- 83) 肥塚利江, 小泉義彦, 小池真生子, 大山正幸, 高取聡. 大阪府における環境および食品中放射能調査(令和5年度報告). *大阪健康安全基盤研究所研究年報*, 2024; 8: 100-108.
- 84) Gomi R, Adachi F. Quinolone Resistance Genes qnr, aac(6)-Ib-cr, oqxAB, and qepA in Environmental *Escherichia coli*: Insights into Their Genetic Contexts from Comparative Genomics. *Microb Ecol.* 2025 Feb 17;88(1):6
- 85) 枝川亜希子, 小池真生子, 井上浩章, 縣邦雄, 杉山順一, 安齋博文, 前川純子, 泉山信司. レジオネラ外部精度管理の現状. *国立感染症研究所病原微生物検出情報(IASR)*, 2024; 45: 120-122.

学 会 発 表

●健康危機管理課

- 1) 関雅之, 廣井聡, 森川佐衣子, 阿部仁一郎, 倭正也, 本村和嗣: SARS-CoV-2 従来株とアルファ株のスパイクタンパク質における多様性解析. 第 98 回日本感染症学会学術講演会, 神戸市 (2024)
- 2) 皐月由香, 三山豪士, 神谷元, 島田智恵, 砂川富正: 百日咳における血清疫学データを用いた実効再生産数の検討. 第 28 回日本ワクチン学会, 名古屋市 (2024)
- 3) 山中靖貴, 柿本健作, 西田陽子, 鶴飼友彦, 西尾孝之, 後藤薫, 皐月由香, 三山豪士, 入谷展弘, 本村和嗣: 2023 年大阪府における感染症発生動向. 令和 6 年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部第 39 回疫学情報部会研究会, 大阪市 (2024)

●疫学解析研究課

- 4) 三山豪士, Thein Min Swe, Hao-Hsuan Olivia Lin, 澤井宏太郎, 岡田雄大, 西浦博: 2015-2016 年にアンゴラで発生した黄熱流行におけるワクチン接種と刺咬対策の後ろ向き評価. 第 35 回日本疫学会学術総会, 高知県 (2025)
- 5) 三山豪士, 西浦博. コロナ禍における大阪府内の地域間移動量と RS ウイルス感染の空間的拡散の分析. 第 95 回日本衛生学会学術総会, さいたま市 (2025)
- 6) 清水悠路, 有馬和彦, 野口優子, 佐々木なぎさ, 山梨啓友, 川尻慎也, 林田直美, 前田隆浩. GDF-15 の影響を考慮した就寝前間食と動脈硬化の関係. 第 85 回日本生理人類学会大会, 東京都 (2024)
- 7) 中山清子, 村木功, 川崎良, 安岡美佳子, 陣内裕成, 山岸良匡, 羽山実奈, 北村明彦, 清水悠路, 今野弘規, 磯博康. 握力と特定健康診査の検査項目を用いた歩行速度低地の予測モデルの検討: 横断研究. 第 83 回日本公衆衛生学会総会. 札幌市 (2024)
- 8) 駒橋玲子, 野田愛, 丸山広達, 山岸良匡, 今野弘規, 村木功, 清水悠路, 大平哲也, 木山昌彦, 岡田武夫, 磯博康, 谷川武. 肉類摂取量と循環器疾患発症との関連について: CIRCS 研究. 第 83 回日本公衆衛生学会総会. 札幌市 (2024)
- 9) 古川結唯, 丸山広達, 宮崎さおり, 山岸良匡, 今野弘規, 清水悠路, 村木功, 大平哲也, 岡田武夫, 木山昌彦, 磯博康. 米飯の摂り方と虚血性心疾患発症に関するコホート内症例対照研究: CIRCS 研究. 第 83 回日本公衆衛生学会総会. 札幌市 (2024)
- 10) 齋藤治輝, 長尾匡則, 白井こころ, 江口依里, 舟久保徳美, 山岸良匡, 清水悠路, 村木功, 今野弘規, 南里妃名子, 宮地元彦, 村上晴香, 木山昌彦, 磯博康, 大平哲也. 起床時刻と腸内細菌叢の関連: CIRCS 研究. 第 83 回日本公衆衛生学会総会. 札幌市 (2024)
- 11) 清水悠路, 佐々木なぎさ, 本田瑛子, 吉田知克, 本村和嗣. 喫煙とヘモグロビン及び身長低下の関係の解明. 第 83 回日本公衆衛生学会総会. 札幌市 (2024)
- 12) 吉田知克, 佐々木なぎさ, 本田瑛子, 清水悠路, 本村和嗣. 身長低下予防因子としてのヘモグロビンの検討. 第 83 回日本公衆衛生学会総会. 札幌市 (2024)
- 13) 吉田知克. The factors improve sleep quality among people with Asian flush in Osaka Prefecture. 第 48 回大阪府医師会医学総会. 大阪市 (2024)
- 14) 清水悠路. LDL コレステロールと CAVI. 第 6 回臨床血管健康研究会. 東京大田区 (2024)
- 15) 清水悠路. 身長低下リスクとしての「早食い」の検討. 地域医療協働センターフォーラム. 長崎県 (2025)
- 16) 清水悠路, 吉田知克, 佐々木なぎさ, 本田瑛子, 本村和嗣. アルコールフラッシュ及び飲酒習慣と自閉スペクトラム症との関係の解明. 第 95 回日本衛生学会学術総会, さいたま市 (2025)

●細菌課

- 17) 若林友騎, 齋藤悦子, 荻田堅一, 原田哲也, 山口貴弘, 河合高生, 押部智宏 大岡徹彦: 腸管病原性大腸菌 O45:H15 による食中毒事例の概要と分離菌株の遺伝学的解析, 第 97 回日本細菌学会総会, 札幌市 (2024)
- 18) 若林友騎, 原田哲也, 河合高生: 黄色ブドウ球菌およびアルジェンテウス菌のエンテロトキシン遺伝子を検出するリアルタイム PCR 系の構築, 第 45 回日本食品微生物学会学術総会, 青森県 (2024)
- 19) 空翔太, 児嶋浩一, 坂田淳子, 若林友騎, 西嶋駿弥, 関谷禎規, 岩本慎一, 田中耕一: O 抗原糖鎖のマススペクトルによる「糖鎖型判別法」の検討, 第 45 回日本食品微生物学会学術総会, 青森県 (2024)
- 20) 押川大起 児嶋浩一, 若林友騎, 西嶋駿弥, 坂田淳子, 関谷禎規, 岩本慎一, 田中耕一: アシッドショックプロテインをバイオマーカーとする MALDI-MS による腸内細菌目細菌の鑑別可能性検討, 第 45 回日本食品微生物学会学術総会, 青森県 (2024)
- 21) 若林友騎, 志村巖巳, 入江通子, 西嶋駿弥, 黒岩杏子, 熊井優子, 坂田淳子, 原田哲也, 河合高生: 肉用牛から分離された志賀毒素産生性大腸菌 O171 の分子疫学解析, 第 26 回腸管出血性大腸菌感染症研究会 / 第 17 回日本カンピロバクター研究会, 茨城県 (2024)
- 22) 志村巖巳, 若林友騎, 入江通子, 西嶋駿弥, 坂田淳子, 原田哲也, 梅川奈央, 河合高生, 黒岩杏子, 熊井優子: 肉用牛における志賀毒素産生性大腸菌、サルモネラ属菌及びカンピロバクター属菌の汚染実態と疫学調査, 第 26 回腸管出血性大腸菌感染症研究会 / 第 17 回日本カンピロバクター研究会, 茨城県 (2024)
- 23) 空翔太, 児嶋浩一, 若林友騎, 西嶋駿弥, 坂田淳子, 関谷禎規, 岩本慎一, 田中耕一: Asr をバイオマーカーとする E. albertii と E. coli の鑑別法に関する検討, 第 26 回腸管出血性大腸菌感染症研究会 / 第 17 回日本カンピロバクター研究会, 茨城県 (2024)
- 24) 志村巖巳, 入江通子, 黒岩杏子, 熊井優子, 西嶋駿弥, 若林友騎, 原田哲也: と畜牛から高率に分離された志賀毒素産生性大腸菌 O171 に係る疫学調査及び遺伝子解析等について (第 2 報), 令和 6 年度全国食肉衛生検査所協議会近畿ブロック会議, 大阪市 (2024)
- 25) 梅田薫, 鈴木道雄: MALDI-TOF MS を用いたカプノサイトファーガ感染症の薬剤耐性鑑別法および微生物同定法の構築, 第 36 回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 名古屋市 (2025)
- 26) 吉田萌恵, 山口瑞香, 若林友騎, 白石志帆, 河合高生: 食品中のセレウス菌嘔吐毒 (セレウリド) の産生性に関する検討, 第 45 回日本食品微生物学会学術総会, 青森県 (2024)
- 27) 山口貴弘, 安楽正輝, 山本香織, 土井健司, 原田哲也, 河原隆二, 池辺忠義, 河合高生: 大阪で分離した emm1 型レンサ球菌からの M1UK 株の検出について, 第 97 回日本細菌学会総会, 札幌市 (2024)
- 28) 山口貴弘, 河原隆二, 若林友騎, 松本悠希, 元岡大祐, 中村昇太, 中山達哉, 山本容正, 川津健太郎: 国産食肉から CHROMagar™ COL-APSE を用いて分離されたエロモナス属菌の分子疫学解析, 第 45 回日本食品微生物学会学術総会, 青森県 (2024)
- 29) 山本香織, 田丸亜貴, 康史朗, 小向潤, 井村元気, 浅野瑞穂, 和田崇之, 下内昭: 大阪市あいりん地域における結核分子疫学を用いた感染伝播状況の分析 (2011-20), 第 99 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会, 長崎県 (2024)
- 30) 山本香織, 田丸亜貴, 土井健司, 小向潤, 井村元気, 高橋峰子, 和田崇之: 大阪市における結核菌反復配列多型型別大規模データを用いた最近の結核感染伝播の追究, 第 83 回日本公衆衛生学会総会, 札幌市 (2024)
- 31) 高橋佑介, 中村寛海, 安富有紀, 吉田萌恵, 白石志帆, 松田由美恵, 梅川奈央, 岡山佐知子, 篠原利典: セレウス菌が検出された高野豆腐の調理工程における高度汚染要因の検討, 第 45 回日本食品微生物学会学術総会, 青森県 (2024)
- 32) 吉井健, 鈴木孝一朗, 細見晃司, 梅川奈央, 高橋佑介, 眞田喬行, 稲井優太, 河合高生, 川津健太郎, 川崎淳, 國澤純: ウエルシュ菌エンテロトキシンに対するイムノクロマトキットの開発, 第 45 回日本食品微生物学会学術総会, 青森県 (2024)

- 33) 白石志帆, 中村寛海, 梅川奈央, 高橋佑介, 松田由美恵, 吉田萌恵, 河合高生: 食品の衛生指標菌検査における自動生菌数測定装置 (TEMPO) の活用に向けた検討, 第 45 回日本食品微生物学会学術総会, 青森県 (2024)
- 34) 河原隆二, 山口貴弘, 若林友騎, 松本悠希, 元岡大祐, 中村昇太, 中山達哉, 山本容正, 川津健太郎: 国産食肉および家畜から分離した薬剤耐性大腸菌の系統解析, 第 97 回日本細菌学会総会, 札幌市 (2024)
- 35) 原直寛, 安達史恵, 井澤恭子, 山本かおり, 左近直美, 元岡大祐, 河原隆二: 公共下水から分離された IMI-2 型カルバペネマーゼ産生大腸菌の解析, 第 53 回薬剤耐性菌研究会, 三重県 (2024)
- 36) 安楽正輝, 山口貴弘, 元岡大祐, 白石志帆, 山本香織, 河原隆二, 中村昇太, 池辺忠義, 侵襲性 GBS 感染症の分離菌株を用いた全ゲノム解析およびヒト脳血管内皮細胞への接着性評価, 第 54 回レンサ球菌研究会, 大阪市 (2024)
- 37) 益田知可子, 藤田敦, 須藤ゆか, 今中洋子, 安楽正輝, 河原隆二, 大畑千佳, 家族内感染を繰り返し生じていた Panton-Valentine leukocidin (PVL) 産生 MRSA による再発性皮下膿瘍の 2 例, 第 123 回日本皮膚科学会総会, 京都市 (2024)
- 38) 安楽正輝, 河原隆二, 山口貴弘, 梅田薫, 医療機関との共同研究による PVL 産生性黄色ブドウ球菌の解析, 第 4 回地研現場の会, 東京都 (2024)
- 39) 安楽正輝, 水野真介, 足立翼, 奥野英雄, 笠井正志, 天羽清子, 河原隆二, ST22 型 PVL 産生黄色ブドウ球菌のゲノム解析, 第 56 回日本小児感染症学会総会・学術集会, 長崎県 (2024)
- 40) 外山久実佳, 谷口公啓, 大槻大, 岡本祐也, 安楽正輝, 河原隆二, 医療暴露歴のない小児に生じた MRSA による壊死性軟部組織感染症の 2 症例, 第 56 回日本小児感染症学会総会・学術集会, 長崎県 (2024)
- 41) 林優里, 佐藤優希, 大野卓也, 小野朱美, 庄野実希, 苛原誠, 七條光市, 森一博, 渡辺浩良, 安楽正輝, 河原隆二, 当院で経験した PVL 産生黄色ブドウ球菌による皮膚・軟部組織感染症, 第 162 回日本小児科学会徳島地方学術集会, 徳島県 (2024)
- 42) 安楽正輝: カルバペネム系薬を分解する AmpC 型 β -ラクタマーゼ, 第 36 回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 名古屋市 (2025)
- 43) 西嶋駿弥, 若林友騎, 安楽正輝, 余野木伸哉, 原田哲也, 畑中律敏, 日根野谷淳, 山崎伸二, 河合高生: 腸管出血性大腸菌のホスホマイシン感受性と薬剤耐性プラスミドの解析, 第 21 回日本小児消化管感染症・免疫アレルギー研究会, 大阪市 (2025)
- 44) 中村寛海, 野本竜平, 白石志帆, 山本香織, 和田崇之, 若林友騎, 河原隆二: 食中毒起因カンピロバクターの遺伝子型別と分離株の特徴, 第 21 回日本小児消化管感染症・免疫アレルギー研究会, 大阪市 (2025)
- 45) 平井佑治, 高橋佑介, 山本香織, 山口貴弘: mompS 領域の塩基配列多型に着目したレジオネラ・ニューモフィラの菌株スクリーニングについて令和 6 年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部細菌部会研究会, 堺市 (2024)
- 46) 平井佑治: 人工環境水から分離されたレジオネラ・ニューモフィラの全ゲノム比較解析, 第 36 回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 名古屋市 (2025)
- 47) 田丸亜貴, 山本香織, 岩本朋忠, 村瀬良朗: 結核再発事例・家族内感染事例の全ゲノム SNV 解析, 第 83 回日本公衆衛生学会総会, 札幌市 (2024)
- 48) 土井健司, 山本香織, 田丸亜貴: 大阪府市間における結核菌分子疫学調査, 第 83 回日本公衆衛生学会総会, 札幌市 (2024)

●ウイルス課

- 49) 大瀨侑季, 志牟田健, 中山周一, 森田昌知, 吉田愛, 高橋英之, 安田満, 川畑拓也, 大西真, 明田幸宏: 国内分離株における *Neisseria gonorrhoeae* の分子型別解析, 第 35 回日本臨床微生物学会学術集会, 横浜市 (2024)
- 50) 浜田信夫, 馬場孝, 荻野文敏: 男性の靴の方が女性の靴よりカビは多い? 日本菌学会第 68 回大会, 青森県 (ハイブリッド) (2024)
- 51) 阪野文哉, 浜みなみ, 小島洋子, 森治代, 川畑拓也, 菊地正: HIV 確認検査陽性検体における HIV 薬剤耐性変異と

- そのサブタイプ, 第37回近畿エイズ研究会学術集会, 大阪市 (2024)
- 52) 森田諒, 川畑拓也, 阪野文哉, 浜みなみ, 白野倫徳: RPR陰性を維持したが *Treponema pallidum* PCR検査により早期に診断し治療し得た, PLWHの早期梅毒第1期の1例, 第37回近畿エイズ研究会学術集会, 大阪市 (2024)
- 53) 青山幾子, 福盛達也, 山元誠司, 馬場孝, 池森亮, 弓指孝博: 紅斑熱群リケッチアも検出された SFTS 症例, 第31回ダニと疾患のインタフェイスに関するセミナー (SADI), 福井県 (2024)
- 54) 改田厚, 平井有紀, 山元誠司: 多項目ウイルス遺伝子同時検査と各工程のコントロール, 第4回地研現場の会, 東京都 (2024)
- 55) 森田諒, 川畑拓也, 浜みなみ, 阪野文哉, 白野倫徳: リアルタイムPCR検査により早期に診断し治療し得た早期梅毒第1期の1例, 第61回大阪市役所医師会学術集会, 大阪府 (2024)
- 56) 森田諒, 川畑拓也, 浜みなみ, 阪野文哉, 白野倫徳: リアルタイムPCR検査による定量的解析を基にした, 先天梅毒における梅毒トレポネーマ (*Treponema pallidum*) の感染動態に関する検討, 第61回大阪市役所医師会学術集会, 大阪府 (2024)
- 57) Tsuchihara K, Yamazaki K, Sugiura S, Inoue T, Takanashi T.: Morphology and sound responses of mechanosensilla in lepidopteran larvae, 27th International Congress of Entomology, Kyoto (2024)
- 58) 馬場孝: アニサキスが寄生しているマイワシの特徴, 令和6年度日本水産学会秋季大会, 京都市 (2024)
- 59) 阪野文哉, 浜みなみ, 川畑拓也: 大阪府域における HIV 感染の現状と大阪府域の HIV 検査体制, 第14回 AIDS 文化フォーラム in 京都, 京都市 (2024)
- 60) 改田厚, 平井有紀, 山元誠司, 影山努, 竹前喜洋: マイクロ流路チップを用いたエンテロウイルス D68 の高速遺伝子検出, 第65回日本臨床ウイルス学会学術集会, 名古屋市 (2024)
- 61) 倉田貴子, 上林大起, 改田厚, 森川佐依子, 廣井聡, 平井有紀, 小山芽以, 阿部仁一郎, 大槻紀之, 本村和嗣: Nucleoprotein 領域に変異を含む麻疹ウイルス検出に係る検査法改良と臨床応用, 第28回日本ワクチン学会・第65回日本臨床ウイルス学会合同学術集会, 名古屋市 (2024)
- 62) 白井達哉, Juthamas Phadungsombat, 牛飼裕美, 吉海江国仁, 塩田達雄, 左近直美: 大阪府において COVID-19 対策前後に検出されたヒトノロウイルスの分子疫学, 第71回日本ウイルス学会学術集会, 名古屋市 (2024)
- 63) 大内将司, 上林大起, 安楽正輝, 山田登美子, 清水亜紀子, 山内友恵, 倉田貴子, 本村和嗣: ワクチン接種者のシングル B 細胞より取得された風しんウイルス中和抗体, 第71回日本ウイルス学会学術集会, 名古屋市 (2024)
- 64) 阪野文哉, 浜みなみ, 川畑拓也, 大隈和, 高起良, 藤重夫, 竹田裕紀, 三浦清徳: 大阪府内自治体の HTLV-1 と感染症対策担当者を対象とした研修会とそのアンケート調査結果, 第10回日本 HTLV-1 学会学術集会, 東京都 (2024)
- 65) Tsuchida K, Urabe M, Baba T, Nishikawa K.: Intraspecific genetic variation of *Liolope copulans* Cohn, 1902, a digenean endemic to salamanders of the genus *Andrias*, in Japanese rivers: molecular evidence of absence of digeneans co-invaded with their hosts, 4th Philippine Symposium on Freshwater Biodiversity and Ecosystems, Philippin (2024)
- 66) 佐々木麻綾: 大阪府におけるトコジラミの殺虫剤抵抗性保有状況調査, 第36回日本環境動物昆虫学会年次大会, 大阪府 (2024)
- 67) 阪野文哉, 浜みなみ, 小島洋子, 森治代, 川畑拓也, 菊地正: HIV 確認検査陽性検体における HIV 薬剤耐性変異とサブタイプ, 第38回日本エイズ学会学術集会, 東京都 (2024)
- 68) 川畑拓也, 阪野文哉, 浜みなみ, 長島真美, 河上麻美代, 貞升健志, 佐野貴子, 近藤真規子, 須藤弘二, 加藤眞吾, 今村顕史: 地方衛生研究所における HIV 確認検査に関するアンケート調査結果, 第38回日本エイズ学会学術集会, 東京都 (2024)
- 69) 菊地正, 西澤雅子, 椎野禎一郎, 豊嶋崇徳, 伊藤俊広, 林田庸総, 湯永博之, 古賀道子, 長島真美, 貞升健志, 佐野貴子, 宇野俊介, 谷口俊文, 猪狩英俊, 寒川整, 中島秀明, 吉野友祐, 堀場昌英, 茂呂寛, 渡邊珠代, 今橋真弓, 蜂谷敦子, 松田昌和, 重見麗, 岡崎玲子, 岩谷靖雅, 横幕能行, 渡邊大, 阪野文哉, 川畑拓也, 藤井輝久, 高田清式, 中村麻

- 子, 南留美, 松下修三, 仲村秀太, 小島潮子, Lucky Runtuwene, 吉村和久, 杉浦 互: 2023年の国内新規診断未治療 HIV 感染者・AIDS 患者における薬剤耐性 HIV-1 の動向. 第 38 回日本エイズ学会学術集会, 東京都 (2024)
- 70) 土屋菜歩, 佐野貴子, 城所敏英, 川畑拓也, 貞升健志, 須藤弘二, 加藤眞吾, 大木幸子, 生島 嗣, 今井光信, 今村顕史: 保健所・検査所における HIV 検査・相談体制と実施状況および課題に関するアンケート調査, 第 38 回日本エイズ学会学術集会, 東京都 (2024)
- 71) 土屋菜歩, 佐野貴子, 城所敏英, 川畑拓也, 貞升健志, 須藤弘二, 加藤眞吾, 大木幸子, 生島嗣, 今井光信, 今村顕史: 保健所・検査所における梅毒検査実施状況および陽性率に関するアンケート調査, 第 38 回日本エイズ学会学術集会, 東京都 (2024)
- 72) 浜田信夫, 馬場孝: 靴の中のカビ相と季節変動, 2024 年室内環境学会学術大会 札幌市 (2024)
- 73) 阪野文哉, 浜みなみ, 川畑拓也, 中村幸生, 杉本賢治, 吉田光宏, 大隈和: 大阪府近郊の MSM における HTLV-1 平感染の検出, 日本性感染症学会第 37 回学術大会, 沖縄県 (2024)
- 74) 川畑拓也, 阪野文哉, 浜みなみ, 朝来駿一, 陰山朋久, 町登志雄: クリニックにおける MSM 向け HIV・性感染症検査キャンペーン 2023 年度実績報告, 日本性感染症学会第 37 回学術大会, 沖縄県 (2024)
- 75) 森田諒, 川畑拓也, 浜みなみ, 阪野文哉, 白野倫徳: リアルタイム PCR を用いた先天梅毒児における *Treponema pallidum* の感染動態に関する検討, 日本性感染症学会第 37 回学術大会, 沖縄県 (2024)
- 76) 左近直美, 白井達哉: ロタウイルスワクチンおよび COVID-19 によるロタウイルス疫学の変化, 第 21 回日本小児消化管感染症・免疫アレルギー研究会, 大阪市, (2025)

●食品安全課

- 77) 村上太郎, 寺谷清香, 高取聡, 新矢将尚: 甘味料検査の内部質管理についての検討, AOAC INTERNATIONAL JAPAN SECTION 第 27 回年次大会, 東京都 (2024)
- 78) 清田恭平, 吉光真人, 松井啓史: 固ゆで卵における鶏卵アレルギーの移行, 日本食品衛生学会第 120 回学術講演会, 愛知県 (2024)
- 79) 村上太郎, 村野晃一, 清田恭平, 昌山敦, 仲谷正: 遺伝子解析による魚種鑑別法の食中毒への対応事例について, 令和 6 年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部自然毒部会研究発表会, 兵庫県 (2024)
- 80) 岸映里, 尾崎麻子, 新矢将尚: 食品用ラミネート袋から溶出する金属類の分析, 日本食品衛生学会第 120 回学術講演会, 愛知県 (2024)
- 81) 國分文香, 中谷正樹, 大久保辰則, 金高秀成, 本部大輝, 水口 (深瀬) 智晴, 岸映里, 尾崎麻子: 化学的再生法により工業用フィルムから製造された飲料用 PET ボトルの安全性評価, 日本食品衛生学会第 120 回学術講演会, 愛知県 (2024)
- 82) 野村千枝, 柿本葉, 寺谷清香, 新矢将尚: 食品中の tert-ブチルヒドロキノン (TBHQ) 分析法の妥当性確認: 第 61 回全国衛生化学技術協議会年会, 堺市 (2024)
- 83) 油谷藍子, 村野晃一, 村上太郎, 新矢将尚: マイクロウェーブ分解-ICP-MS 法による食品中元素分析法の妥当性評価, 日本食品衛生学会第 120 回学術講演会, 愛知県 (2024)
- 84) 徳永佑亮, 若林友騎, 余野木伸哉, 山口進康: 免疫磁気分離法とマイクロ流路デバイスを用いたレタス中の 2 種の食中毒原因菌の同時迅速モニタリング法の開発, 日本薬学会第 145 年会, 福岡市 (2025)
- 85) 中尾賢志, 秋田耕佑, 浅川大地, 船坂邦弘, 尾崎麻子, 榎元慶子, 奥田哲士: 大阪市内浮遊粉じん中マイクロプラスチックの長期変動解析の試み, 環境技術学会第 24 回年次大会, 大阪市 (2024)
- 86) 柿本幸子, 吉光真人: QuEChERS 法を応用したメチル水銀の簡便・迅速な分析法の構築について, 第 7 回日本食品衛生学会近畿ブロック勉強会, 大阪市 (2025)

●食品化学課

- 87) 福井直樹, 藤原拓也, 古田雅一, 高取聡: 5,6-ジヒドロチミジン (DHdThd) を指標とした食品への照射履歴の検知 - 多様な動物性食品を対象とした DHdThd の生成量について -, 第 120 回日本食品衛生学会学術講演会, 愛知県 (2024)
- 88) 吉光真人, 清田恭平: 食用種子アレルゲンの分析法開発, 日本食品衛生学会第 120 回学術講演会, 愛知県 (2024)
- 89) 粟津薫, 山口進康: HPLC-FL を用いたベビーフード中生理活性アミン類の分析について, 第 120 回日本食品衛生学会学術講演会, 愛知県 (2024)
- 90) 平田祥太郎, 星英之: 梅加工飲料を対象とした残留オキシテトラサイクリン試験法の検討 - 食品中エタノールが回収率に与える影響 -, 第 120 回日本食品衛生学会学術講演会, 愛知県 (2024)
- 91) 平田祥太郎, 秋澤直仁, 荒木浩太, 寺澤宏樹, 山口進康: なし飲料を対象とした残留オキシテトラサイクリン試験法の妥当性確認 - 地方衛生研究所での抗生物質試験法の技術研修 -, 第 7 回日本食品衛生学会近畿ブロック勉強会, 大阪市 (2025)
- 92) 平田祥太郎, 秋澤直仁, 荒木浩太, 寺澤宏樹, 山口進康: 地方衛生研究所における抗生物質分析の研修指導 - なし飲料を対象とした残留オキシテトラサイクリン試験法の妥当性確認 -, 日 --- 本農薬学会第 50 回大会, 東京都 (2025)
- 93) 平田祥太郎, 仲谷正, 山口進康, 星英之: HPLC によるジビエを対象とした残留クロビドール試験法の開発, 日本食品化学学会 第 30 回総会・学術大会, 東京都 (2024)
- 94) 平田祥太郎, 星英之: 梅加工飲料を対象とした残留オキシテトラサイクリン試験法の検討, 令和 6 年度日本獣医公衆衛生学会 (近畿), 堺市 (2024)
- 95) 福井直樹, 藤原拓也, 高取聡, 古田雅一: 5,6-dihydrothymidine を指標とした照射食品検知法の実用化に向けた検証, 第 61 回アイソトープ・放射線研究発表会, 東京都 (2024)
- 96) 福井直樹, 藤原拓也, 高取聡, 古田雅一: 5,6-ジヒドロチミジンを指標とした電子線照射食品の電子線透過力検証の試み, 第 19 回放射線プロセスシンポジウム, 東京都 (2024)
- 97) 橘明甫, 香西春佳, 吾郷寧子, 山中俊嗣, 山本悠貴, 川部美沙, 三津橋嵩史, 玉井宥, 市川晴子, 大島秀基, 上村聖子: 同一出荷者の豚における抗菌性物質残留事例について, 第 42 回全国食肉衛生検査所協議会理化学部会総会・研修会, 神奈川県 (2024)
- 98) 吾郷寧子, 香西春佳, 橘明甫, 山中俊嗣, 山本悠貴, 川部美沙, 三津橋嵩史, 玉井宥, 市川晴子, 上村聖子: 同一出荷者の豚における抗菌性物質残留事例について, 令和 6 年度全国食品衛生監視員研修会, 東京都 (2024)
- 99) 仲谷正, 北口大毅, 中村実沙子, 山口進康: 二枚貝を対象としたテトロドトキシン (TTX) 含有量実態調査について: 第 61 回全国衛生化学技術協議会年会, 堺市 (2024)
- 100) 吉光真人, 益山知香, 山口進康: 飲料に含まれるアフラトキシン分析法の検討: 第 61 回全国衛生化学技術協議会年会, 堺市 (2024)

●医薬品課

- 101) 土井崇広: 大麻関連成分の標準品合成とその構造解析について, 第 61 回 全国衛生化学技術協議会年会, 堺市 (2024)
- 102) 浅田安紀子, 田中未紗, 土井崇広: 危険ドラッグとして乱用されるオピオイド系薬物の合成および受容体機能評価, 第 61 回 全国衛生化学技術協議会年会, 堺市 (2024)
- 103) 中村暁彦, 武田章弘, 川口正美, 土井崇広, 田上貴臣: 染毛試験の資材間における染色性の比較, 第 61 回 全国衛生化学技術協議会年会, 堺市 (2024)
- 104) 武田章弘, 浅田安紀子, 川口正美, 土井崇広, 田上貴臣: マトリックスライブラリを用いた医薬品成分の含有が疑われる健康食品の前処理法開発, 第 61 回 全国衛生化学技術協議会年会, 堺市 (2024)

- 105) 土井崇広, 阪井貴之, 浅田安紀子. リゼルグ酸水和物の結晶化と単結晶 X 線構造解析について, 日本薬学会第 145 年会, 福岡市 (2025)
- 106) 阪井貴之, 土井崇広. インダゾールカルボキシアミド型合成カンナビノイド合成中間体の単結晶 X 線構造解析と各結晶構造の比較, 日本薬学会第 145 年会, 福岡市 (2025)

● 生活環境課

- 107) 赤木航, 吉田仁, 小泉義彦, 高木総吉, 安達史恵, 長谷川有紀, 尾沼大輔, 玄番瑛子, 山口進康: 大阪府内の水道水等におけるアクリル酸およびヒドラジンの実態調査, 第 3 回環境化学物質合同大会, 広島市 (2024)
- 108) 伊藤朋子, 岩淵勝己, 戸渡寛法, 竹峰秀祐, 高木総吉, 八木正博, 吉野共広, 宮脇崇, 中島大介, 門上希和夫: LC-QTOFMS データ非依存型測定による国内河川水中の化学物質ターゲットスクリーニング, 第 3 回環境化学物質合同大会, 広島市 (2024)
- 109) 門上希和夫, 宮脇崇, 岩淵勝己, 戸渡寛法, 高木総吉, 八木正博, 吉野共広, 伊藤朋子, 竹峰秀祐, 会田祐司, 中島大介: LC-QTOF-MS の SWATH 測定データを用いた 10000 種の化学物質のサスペクトスクリーニング (1) —解析手法の開発—, 第 3 回環境化学物質合同大会, 広島市 (2024)
- 110) 門上希和夫, 宮脇崇, 岩淵勝己, 戸渡寛法, 高木総吉, 八木正博, 吉野共広, 伊藤朋子, 竹峰秀祐, 中島大介: LC-QTOF-MS の SWATH 測定データを用いた 10000 化学物質のサスペクトスクリーニング (2) —全国 10 河川調査結果—, 第 3 回環境化学物質合同大会, 広島市 (2024)
- 111) 小林憲弘, 土屋裕子, 高橋未来, 古川浩司, 安田恭子, 金井正和, 山崎貴子, 松沼孝行, 仲野富美, 緒方幸恵, 峯岸俊貴, 耳塚一正, 鶴田朋子, 杉浦愛野, 竹内謙太郎, 松澤悠, 北原健一, 中嶋京介, 高原玲華, 高木総吉, 川上和宏, 内山奈穂子: PFOS および PFOA 分岐異性体の定量誤差に関するバリデーション試験, 第 3 回環境化学物質合同大会, 広島市 (2024)
- 112) 高木総吉, 吉田仁, 味村真弓, 吉田俊明, 小林憲弘, 高取聡: 防水加工スプレー剤中に含まれる中性 PFAS の存在実態と環境負荷量について, 第 3 回環境化学物質合同大会, 広島市 (2024)
- 113) 吉田仁, 高木総吉, 小泉義彦, 安達史恵, 長谷川有紀, 谷口直生, 山本正人, 竹中凛代, 山口進康: 大阪府内浄水場におけるネオニコチノイドおよびジアミド系農薬の実態, 第 3 回環境化学物質合同大会, 広島市 (2024)
- 114) 高木総吉: 水質スクリーニング分析の社会実装における課題と提言, LC-QTOF/MS を用いた水道水中農薬類のスクリーニング分析法の構築と課題, 環境科学会 2024 年会, 東京都 (2024)
- 115) 枝川亜希子, 余野木伸哉, 宮本比呂志: 環境中での自由生活性アメーバの存在が細菌量および細菌叢へ与える影響, 日本防菌防黴学会第 51 回年次大会, 東京都 (2024)
- 116) 小池真生子, 枝川亜希子: 環境衛生監視におけるモバイルリアルタイム PCR の活用に向けたレジオネラ属菌検出法についての検討, 日本防菌防黴学会第 51 回年次大会, 東京都 (2024)
- 117) Sokichi TAKAGI, Jin YOSHIDA, Mayumi MIMURA, Toshiaki YOSHIDA, Norihiro KOBAYSHI, Satoshi TAKATORI: Elucidating the environmental impact of neutral PFAS in waterproofing sprays in the Japanese market, SETAC North America 45th Annual Meeting, Fort Worth (2024)
- 118) 安達史恵, 原直寛, 井澤恭子, 山本かおり, 柿本健作, 左近直美, 元岡大祐, 河原隆二: カルバペネム耐性腸内細菌目細菌の大都市下水サーベイランスの試み. 第 53 回薬剤耐性菌研究会, 三重県 (2024)
- 119) 赤木航, 吉田仁, 小泉義彦, 高木総吉, 安達史恵, 長谷川有紀, 大嶋智子, 吉田顕二, 森山裕貴, 高取聡: 大阪府内浄水場における植物成長調整剤 5 種の実態調査, 第 61 回全国衛生化学技術協議会年会, 堺市 (2024)
- 120) 大嶋智子, 中村実沙子, 角谷直哉, 河上強志: 繊維製品中の家庭用品規制対象 3 防炎加工剤の LC-MS/MS 分析に関する検討, 第 61 回全国衛生化学技術協議会年会, 堺市 (2024)
- 121) 河相優子, 吉田仁, 赤木航, 池田道彦, 高木総吉: LC-MS/MS を用いた水道水および河川水中の人工甘味料分析法の検討, 第 61 回全国衛生化学技術協議会年会, 堺市 (2024)

- 122) 小泉義彦, 大嶋智子: 水素ガスを用いたガスクロマトグラフ-質量分析法による農薬類の分析, 第61回全国衛生化学技術協議会年会, 堺市 (2024)
- 123) 小泉義彦, 長谷川有紀, 玄番瑛子, 尾沼大輔, 上澤行成, 高取聡: 水質検査における外部精度管理-ホルムアルデヒド-, 第61回全国衛生化学技術協議会年会, 堺市 (2024)
- 124) 高木総吉, 吉田仁, 安達史恵, 小池真生子, 赤木航, 河相優子, 小林憲弘: LC-MS/MS および LC-QTOFMS を用いた PFAS スクリーニング分析法の構築, 第61回全国衛生化学技術協議会年会, 堺市 (2024)
- 125) 西以和貴, 吉富太一, 千葉真弘, 塩田寛子, 味村真弓, 吉田俊明, 高木総吉, 高居久義, 櫻木大志, 大野浩之, 河上強志: クレオソート油製品中の多環芳香族炭化水素類試験法改定に係る検討, 第61回全国衛生化学技術協議会年会, 堺市 (2024)
- 126) 味村真弓, 和田匡司, 那須正夫: 室内環境中の微小粒子の拡散と沈降に関する検討, 第61回全国衛生化学技術協議会年会, 堺市 (2024)
- 127) 吉田仁, 高木総吉, 安達史恵, 小池真生子, 赤木航, 河相優子, 土屋裕子, 小林憲弘: LC-QTOFMS を用いた水試料中農薬類スクリーニング分析法の定量精度の評価, 第61回全国衛生化学技術協議会年会, 堺市 (2024)
- 128) 吉田仁, 安達史恵, 長谷川有紀, 小泉義彦, 島野元伸, 吉田直志, 吉田顕二, 田中保子, 山本梨子, 森山裕貴: 水質検査における外部精度管理-塩化物イオン-, 第61回全国衛生化学技術協議会年会, 堺市 (2024)
- 129) 大嶋智子, 河上強志: 繊維製品中の防炎加工剤トリス (1-アジリジニル) ホスフィンオキシドの液体クロマトグラフ・タンデム質量分析計による分析法の検討, 日本薬学会第145年会, 福岡市 (2025)
- 130) 川崎直人, 安達史恵, 高木総吉, 石橋融子, 川元達彦, 北村壽朗, 鈴木俊也, 中村弘揮, 西村哲治, 森田久男: 水質試験法 特定酵素基質培地を用いた下水・汚水中大腸菌数の測定 (改訂), 日本薬学会第145年会, 福岡市 (2025)
- 131) 高木総吉, 小泉義彦, 川崎直人, 石橋融子, 川元達彦, 北村壽朗, 鈴木俊也, 中村弘揮, 西村哲治, 森田久男: 水質試験法 水素ガスを用いたパージ・トラップ-ガスクロマトグラフ-質量分析計による臭気物質の分析 (改訂), 日本薬学会第145年会, 福岡市 (2025)

事業年報（令和6年度） ISSN 2434-1134

令和7年7月

編集発行 地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所

〒537-0025 大阪市東成区中道1丁目3番3号

TEL 06-6972-1321（代）

<http://www.iph.osaka.jp>

印刷製本 株式会社フォーラムK

〒530-0013 大阪市北区茶屋町8-29

TEL 06-6292-1005